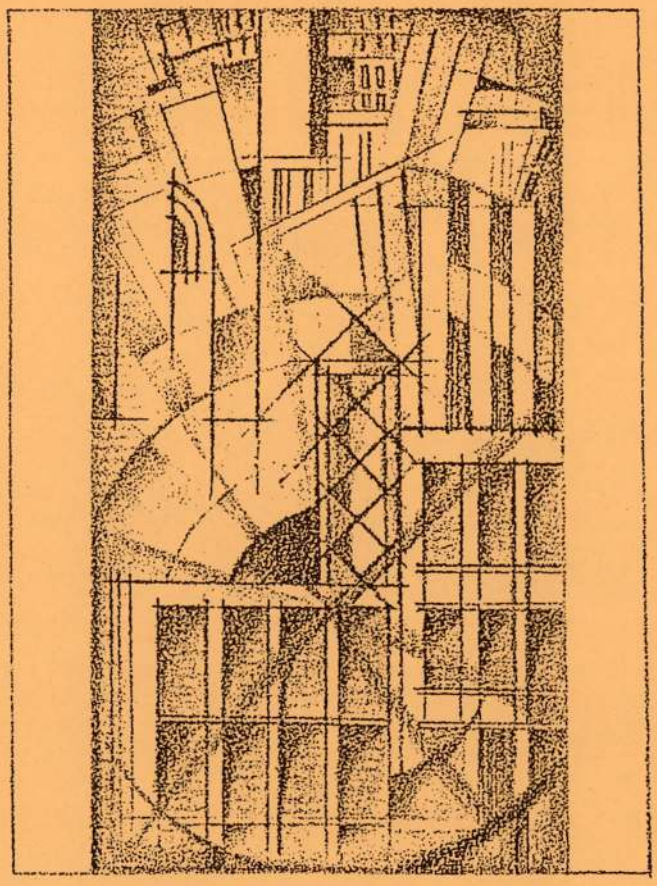
建築と社會

第八輯　第六號

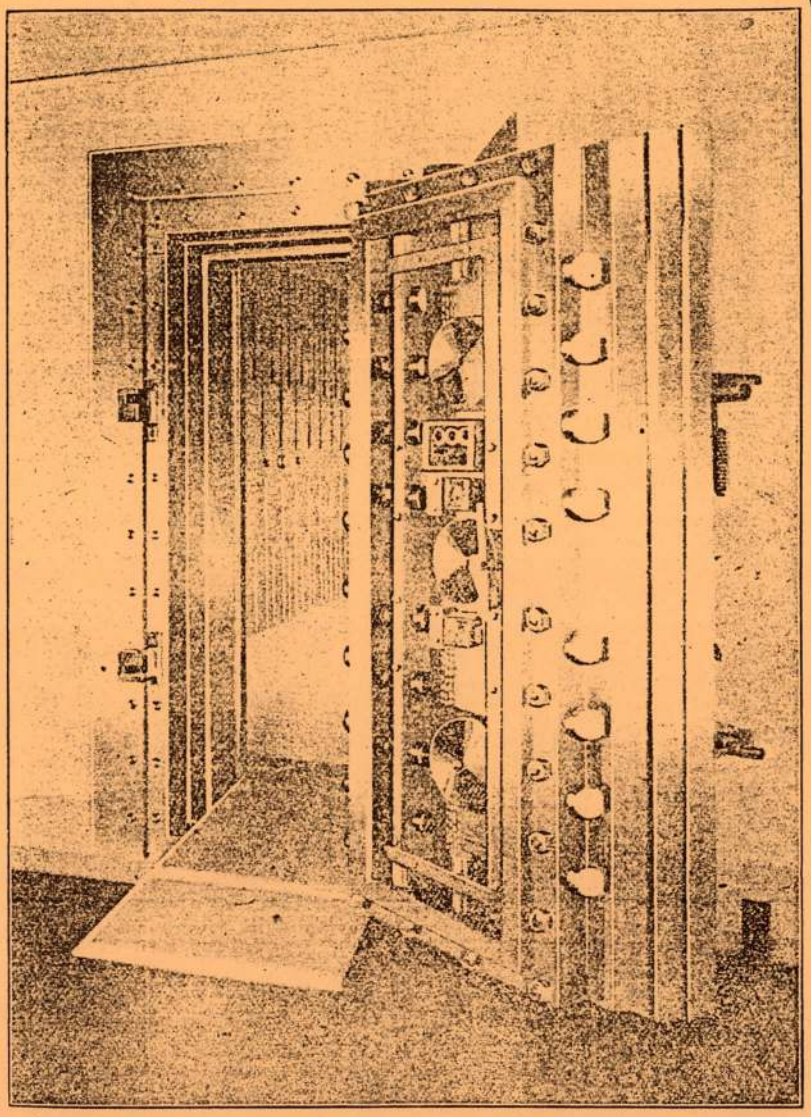


大正十四年六月一日

大谷製
金庫室扉



大谷金庫技師獨逸技師　アルフレッド、シュハルト



御注文の節は高さ、間口、奥行等寸法御指示被下候はば詳細圖面及見積提出仕候

東京　大谷金庫店　京橋區岡崎町二丁目
電話銀座三一三四番
振替東京二九九六番

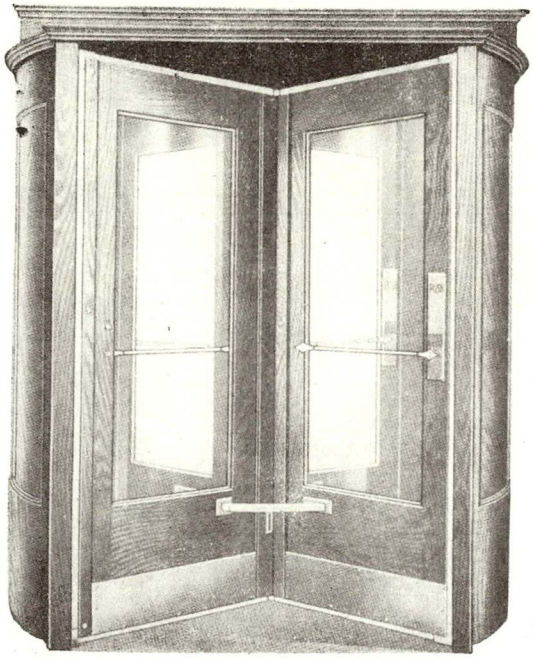
京都　大谷金庫店　杉原通東洞院東入
電話下（長五三二番）～一九〇番
振替大阪八六三三番

大阪　大谷金庫店　東區道修町四丁目北入（淀屋橋筋）
電話本局三九三四番
振替大阪八六三三番

神戸　大谷金庫店　楠町六丁目交叉點西
電話本局四八〇七番
振替大阪六〇九一番

回轉扉

米國ヴアンカンネル
レボルビングドアー
コムパニー製造



特徴

1. 煖房燃料ノ節約
2. 塵芥ノ防禦
3. 雜音ノ遮斷
4. 出入ノ整然
5. 換氣ノ良好
6. 耐久ノ堅牢
7. 體裁優美

其他一般建築ニ關スル

確實 次ノ附帶工事 嶄新

- ▲昇降機　A. B. See式 客及荷用昇降機、其他リフト竝コンベーヤー一般
- ▲煖房換氣　自動ガススチームラヂエーター、煖房裝置一般、キヤリアー式溫濕度調整裝置
- ▲氣動輸送　ラムソン式高壓及眞空氣動輸裝置、テムソン式ウアイアリングセージシステム
- ▲電氣工事　ガーランドチユーブ、ブライアントスキツチ、其他電氣配線工事一般
- ▲金庫扉　米國最古ノ歷史ヲ有セル、ハリングホールマルビン金庫及金庫扉

内田商事株式會社　大阪市北濱四丁目三〇

紐育　東京　神戸



繪口

●本野精吾氏新邸外觀
●同上內部の一端
●同上平面圖
●宇治に於ける日本建築協會大會一行の紀念撮
●映及電氣トロツコにて堰堤參觀
●山腹より宇治川水力電氣會社發電所の堰堤俯瞰

■「美」……（一）
■新聞の雜誌……（二）

◇

●木材饑饉と其對政策……市川三祿…（三）
●市民の理解を基調とする都市計畫……伊東俊雄…（七）
●文化本來の意義に就いて誤られつゝある文化の語義の解說……S・K生…（三）

◇

●水洗便所と汚物處理槽の關係及構造……澤部實之介…（二六）
●『セメント』の凝結及び硬化を生ずる變化……細木松之介…（三九）



八輯第六號目次

●剛節架構の彎曲力率解法考察と其研究(五)……大野直平…(四三)

◇

●新しき建築美……山崎萬壽夫…(三五)

●建築家の個性と時代……沼島草房…(五四)

◇

●兵庫縣下の古建築に就いて……菅田登美雄…(四七)

●日本建築協會春季大會參加記……R・S生…(五九)

創作 濕つた土地……あのにいむ…(六二)

■俳壇……溪舟選…(七二)

■俳話……溪舟…(七三)

■時事……(七三)

■建築材料値段表……(八五)

——附錄——

▲大阪市建築物法に依る地域……

THE

VITROLITE

"BETTER THAN MARBLE"



設計者赤石眞氏
施工當社

誇ルベキビトロライト
トのクリーンリネス

移轉御案內

拜啓　每々特別の御引立を忝し難有御禮申述候
扨當社今般業務擴張從來の店舗狹隘の爲め本月一日
より左記に移轉致候間此段御案內申上候　今後一層
專意勉强致御厚誼に酬度倍舊の御引立の程奉懇願候
尙店內ビトロライトの製品種々陳列致居候間御序の
節是非御立寄御批評願上候右御案內申上度如此御座
候

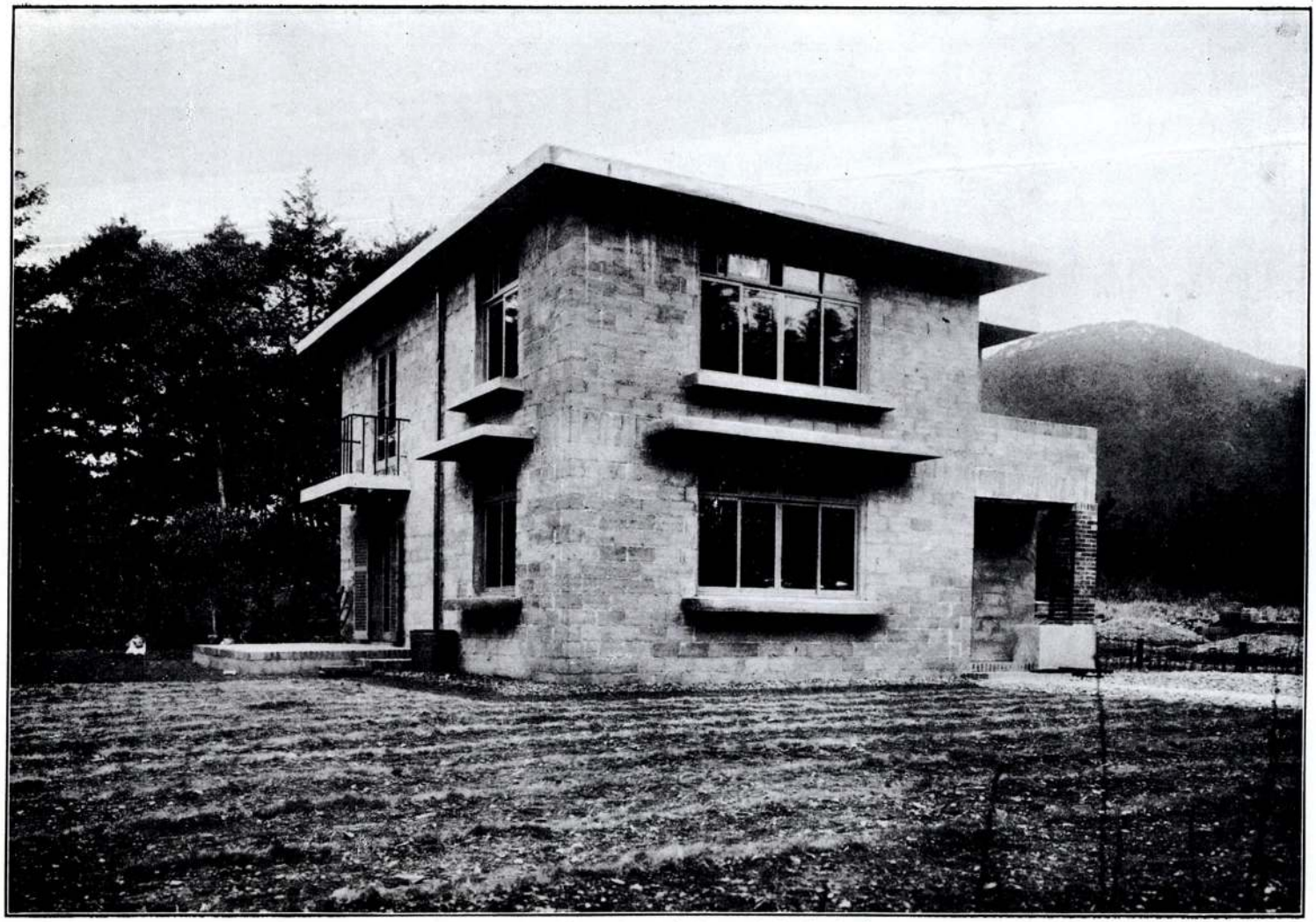
敬具

大阪ビトロライト工事合資會社

電話櫻川二二一四

浪速區櫻川町一丁目一〇五四地
住吉橋停留場前南側

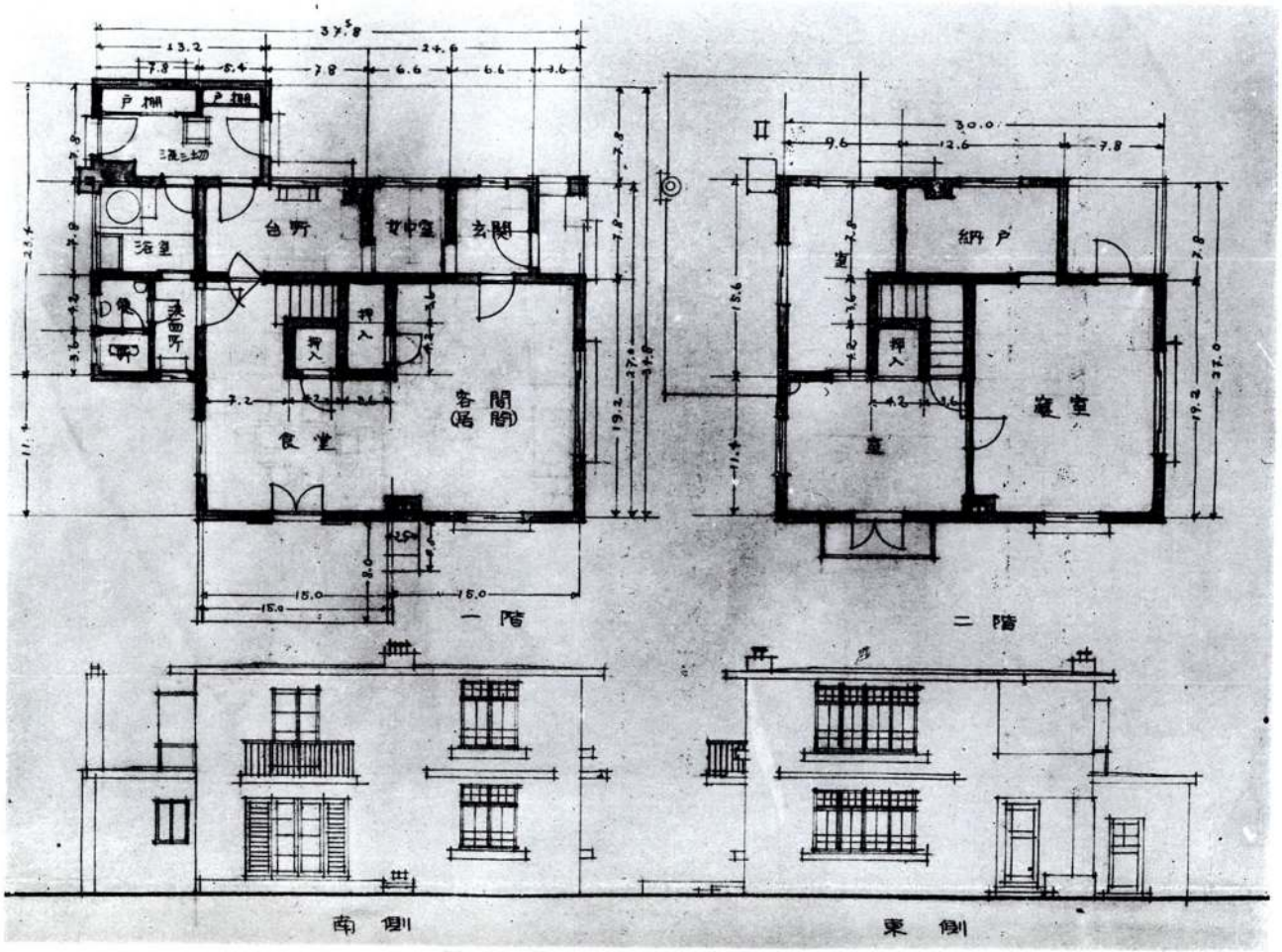
東京出張所
東京市日本橋區本材木町一丁目二三地
電話大手六七九五番



京都等持院における本野精吾氏の新邸



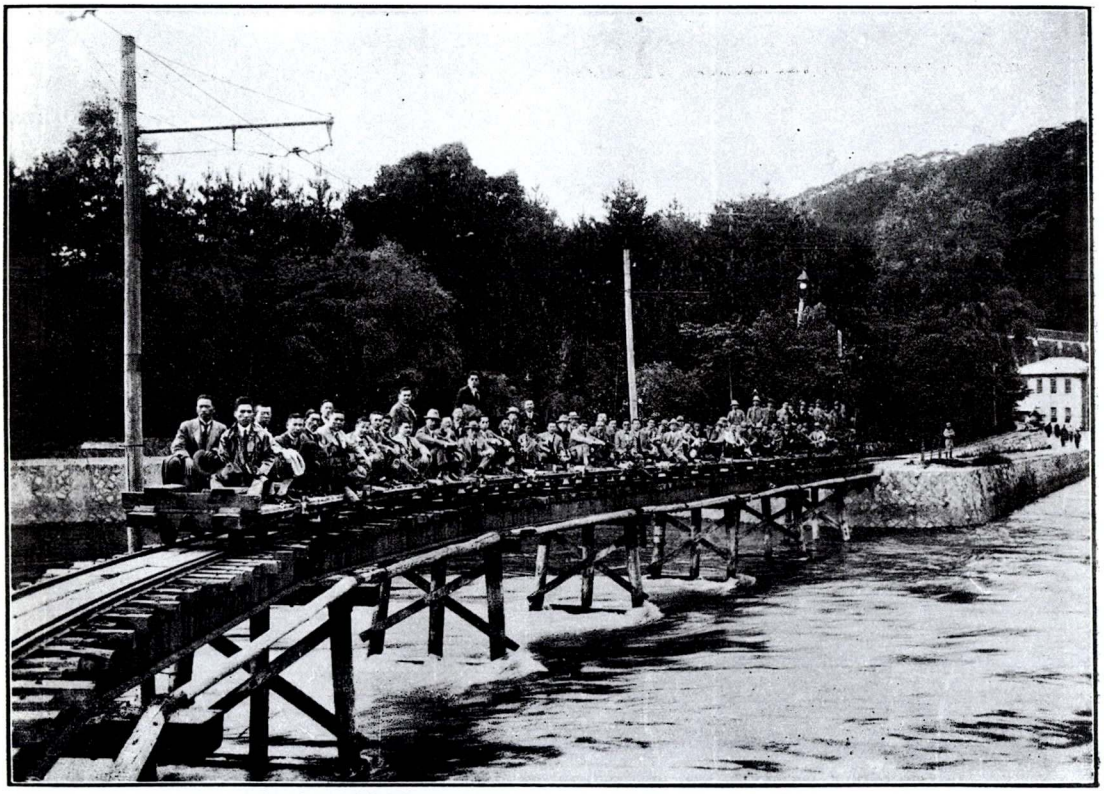
本野精吾氏新邸内部の一端



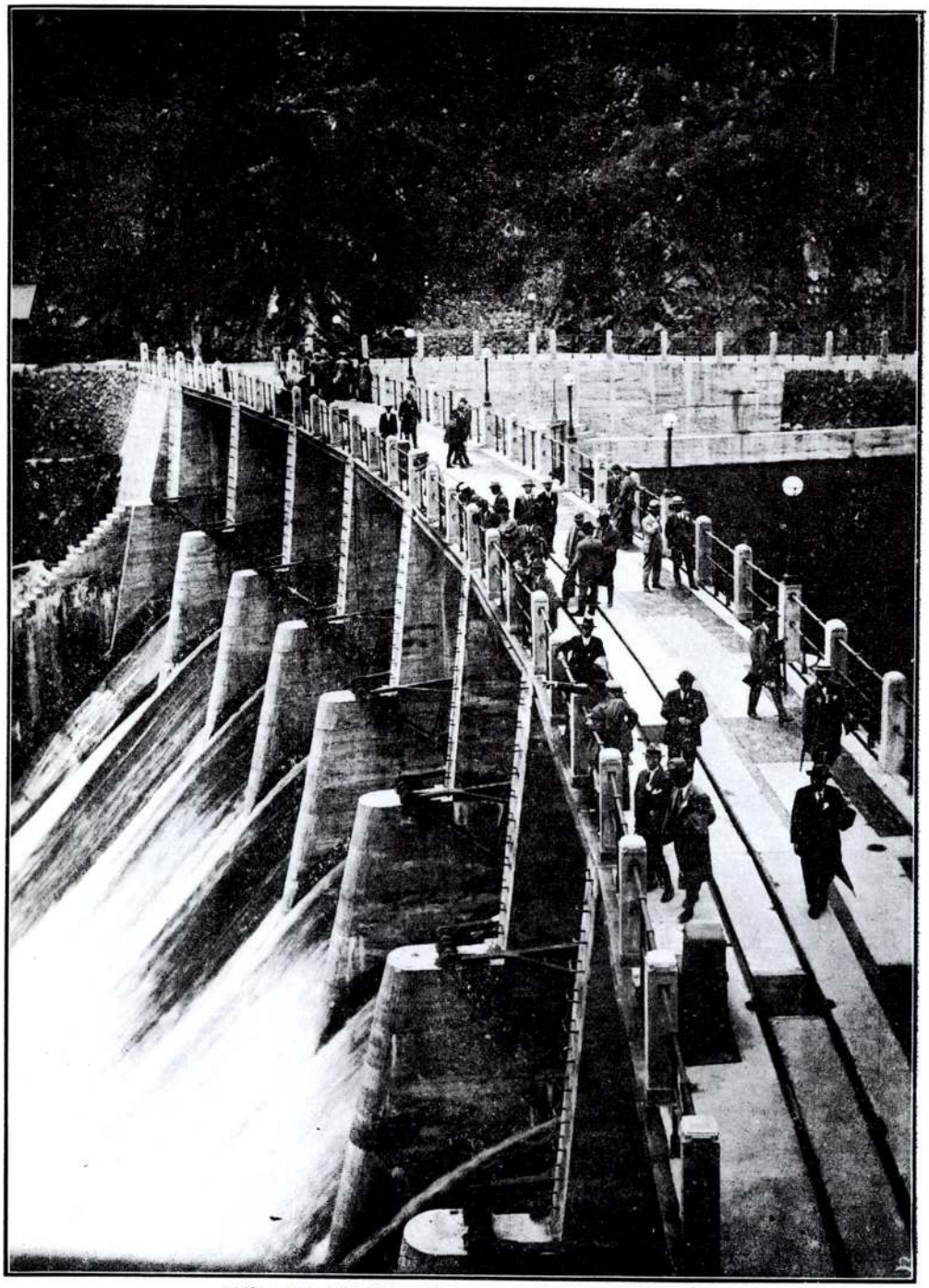
圖面平邸新氏吾精野木



大會一行晴明神社前に於ける紀念撮影



大會の一行電氣トロッコにて堰堤を參觀



宇治川水力電氣會社宇治川發電所の堰堤を山腹より俯瞰



『美』

氏チャーレス・ダーウヰンの「種の起源」Oligin of species は、その後進化論の分野が鮮明に成り廣くなるに連れて、相當矛盾もあり、訂正もあるようだが、何にしても、進化科學の曠野に齊然たる鋤鍬を印して後の進化論に基礎を與へたのは、氏ラマルクの「動物哲學」Philosophie zoologique と共に其の功績を歸せなければならぬ。而して多少の異論あるにしろ、「種の起源」から、我等の「美」に對する批判や憧憬に援用してよき面白い記述を摘むことが能る。その一つは「雌雄淘汰」の項下に於て、動物の美意識に關することである。曰く「多くの種の雄の間に、その啼聲によつて雌の心を惹かうとする最も激烈な競爭のあることは、このことに注意してゐる人はすべて信じてゐる。ギアナの岩つゝみや極樂鳥や、又はその他のものは集會をなし、雄は交々念を入れてその華々しい羽毛を展げて、出來るだけ得意の身振りを見せる。それ許りでなく、雌の目の前で奇妙な道化を演ずる。そして雌は暫くそれを見物してゐて、遂にその中で最も心を引く配偶者を選抜するのである。籠の中に入れられた鳥類を充分に注意してゐる人々は、鳥が往々個體的好愛と嫌悪とを示すことを知つてゐる。併し、人類がその美の標準に從つて、暫くの間にその矮鷄に美しい容色と端麗な容姿とを與へたとすれば(所謂人爲淘汰)雄は自分の美の標準によつて、幾千世代かの間に最も聲のいゝ、最も美しい雌を淘汰することによつて、甚しい効果を生じ得たことを今は疑ふべき理由を有たないのである」と。氏ギュイヨは、美的情緒の社會を説いた。氏ミュンスターベルヒは、美的價値を謂ふた。而してドクター・サンタナヤは、「美」の内容を解析した、其他、等、等。けれども、人間の「美」の標準は、動物のそれと、何處に徑庭があるのであらうか。たゞ、間違ひのないことは、兩者共に意識的と同時に、前者は遙に知的の一事である……(郊邨)

新聞の雜誌

全國の新聞紙より

家相鬼門說

▽住宅の設計を依頼せらるゝに當つて切實に感じます事は住に關する思想、智識が、他の一般科學に對するそれと甚だしく一致しない事であります、私共は外界の文化との調和、對抗上、父祖時代の迷信然かもその據つて來る處は支那の數千年前の三皇五帝の太古時代の生活法式を種々敷衍し、それに牽强附會の說をこぢつけ家相學なるものに全然とらわれ度ありません。建築家も家相、方位を考へます、これは住宅が生活の容器として必然伴ふべき諸般の缺くべからざる具體的條件によりてわり出された事で合理的な事柄のみであるに反し、家相家の說く處は何等私共が首肯し得べき理由を明かに證明さるゝ點がありません尤も前者の考へるところと後者の說くところとゞ體に於て一致して居る所もあります、然し相似て居るかと云つて是を信ずる理由にはなりません。家相方位で最も忌み嫌はれ甚だしく恐怖されるのは鬼門であります。

家相で方位を四門、四仲の八方に易の八卦を配し、乾(西北)坤(西南)巽(東南)艮(東北)兌(西)坎(北)と稱し、乾を天門、坤を人門、巽を風門、艮を鬼門と申しまして、鬼門は宅の雍なり、氣缺薄にして空荒なれば吉なり、之を犯せば偏枯淋腫の災あり、又鬼門は龍腹にして福囊なり、宜しく厚うして實重なるべければなり、缺薄なれば即ち貧窮すとあります。」なほ鬼門なるものの具體的說明には鬼門は東北の方に去る萬數萬里の地に山あり、それを度朔山と云ひ、その方に大なる桃樹がある蟠屈すること數十里、その卑枝が東北に向つてあつて、萬靈が此の處に出入する、この樹に神荼、鬱壘の二王鬼神が居て衆鬼を宰領して人間を殺伐するとあります、これが鬼門のあなり恐ろしい理由であります。」この恐ろしき鬼門の說の根本は何から起つて居るかと申しますと支那の「黃帝宅經」と稱する古い書物に出て居るのであります。黃帝何者か、又その時代を按へて見たらよいと思ひます。

支那三皇五帝の時代は吾が國の天神七代地神五代の時代にも比すべく有史以前むしろ神話時代に屬すべく、ゞなたも御存じの通り黃帝は五帝の一番最初の人で實在した人物とすれば當時未開の漢人種の酋長であります、その時代の人民の生活「宅」なるものは金石學者の說く處に依つて相像し得るのみでありますが今日滿洲あたりへ出稼に行く山東苦力が營む「かまぼこ小屋」(濕めらない場所を選んで巾四尺位深さ一尺五寸位の溝を掘り楊柳の枝で弓形の骨組を三尺間位に設け高粱であんだアンペラをかけだ半ば穴の小屋のこ)よりも數千年前に住居したものですから粗末な原始的なものであつた事は明かです。そんな半穴居人種の住宅哲學を以て今日の私共の住居の指針とするにはあまりに現代の文化と隔絕した思想と云はねばなりません。成の程鬼門即ち東北の方は光線の射入が他の向より少く從つて最も溫度の低い方向であるのは事實でありますから便所だとか浴室だとか井戶等水を使用して濕りがち設備は他の方向へむけたのが宜しい然しそれ等のものも今日の技術現代の材料を以てすれば衛生的にも何等の、都合を來たさない凡てを使用する處は不滲透性の耐水材料を以てすればよい便所の如きは水洗便所にして汚れ淨化裝置をすれば排洗物を流した水の下で極端に云へば洗濯するも害がない筈であります水洗便所の設備が出來なければ大正便所にすればよろしい便所すら何の方向に置いても衛生上にも設備次第で何等支障のない樣に出來ます井戶位は便宜な處に掘つてポンプで送水すればよろしい。

竈の位置や向が氣になれば舊式なへつついを築かなければよろしい、便利な瓦斯の料理器を備へるか瓦斯のない處なれば石油の料理器を用ひる事にします、何れにしても燃料代は薪木より經濟です家相が最も樞要な點として說く處は三所(坤、艮、中央)三備(井戶、竈、厠)でありますが私共が父祖の時代の生活樣式を何日までも維持して行けない事が明かである如く施設次第で三所三備もなく、外界の文化となじむれば住宅哲學だけ三貰五帝の太古に從ふ事は出來ないのであります。今一つ所謂家相家の說をそのまゝ受け入れ難い事は此の方位を振り出し其の吉凶を占ずる肝じんの家屋の中心點說が古來異區々定まらない事であります、中心の取り方に依つて同一の家でも家相方向が定まらぬ之を實際の建物に應用するに至つて信據するに足らない事が御判斷出來樣と思ひます。

土地がなくて弱る 中産階級

住宅難！住宅難　貸家貸間の大洪水！何といふ矛盾した言葉であらう、と早合點するのは間違つてゐる、前者の住宅難は永久性があり、後者は所謂腰かけであるそれなら

住宅難を叫ぶ者はどう云ふところから起つてゐるか、それは中産階級の者が自分で安住の家を建てたいといふのから起つて來る、寧ろ土地難と謂ふべきであらう、而も土地は相當にあるしかし何れも滅法外の値だ、土一升金一升では限りある資金で到底思ひも及ばぬこと、可なり遠い郊外ですらもう大抵のところは利がついてゐる、しかもそれでも素人に土地の有る所が分ればいゝが却々見當らない、仕方なく土地ブローカーへ頼むところが、この仲買業者は可なり高い手數料を取りそれが各一定してゐぬので賴む者の不安も一通りでない現在行はれてゐる手數料は一萬圓に就て買方三分賣方四分、一萬圓以下のものは だんだん割が多くなつてくると云ふ始末で、右に就て住宅改良會士地紹介部の佐藤氏は語る「商賣で紹介をしてゐる者にはなかなか油斷のならないのがあります、公共團體でかうした仕事をするのが一番よい結果を得られませうと。



木材の饑饉と其對政策

市川三祿

一

木材の飢饉と云ふことは屢々唱へられることであつて、而も其説は大變區々になつて居る、極端なことを云へば、木材の飢饉と云ふことは來ることは來るだらうけれども、それは大分先のことであつて、今からそんな心配をしないでも可いと云ふ風に、極く樂觀して居る人もあるが、中には、我々はもう現在既に木材の飢饉を感じて居ると云ふ風に、非常に悲觀的に考へて居る人もある、それは各々理窟のあることであり、何れも亦事實である、現在木材飢饉を感じて居ると云ふ風に考へても可いし、又我々林業家が一生懸命に木材の生産に努力し、同時に消費者の側に於ても其消費の上に付て適當な考慮を拂ひ、十分節約して行けば、木材の飢饉と云ふことも可なり遠き將來に延すことが出來る、それは考へ方一つで考へる方の側ではそれで可いのであるが、それを聽く方の側になると、今現に木材の飢饉が來て居ると云ふ説もあり、又なか〳〵木材の飢饉は來ないと云ふ説もあつては、來るかも分らないが、來ないかも分らぬ、それぢやマア有る間は使つ

て居やうと云ふやうなことになる。

現在既に木材の飢饉は來て居ると云ふ考から云ふと、今でも太きい木材は確に飢饉である、歷史を見ると、あの奈良の東大寺の建築は大分古いものであるが、あれを造るのに、直徑五尺以上の木が百本餘り必要であつた、然るに當時既に近畿地方には大森林が無かつたので、一本捜した者には幾ら與へると云ふ懸賞附で、周防の國から持て來たと云ふことである、其後度々東大寺は火災に會つたが、建て直す時には、もうそんな大材が無い、新しくなるに從て、段々使ふ木が小さくなつた、今でも大きな柱ではあるが、澤山な木をはぎ合して使つて居る、京都では比叡山の延暦寺の口徑二尺五寸の柱があり、又同じ京都で、東本願寺の山門に直徑二尺五寸の欅の柱がある、是等は全く歷史的のもので、將來斯う云ふものを造らうと云つても、到底造れるものでない、畏いことであるが、伊勢の皇太神宮は二十年毎に御改築になり、全部木曾の檜を用ひられることになつて居る、最近御改築になる分は既に數年前から係の人が木曾の山に入り、一々木を調べて伐り出し、今現に名古屋の御料場に於て板なり柱なりにお造りになつて居ることゝ思ふ、然るに幸ひ此度の分だけは木曾の檜が間に合つたが、今後二十年經つて、又御改築になる時分には、もう木曾には得られない、之に付て、先帝陛下が御在世の時分に、兒玉源太郎さんであつたか、將來は到底木曾の檜で造ることは出來ませぬ、何か石造にでもしては、どうでございますかと云ふ意味のことを奏上された所が、先帝陛下は、「自分の居る間は木曾の檜で造つて置け」と仰せられたやうに坊間に傳へられて居る、或は臺灣の檜でも代用するとして、是も此頃からは臺灣の檜にしやと云ふので、取つて置けば格別さうでなく、二十年後になつて、內地には無いから、臺灣のものにしやうと云つても、二十年後の臺灣にさう云ふ木が殘つて居るとは一寸考へられない、畏いことであるけれども、皇太神宮を檜でお造りになることは或は今回限りになるのではないかと思ふ、又欅の如きも、全然無いと云ふ譯ではないが、先づ無いと云つても可い位のもので、代用品を以て間に合せて居る場合もあるけれども、用途に於ては、どうしても欅でなければならぬものがあるのであるが、それはどうしたら可いか、分らない、今の所は僅かばかり殘つて居る欅を使つて居るけれども、是は確に飢饉である。

木材の飢饉を云ふものは、さう云ふ順序に來るので、今在るだけの石炭を使つてしまへば、遂には全く石炭が無くなると云ふ程さう簡單ではないが、今日は欅が飢饉で、明日は胡桃か樫が飢饉になり、今日は大きな木が飢饉で、明日は鐵道の枕木が飢饉になり、又其次には紙の材料が無くなると云ふ風に、段々特殊のものが無くなつて來る、それは紙の材料ばかりでなく、他のものでもさうであるが、紙の如きは最も痛切に感ずるものであるから、殊に近頃は喧しく云はれるやうになつて來た、先達ても當地の朝日か每日に隨分長い間此事が連載されて居た、又亞米利加でもなか〳〵騷いで居る、御承知の通り亞米利加の新聞は馬鹿にカサが大きい、私が紐育に居つた時分每朝眼を覺すと、新聞が配達される、日本の新聞が入つても、唯ガサツと音がするだけであるけれども、亞米利加の新聞が入ると、ドスント地響きがする位である、所が過般亞米利加の新聞に、其大きな新聞が數十年後には燐

寸紙位な小さなものになつて、而も値段が高く、なか〳〵普通の人には買はれない、偶々電車の中で一人の金持が新聞を買つて、虫眼鏡で讀んで居ると、同じ電車に乘り合した人達が彼方からも此方からも皆望遠鏡を出して、其一人の人が持つて居る新聞を讀んで居ると云ふやうなボンチ繪が出て居た是は今でこそ笑話であるが、二三十年も經つたら、或は此悲しむべきことが事實となつて現はれて來るかも知れない。

兎に角、木材の飢饉は今日は何が無くなり、明日は何が無くなると云ふやうに、順々に現はれて來るのであるが、唯漠然と何年後に無くなると云ふことを申上げても仕方がないし私は元來話が下手で、話で以て意味を徹底させることは出來ないから、事實を以て申上げる、事實で以てお話しやうと思ふと、統計のことになつて、彌々話が詰らなくなるが、暫く御辛抱を願ひたい。

II

木材の生產される所は言ふまでもなく森林であるが、其森林は地球の總陸地面積の二二・五「パーセント」を占め、之を國別にすれば、芬蘭と瑞西が最も森林に富み、陸地面積の約六七割に當て居る、尤も之を地方別に見れば、もつと森林の多い所はある、即ち加奈陀とか、アラスカとか、或は日本でも樺太の如き(害虫の爲に今は大分少くなつたが)約八割位に當る所もあるが、一國としては芬蘭と瑞典の六七割と云ふのが最も多い、之に反して森林の最も少いのは、英本國及びお隣の支那で、〇・五「パーセント」位しかない、日本は比較的森林の多い所で、統計では陸地面積の五割になつて居る、併し是は所謂森林と稱する所が五割で、實際の森林はそんなにない、即ち森林と稱する所には、極端なことを云へば、東京市の眞中にも森林がある、それは面積にしては僅なものであるが、其他開墾はしたけれども、マア森林にして置いた方が都合が好いと云ふやうな所もあり、或は富士山や日本アルプスの頂も森林になつて居ると云ふやうな譯で、實際は我々の見る所で先づ三割位のものである、それにしても世界の國との中では多い方である、仍ち世界全體を平均して云へば二割二分五厘が森林面積で、之を人一人當りに割ると、老幼男女を問はず、一人前一町七段八畝、約一町八段の森林を有つて居る計算になる、其一人當りの森林の多い所は人口が少くて、森林の少い和蘭、白耳義の如きは最も一人當りの森林が少い日本は比較的森林は多いけれども、人口が又非常に多いので一人當りの森林は五百步位になつて居る、それも前述の森林と稱するもので、實際はもつと少い、兎に角世界全體を平均して一人當り約一町八段步と云ふのが、私の計算の基礎になつて居る譯である。

所が木材は鐵道や石炭とは違つて、採つたら、後は無くなると云ふものでなく、採つた後も亦成長して行くものであるから、此成長と云ふことも計算に入れなければならぬ、是が非常に難かしい、土地の狀況に依ても違へば、木の種類や年齡に依ても違ふし、林業の方法に依ても無論違ふ、色々の點で違つて來るから、概に云ふことは出來ない、又木が成長すると云ふことを考へれば、同時に人が利用する以外に、自然に木が亡くなると云ふことも考へなけれ

ばならぬ、即ち木も年を取つて來れば、枯れもするし、或は火事や害虫の爲に失ふこともある、それ等を差引勘定して、成長と云ふことも考へて見なければならぬが、どうしても林業の發達した國程餘計成長さして居る、世界で最も能く林業の發達した國と云へば、先づ獨逸、丁抹、和蘭、白耳義等であるが、それ等の國々では一町歩から百二十乃至四十立方尺位の成長率を有つて居る、無論實際の木はもつと成長するけれども、前述の通り枯死したり、燒失したり、人が使ふ積りで伐採するものを差引いての計算である、一寸考へると、極めて僅なものゝやうであるが、さう云ふものを差引き、一方に於ては老齢にして餘り成長しない木も引括めての話である日本は一町歩當り七十立方尺位の成長率で、最も北海道や樺太邊りでどん〳〵亡くなるものを差引いての計算である、林業の餘り盛でないやうな國に於ては殆ど成長はない、即ち土耳古とか墨西哥と云ふやうな國に於ては殆ど木の成長と云ふことは考へられない、又成長しないのみならず、反對にどん〳〵減つて行く國がある、即ち芬蘭、瑞典、露西亞、西比利加奈陀等は世界に於ける大事な森林地方であるが、それらの地方は人が利用しないでも、自然に木は減つて行くばかりである、元來世界に於ける大森林と云へば、歐羅巴では前述の芬蘭から露西亞、瑞典にかけて、あの邊一帶の地方、亞米利加では北亞米利加と加奈陀の邊境、亞細亞では、東は沿海州から日本の樺太に至り、北はどの位あるか分らないが、殆ど我々の想像も出來ないやうな寒い所まで森林があるらしい、西はバイカル邊りまで及び、南は滿洲から朝鮮の境、鴨綠江一帶に亘つて居る、是等の北半球に於ける三大森林地方と、南半球に於けるアマゾン河流域（是はまだ十分探檢されず能く分らないが）の四つが世界での主なる大森林地方で、其他は極めて微々たるものである、所がアマゾン河流域は別として、北半球の大森林地方は何れも寒帶の山であつて、寒帶の山は非常に燃え易い、山林は元來燃え難いものである、木は燃え易いやうであるが、生きて居る木は滅多に燃えるものでない、東京の大震火災に際して燒殘つた家の近所を見ると、必ず其外廓に林の如きものがある、淺草の觀音が燒け殘つたのは、周圍にある公孫樹が水を吹いたからだと云はれて居るが、兎に角公孫樹が防火上力のあつたことは疑ない、從て古來防火の意味で木を植えることにもなつて居るが、生木と云ふものは滅多に燃えるものでない、然るに何故山火事があるかと云ふと、我々ので云ふ下草（草のみでなく、雜木でも何でも木の下にあるものは一切總括して）が冬になると、枯れる、それが火を呼び易い、從て南洋地方には殆ど山火事は無い、即ち林の下にある所謂下草が冬でも皆生きて居るから、滅多に火事は起らない、それが寒帶地方になると、下草が枯れるし、又「ランドラ」と云ふものが非常に燃え易い、加奈陀の如きは世界に於ける山火事の本場で、飛行機で偵察し、無線電話を利用して、絶えず警戒はして居るが、始終山火事があつて、それが何年間も燃え續いて居る、私も初は法螺だらうと思ふて居たが、全く事實である、樺太に大學の森林があるが、火事が越年をした、もう消えただらうと思ふて居るが昨年の秋出火して、一度止つたと思ふて居たら、春になつて雪が消ゑると、又燃ゑ出した、ぞう云ふ譯かと云ふと、下にある岩層に火が入つて居て、冬の間もズッと燃えて居たのが

春になつて雪が消えると、それが下草に燃え付て、又山火事になつたのである。私は火事が越年すると云ふことは豫てから聞いては居たが、體驗したのは是が初である、加奈陀の如きは始終さう云ふことがあつて、周圍の山が火になり、一つの町全體がすつかり燒き亡されたと云ふやうな悲慘な例が往々ある、さう云ふ風に世界中での大森林が盛に火災に依て燒失されるのみならず、虫害の爲に枯死するものもなか〳〵多い、樺太に於ても二三年前から松毛虫が盛に發生して、それが爲に樺太の木の三分の一位までは枯れたらうと思ふ、樺太全體の三分の一と云ふと、隨分大きなものである、仍ちさう云ふ寒帶地方では成長所でなく、反對にどん〳〵減少して行くので、世界全體としては非常に成長量が少い、現在一町歩當り約十二立方尺の成長量を有つて居る、我々は前述の通り一人當り一町八百歩の森林を有つて居る譯であるから、一町歩當り十二立方尺成長するものとすれば、約二十二立方尺と云ふものが我々一人當りの森林の利子である、此利子だけで我々が毎年やつて行つて、一切元金に手を着けないで濟むものならば、木材の飢饉と云ふこともなく、我々は永久に木を使つて行ける譯であるが、それがなか〳〵此利子だけでは足らないのである。

III

以上は木の生産方面に付てのことであるが、次に消費方面に付て考へて見ると、是は國々に依て區々になつて居る、或は其國の成長量の數倍に當る木を伐つて居る所もある、其極端な例としては、亞米利加合國衆で、一町歩から年々二十立方尺を生産することになつて居るが、其一町歩から年々百十五立方尺(即ち利子の五倍餘)ばかり伐つて居る、其他瑞典、芬蘭の如きも年々の成長量より遙に多くの木を伐つて居る、又一方に於ては盛に木は成長するけれども、成長するだけも伐らない、即ち利子の一部分しか使はず、あとは皆元金へ繰入れて居る國もある、獨逸が其著しきものであるが、尤も戰爭後の統計は明でない、戰爭前に於て獨逸は一町歩から百二十五立方尺の成長量があつたに拘らず、使用量は九十立方尺ばかりで、詰り利子の四分の一位は元金へ繰入れて居つた、日本も亦多少其傾向のある國であつて、前述のやうに、日本では一町歩から七十立方尺ばかりの成長量がある——尤も此成長と云ふことに付てはもう少し註釋が要る、是は枯れたり燒けたりするものは差引くのだと云ふことは先にも云つたが又唯木が太ると云ふだけの意味でなく、一旦伐つた後へ更に植えた木が育つと云ふことも考へて居る、唯成長と云ふと、意味が非常に限局されるけれども、さうでなく、詰り元金に對する利子を云ふやうな意味である——即ち日本では一町歩に付て年々七十立方尺ばかり伐つて行けば、恰度利子だけを使ふことになるのであるが、實際は年々六十立方尺ばかり伐つて居つて、利子の中の若干を元金に入れて居るやうな狀態になつて居る、其他國に依て色々と事情は違つて居るが、極端な二三の例を擧げれば、そんなものである、併し無論木を餘計伐るからと云つて、必ずしも其國が餘計木を使ふと云ふ意味ではなく、又木を餘り伐らないからと云つて、必ずしも其國は木を餘り使はないと云ふ意味でもない、亞米利加などはどん〳〵木を伐る代りに、それを又外國へどん〳〵出して

居るし、獨逸などは自國に産する木は餘り伐らない代りに、外國からぢん〳〵入れて居る、獨逸は英吉利本國と共に、世界に於ける二大木材輸入國である、英吉利本國は元來森林も何も無い所で、木材を輸入するのは當然のことであるが、獨逸は多くの森林があり、木材が澤山出るにも拘らず、其利子を使はず、外國からぢん〳〵輸入して居るやうな譯である、是は其國の林業政策と云ふか、色々な事情に依ることであるが、又其林業の狀態にも大に關係することである、詰り亞米利加とか瑞典あたりの森林は放つて置いても、自然に腐つて行くので、保存して置いても仕樣がないから、伐るのであつて、獨逸あたりは之に反し、放つて置けば、將來彌々見込のある木であるから、他處から輸入しても、自國の木は成べく伐らないやうにして居るのである、又日本のことを云へば、日本は先づ木材輸出國と云ふことになつて居る、實際震災前までは僅かづゝではあるが、木材を輸出して、世界で十五六番位の木材輸出國であつた、併し昨年の如きは國內に於ける木材の生產量よりも超過する位の亞米利加材が入つて來た、是は無論一時的の現象ではあるが、今後は迚も木材輸出國ではあり得ない、若干づゝの木材輸入國になるかも知れない、さう云ふ譯で、一國に於てどの位の木材を使ふかと云ふことは、それ〳〵輸出入の關係等を詳にしなければ、ハツキリ分らないが、世界全體として考へれば、要するに伐るだけの分量を使つて居るものと見れば可い譯で、從て簡單である、それを例に依て一人當りに計算して見ると、各國で伐る木材の總量を世界の人口數で割れば可い譯であるが、一年に一人當り平均　三十三立方尺使つて居ることになる、仍ち先に一年に一人當り二十二立方尺だけの木が成長すると云ふことを述べたが、之に依て凡そ木材が何時無くなると云ふことが分る譯である、假にお互が、何でも可いが、餘り利廻りの可くない貯金をして居るとして、毎日利子が二十二圓付く所を、毎日三十三圓づゝ使つて居るとすれば、何時になつて元金がゼロになつてしまふかと云ふことは、一寸算盤を採れば、直ぐ分る、併し貯金の方であると、利息算でやれば、計算は容易であるが、山の方ではさう簡單には行かない、と云ふのは、貯金ならば、四分なり、五分なり、利率が明であるから、直ぐ計算は出來るが、山の方は其利率に相當すべき成長と云ふものを計算することが困難である、是は幾ら統計を取つて見ても、正確に勘定することは難しい、考へやうに依て色々になる、良い山なら、詰らない貯金をするよりか、遙に良い利廻りになる位に木も成長するけれども、先にも述べたやうに放つて置いても、自然に段々木が減つて行く山もあるから、利率に相當すべきものを考へることが非常に難しい、それでさう云ふ無理なことの計算はしないで、考へられる範圍の色々な場合を想像して、二十二づゝ生產するものを三十三づゝ使つて行つて、何時元金が無くなるかと云ふことを十幾種も計算して見ると、最も早い所で、二十年、最も晚く見て四十年、即ち今後二十年乃至四十年間に世界中の木が一本も無くなると云ふ計算になる、それ以上持つと云ふことはどうしても考へられぬし、又それより早く其時が來ると云ふこともどうしても考へられない、但しこゝで一寸白狀して置きたいのは、是は最新の統計に依つたのではあるが、併し統計と云ふものは着手してから出來上るまでには隨分手數が要かる、國

勢調査でも、調査して、其結果が發表されるまでには三年か四年は要かる、況や世界全體の統計であつて、而も其間に世界的大戰爭と云ふやうなものも加つて居るのであるから、最も新しい統計ではあるが、調査をした時から既に六七年位は經つて居るものとしなければならぬ、從て此統計の出來た調査の時から考へて、二十年乃至四十年にして、木が無くなつてしまふとすると、今から云へば、更に其時期が六七年短縮される譯で、假に最も都合の好いやうに考へて見ても、今後三十年餘りで全く世界的木材の飢饉が來ることになる、恐しいことであるけれども、此統計にして誤りが無いならば、此計算には間違ひはない。

V

併し之を計算するには、私は種々の假定をして居る、例へば、私は第一に、人口の增減に付ては少しも考へて居ない、現在と同じものと見て居る、所が事實人口は年々殖える、人口が殖えれば、それだけ木は餘計消費されるものと見なければならぬ、從て三十年餘り經てば、木材の飢饉が來ると云ふ先の計算よりも、尙更に其時が早く來ることになる、第二に私は木材の消費者が何時でも三十三立方尺と見て計算して居る、併し是れも遺憾ながら事實は年々殖えて來る、どの位殖えて行くかと云ふことは、國に依て、詳しい統計の出來て居る所もあるし、又全く出來て居ない所もあるから、世界全體としてハッキリしたことは云へないが、想像以上に殖えて行く、斯う云ふと、或は近來は同じ目的の爲に鐵や混凝土を盛に使ふから、木材の使用量は幾分減つて行くだらうと考へられるかも知れないが、事實はさうでない、成程一寸考へると石造や煉瓦造、或は混凝土や鐵骨の家が澤山出來て來て居るけれども、其の中に使はれて居る木と云ふものが是が亦なか〳〵想像も及ばない程澤山なものである、又さう云ふ家が建つのは都會地だけで、田舍に行けば、西洋でも矢張り木造が多い、建築材として木材の使用量は驚くべきものである、其他枕木や電柱の如きも、段々鐵或は混凝土を用ひるやうになつたと云ふけれども、それは都會地だけで田舍の電信柱は矢張り木を使つて居る、而も此田舍の電信柱の方が都會のそれよりも遙に多いのである、さう云ふ風に木材以外の材料も使ふやうになるから、木材としての使用料は減るだらうと考へられる用途に對してすらも、事實木材の使用量は激增して來て居る、況や從來は唯砂利を敷いただけで濟んで居た道路に木を鋪くやうになつて來たり、色々な新しい用途も出來るので、木材の使用量は增加するばかりである、特に著しいのは紙である、一國のパルプの使用量に依て其國の文化の程度が分ると云はれるが、全く其通りであつて、文化の進んだ國程パルプの使用量が多い、そんな譯で、木材の消費量はざん〳〵殖えて行くばかりであつて、是亦木材飢饉の時期を早める悲觀材料である、それがどの位と云ふことは分らないが兎に角三十年餘りと云ふ其時期よりも、もつと早く來ることは明である、從て此木材の消費を出來るだけ節約しやうと云ふことが木材飢饉に對する消極的一手段になつて居るが、是は又後に述べることにして、第三に、私は總ての木を一律に見て、其種別を考へて居ない、木は一年一町歩に付き二十二立方尺成長して、三十三立方尺づゝ消費すると云ふのは、木

材全體に付てゞあつて、其中には役に立たないやうなものまで含んで居る、三十餘年後になつて木が無くなるのだと云つても、實は計算の上でこそ其最後まで木はあることになるが遂には炭にしても良いものは出來ないやうな、下らないものばかりになつてしまふ、卽ち木材全體としての飢饉は先に述べた通り三十餘年後に來るのであるけれども、能く考へて見ると、其前に段々大事な木は無くなつて、後に殘つたものはホンの木と云ふ名が付くだけで、炭にもならぬ詰らないものばかりになる時が來る譯で、之を種別毎に考へて見ると、是亦三十年餘りと云ふよりも、もつと早く我々は木材の飢饉を感じなければならぬことになる。是等は消費の方から見たことであるが、更に生產の方に於ても私は大變大きな假定をして居る、卽ち林業の狀態は今度も今日と少しも變らない、何時までも一町步に付て二十二立方尺成長するものとして計算して居るけれども、是亦嘘であつて、林業は及ばずながら日に〳〵進步して居る、何時までもそんな狀態では居らぬ、是は非常に樂觀的材料になつて居るが、もう少し詳しく考へると、一口に林業狀態と云つても、之には森林の面積と、單位面積からの成長と云ふことがある、所が森林の面積は遺憾ながら年々減つて行く、私共の方では絶對的林地、比較的林地と云ふことを云つて居るが、比較的林地と云ふのは、本來は林業以外の牧場にするか、宅地にするか、或は農地にでもした方が適當な土地であるが、今は木が生へて居るから、其木がある間は林地にして置いて、木が無くなつたら牧場にするとか、農地にするとか、或は宅地にしやうと云ふやうな、所謂一時的のものを稱するので、絶對的林地と云ふのは、全く林業以外のことは出來ぬ土地を指すのである、此比較的林地と絶對的林地の關係がどんな風になつて居るかと云ふことは統計的に能く分つて居ないが、兎に角比較的林地と云ふものが隨分ある、それ等はどん〳〵宅地なり、農地なり、放牧地になつて、森林の面積は段々縮少して行くし、絶對的林地と云つても、又必ずしも絶對的の林地ではない、今日は水の都合が惡いから、林地になつて居るけれども、之に灌漑排水の工事をすれば、農業が出來るとか、或は鐵道が其附近まで來れば、其處に家が建つと云ふ風で、絶對的林地と云つても決して絶對的ではない、又一面に於て工業が盛になると、勢ひ煙突が多くなる、從てそれから吐き出す煤煙の爲に森林が害され、林業が出來ないと云ふやうな所も隨分澤山出來て來て、世が進めば進む程森林面積が減少して行くのは當然のことである、是は甚だ遺憾なことであるが、已むを得ない、そこで兎に角林地として殘つた部分の成長量を多くすると云ふことより外に積極的手段がないのであつて、我々の一生懸命に努力して居る所は其處にある、卽ち森林の面積は減つても其殘つた所から、從來よりもズツと餘計に木材を產出するやうにしたいと云ふのが、我々林業家の常に目的として居る所であるが、偖て是が果してどの位まで目的の達するものであらうかと云ふことを先づ以て考へて見なければならぬ。

V

先にも述べた通り、世界に於て最も林業の進步して居る國は獨逸、丁抹などで、一町步當り百四十五立方尺位の成長を見て居る、是等が先づ一番成長量の多い方であつて、それ以

上にすることは出來ないこともないが、實際に於ては無理かと思ふ、我々としてはそれ以上にすることは出來ないとも云へないし、又事實部分的の森林に付て云へば、百四十立方尺の何十倍と云ふ成長をして居るものもあるのであるから、其二倍や三倍にすることは、いと易いことであるが、世界中の森林に付てそれを實現させることはなか〳〵難かしいことぢやないかと思ふ、それぢやさう云ふ無理なことは考へないで中位の國として日本が七十立方尺位の成長量を示して居るが切めてそれ位までにすることは出來ないかと云ふと、是も隨分苦しいことは苦しい、可なり難かしいことであるが、此日本の現在の林業狀態をして、世界の林業の平均たらしむる位までに、將來世界の林業を發達させることは大體出來やうかと思ふ、即ち日本の現在の成長量が七十立方尺、全世界の平均成長量が十二立方尺とすると、世界の林業を現在よりも六倍良くすることが出來るとして、それが何年後に成功するか分らないが、可なり長い年月を要するものと見なければならぬ、其の間には森林面積は減つて、人口は殖え、木材の消費量は增す譯であるが、今假に人口が七割殖えて、森林が五割減り、一人當りの木材使用量が二割增すとして、其何年間の中に世界の森林の成長量が現在の六倍になれば、そこでバランスが取れて、我々は森林の利子だけでやつて行けることになる、併し是も無論其時だけのことで、それから先へ行けば又人口は殖えるし、森林は減つて、消費量は增す、さうなれば、我々林業家は甲を脫いで、謝るより仕樣が無い、もうそれ以上生產力を增すと云ふことは難しい、從て其處まで行けば、當然木材の飢饉が起つて來る譯であるが、それまでは考へずに、極めて近い將來までの話である、決して今後百年も將來のことではない、大雜把に云へば、私共が少し長生きをすれば、死ぬ時分　我々の子供が盛に活躍する時代位までより考へて居らぬ、それ以後はどうなることか、混沌として、迚も想像することも出來ぬ、マアそれまでには何とか家ももつと簡單に出來、餘り木を使はないやうにならうかと云ふやうなことで、ホンの我々の時代だけのことを考へても、尙且現在の林業狀態を六倍にしなければ、間に合はない、元來森林と云ふものは我々の自から拵えたものでなく、祖先傳來の親讓りの財產である、其親讓りの財產を殖しもせず、減しもせず、親から讓り受けただけのものを子に渡さうと云ふのに現在の林業狀態の六倍にしなければならぬと云ふ計算になるそれが甚だ難しい、と云ふのは、世界の森林の大部分は度々申すやうに、加奈太、西比利、芬蘭と云ふやうな、何れも氣候の極めて惡い所で、それ等の所では、正直な所今在る木を伐つた後はどうして可いか分らない、遺憾ながら白狀すると樺太の現在の森林を伐つた後はどうしたら可いか、殆ど我々共には分つて居ない、さう云ふ後の處置も分らないやうな所が世界の森林の大部分を占めて居るのであるから、覺束ない話である、そこで世界全體の林業狀態をして單位面積の成長量を現在の六倍にするが爲には、其大部分のどうして可いか分らないやうな所は放つて置いて、日本とか獨逸のやうな所で現在の何十倍に成長させなければ、迚も其目的を達することは出來ない、然るに正直な所、我々は現在の成長量の六倍にすれば、バランスが取れるとは云ふものゝ、其其六倍にすることが、我々木材生產者の方面に於ては殆ど困難である、

出來ないと云ふことは云へないが、靜に考へると出來さうもない、そこで消極的手段ではあるが、一方木材消費の方面に於て之を調節して行かなければならぬ。

VI

それは即ち木材消費の節約である、而も消費の節約と云つても、徒に使ふべき所も使はないと云ふのではない、成べく無駄な使ひ方をせず、巧に使用することである、之に付て二三心付いた點を述べると、例へば、防腐劑を用ひることであか、木材は非常に腐り易いものであるが、之に防腐劑を施せば、あらつぽい計算であるが、普通の木材に比して、先づ四五倍の耐久力を生ずる、實は此大阪に於て木材を巧く消費することに付てお話するのは、おかしい位で、日本中で木材を最も巧く消費するのは大阪である、日本で一番早く木材防腐會社の出來たのも大阪である、尤も防腐劑と云つても、クレオソートや、タールの如き、臭の惡い色の眞黑なものは建築に於ても地形等には盛に使はれて居るけれども、迚も一般的には用ひられない、併し無色無臭、釘を打つても、それが錆びないやうな一般的に用ひて差支のない色の防腐劑も既に發明されて居つて、餘計使へば、安く出來るのである、西洋では能くペンキを塗るが、ペンキを塗れば、日本のやうに白木の儘使ふよりは遙に保存力がある、日本では白木の儘使ふから、非常に早く腐つてしまふ、之にペンキを塗るなら、或はもう一步進んで、防腐劑を施せば、保存期限が四倍になる、即ち木材の消費量は四分の一で濟む譯である　敢て木材防腐會社の廣告をする譯ではないが、今後木材を使用する場合には是非防腐劑を用ひることにしたいと思ふ、又木材を火に燒けないやうにすることも消費節約の一方法である、一寸考へると、燃え易い木を燃えないやうにすることは難しいことのやうであるけれども、是も隨分長い間の研究に依て、現在では殆ど完全なものが出來て居る、尤も値の高いものなら、可なり前から出來て居たが、値の安い防火劑を造ることが出來なかつたのが、最近出來るやうになつた、それは東京の志賀先生の發明されたもので、其防火劑を注入した木は火に對して鐵よりも遙に強い、鐵は七八百度の熱に會へば、曲がるけれども、是は曲りもしなければ、直接火に當つた所が黑く焦げるだけで、焰を發して燃えるやうなことはない、尤も出來たばかりで、まだ若干の缺點はある、併し殆ど九分九厘まで完全に出來て居るので、斯う云ふ防火劑を用ひることにすれば、是亦木材の消費を非常に節約することが出來る、又ベニヤ(薄板)の如きも固より木材の節約と云ふ意味から出來て居るのであつて、即ち細い材木を圓く剝ぎ、それを擴げて、大きい板に見せ、或は惡い木の上に之を張付けて、良いものに見せると云ふやうにして、初は木の節約の意味から出來たのであるが、今は節約の意味ばかりでなく、木材に強さを持たせる爲にも是非必要なものになつて居る、木材は縱には強いが、横には弱い、それを適當にベニヤを張り付けるこれに依てどの方面も強くすることが出　る、即ち初は單に節約と云ふ消極的意味から出來たものであるが、今日では直接に我々の生命財產を保護する爲に必要であると云ふ積極的意味からもベニヤを使ふことになつて來た、其他數へ擧げれば、限りもないが、兎に角防腐劑を使ふだけでも、木材の消費は四分

の一に節約されるのであるから、是非是等の方法に依て木材の消費を節約したいと思ふ。

VII

又一般的に見て、木材使用上單に儉約すると云ふことだけでなく、無駄な使ひ方を廢めると云ふことに依て、隨分木材の消費を減少せしむる餘地が澤山あらうと思ふ、例へば木材の規格(卽ち寸法)に付ても、日本の木材は長短千差萬別である、從て、亞米利加の木材などは一寸切れば、直ぐ柱になると云ふやうに、頗る簡單であるが、日本の木はなか〳〵さうは行かない、木を買つて來て、家にするまでにはなか〳〵手間が要かる、尤も此手間の要かる所で大工さんは儲かるので餘り規格が統一して、きち〳〵した材木が出來て來たら、大工さんは困るかも知れないが、手間が少くて濟むやうにすれば、自然木材の無駄使ひが少くなる、曾て特殊なものに付て調べた例もあるが、規格が不統一な爲に無駄使ひをすることは非常なものである、殊に日本の建築は趣味の建築であるから、頻に寸法違ひなことをする爲に、木材の無駄に使はれる部分が非常に多い、又それに關聯して、木材の强さと云ふことも考へなければならぬ、元來木材は縱に引張る力に對しては非常に强い、大抵の材料には負けない、又壓力(コンプレッション)に對しても、伸張力に對する場合に比べては四分の一か五分の一にしか當らぬが、それでもなか〳〵强い、所が缺ける(セーヴイング)ことに於ては非常に弱い、斯んな性質を有つて居る材料は他に無い、故に木の柱に鐵の棒を入れたのがあるが、あれは引張る力に對して耐へ切れないから、鐵を入れたのであらうと思ふ人があるかも知れないが、さうぢやない、繼ぎ目が缺けるから、鐵を入れたのである、鐵の方が繼ぎ目が强い、此繼ぎ目の所は木材で以て色々なコンストラクションをやる場合に一番困る所である、所が日本の家は此木材の繼ぎ手が極めて體裁よく、面白く出來て居るけれども、此處が最も弱い、折角太い柱を使つても、此繼ぎ手の所で其力をぶち壞はしてしまふ、あれさへもつと强味があれば、柱はずつと細くとも可いことになる、此繼ぎ目の爲に必要以上の大きい木を使つて、而も有害な結果を齎すやうな、木の使ひ方をして居る譯である、乃ち單に儉約と云ふ意味でなく、さう云ふ無駄使ひを減すと云ふことに依ても、隨分木材消費の節約は出來やうと思ふ。

或は又バルブにしても、現在では樅ほか一二のものに限られて居て、他のものでは實驗室でこそ隨分出來ることもあるが、實際に於ては、杉や檜の如き、如何に良材だと云つてもそんなものでは紙は出來ない、併し是等も段々研究して行けば、他のものでも出來るやうにならうと思ふ、是も局部的木材の消費節約の手段である、從て又木材の節約に付て直に考へられなければならぬのは木材の代用と云ふことである、例へば從來樺を使つて居る所を他のものを以て代用すると云ふことで、惡く云へば、ながい物を造ることであるが、善い意味に於て模擬品を造ると云ふことは非常に必要である、此點に於ても日本に於ては大阪が一番遲歩して居るが、從來は唯體裁とか、見かけが似て居ると云ふだけのものであつた、今後は體裁を見かけばかりでなく、其性質に於て似て居る模擬品を造るやうにしなければならぬ、是が成功したならば、木

材の飢饉と云ふものも前述の通り特殊のものから順次に來るのであるから、幾分それを調節することが出來る譯である、即ち澤山ある木を餘計使つて、少しより無い木は成べく節約して行くと云ふやうにすれば、順次に來る木材の飢饉も救ひ得られるし、一番最後に殘る下らない木までも有効に使へることにもなるのである。

VIII

是等は木材飢饉の消極的對策として氣付いた儘の一部分のことを述べたに過ぎないが、木材消費者の側に於てそれ等のことを假に悉く實行したとしたならば、防腐劑を使ふだけでも、材料が四分の一で足る譯になるのであるから、洵に結構なことであると思ふ、而して同時に又林業家が發奮して、現在の六倍以上の成長量にすることが出來たならば、木材の飢饉も何時來るか分らないことになる、實際さう云ふ風に考へて、樂觀して居る人もあるが、事實是がなか〳〵難しい問題である、而も氣を付けて戴きたいことは、繰返し述べるやうに、是は我々の一生の間だけの話で、親から讓り受けただけのものを子供に讓り渡さうと云ふに過ぎない、假に我々が木材の飢饉と云ふ急流に落込んだものとして見るならば、我々は今までに段々木材缺乏の急流を流されて來て、今や將に瀧の落口の所まで來て居る、今うつかりして居つたならば、下に落ちてしまふ、落ちてしまつたならば、もうどうにもならぬ、併し今に於ては迚も此急流を後へ引返すことは出來ないそれは第二段の手段として、差當り瀧の落口の所で何かにしがみ付てでも、ふん張つて居やうと云ふだけの極めて情ない考である、即ち親から讓り受けたものを殖して子供に渡さうと云ふやうなことは第二段の考で、唯親から貰つただけのものを其儘子供に渡してやつて、子供の代になつたら、又子供の代にどうにか考へて貰はうと云ふに過ぎない、而も生產の方から考へて、木と云ふものは、植えてから伐られるやうになるまでは隨分年月が要かる、それは桐の木でも植へれば、暫く經つたら、伐れるけれども、或特殊の木でない限り、今植えたとすれば、我々が餘程長生きをしなければ、伐れないさう云ふ木は今の問題には入つて居ない、今の問題に入つて居るのは、我々の一生に伐るだけの木であつて、我々の一生に森林から出て來る木は皆今までに植えられた木である、從て成長量を六倍にすると云ふことはなか〳〵難しい、是から植えるものを六倍の成長をするやうにしやうと云ふのならば難かしくても、何とか考へて、やれやうけれども、さうぢやない、既に今日までに植えられて居る木をうまく育てゝ、六倍以上の成長をするやうにしやうと云ふのだから、難しい、尤も今夜の會が林業家だけの會であつたならば、私は今日までに既に植ゑられた木で以て、どうして今後數十年間に六倍なり七倍なりの成長をさせるかと云ふことに付て、多少考へて居る方策もあるし、特に詳しく申し述べる筈であるが、それは林業家の問題であるから、今夕は略して置かうと思ふ、兎に角さう云ふやうな譯で、既に植えられてある木を六倍以上の成長をさせやうと云ふのであるから、幾ら林業家がふん張つても、なか〳〵難しい、どうしても是は消費する方の人が先に述べたやうな方法其他の手段を以て消費の節約をして戴くより仕方が無い。

尙　木材飢饉の對策として生産の方でやらなければならぬことは我々林業家の方に於て一生懸命にやるが、消費者の方でやつて貰はなければならぬことは、今日直にやつて貰はなければ可けない、是が又他のことゝ違ふ、假に親から財産を讓られたとして、其親讓りの財産は私の一生で使ひ果してしまつても、私の子は又自分で働いて親以上の財産家になることも出來る筈である、所が山はさうは行かない、我々が親讓りの森林をスッカリ伐つてしまつて、ナニ子供は子供で又育てるだらうと云つても、是はさう簡單に行かない、幾ら働いても、稼いでも、木が相當に成長するには非常に長い年月を要するし、又木を植えるのは前から少し木のある所が一番植え易い、是は林業家も間違つて居たかも知れない、木をすつかり伐つてしまふて、木を植えると云ふことは非常な間違ひである、木をすつかり伐つてしまつて、草だけの所へ木を植えるのは、幾分木のある所へ增殖するよりは數倍困難である而も木を伐つて、後に殘つた草を暫く經つと、無くなつてしまつて、土だけになる、其處へ木を植えると云ふことは迚も出來ない、況や土がある間はまだ可い、暫くすると、其土も無くなつて、岩のやうな所ばかりになつては、もうどうにも仕樣がない、先づ岩の上に土が置かれ、草が生へて、次に木と云ふ順序であるが、木が無くなると、草も無くなり、草が無くなれば、土も無くなつて、岩になると云ふ風に、自然の勢でどん〳〵無くなつてしまふ、親讓りの財産は無くしても亦働けば、財産を造ることは出來ると云つても、既に財産が有るのと、無いのとは自から其處に差がある、況や木の有る所へ植林するのと、無い所へ植林するのとは非常な違ひである、而も山に全く木が無いと云ふことは單に森林を造るのに困難なるばかりでなく、問題は少しく外れるが、國土保安の上から云つて、非常に悲むべきことである、御承知の通り、あの瀨田川の洗堰の桁を抜くとか、抜かぬとか云ふことで、屢々大阪府と京都府と滋賀縣とが盛に爭ひをした、此頃は淀川が改修になつた爲であるか、餘り爭はないやうになつたが其淀川の改修も水源地たる滋賀縣の山が現在の程度に荒れて居ることを目標としての改修であるから、現在以上に荒れて來たならば、又改修しなければならぬ、斯うして我々が河川工事の爲に費す經費は非常なものであるが、それは結局山を治めないからである、治山治水事業の問題は何れの國に於ても古くから唱へられて居ることで、山の荒れて居る國は亡びてしまふ、或は國が亡びて山が荒れるのか、どつちか分らぬが、伊太利に行く程の人は、數千年前に於て數十里を離れた遠隔の所から羅馬の市街に水を引いた大工事を見て、誰でも感心して居るが、何千年前に於て既にあれだけの工事をして水を引かなければならぬ程羅馬の山が荒れて居たかと思ふと、氣の毒な感じがする、其他西班牙、英本國、支那、朝鮮等何れも然り、日本でも古く開けた近畿地方が一番荒れて居る、湊川の川底に隧道を穿つて汽車が通つて居るやうな有樣である大變話が外れて行つたが、さう云ふ風に山が荒れると云ふことは、木材の飢饉とか何とか云ふ問題を通り越して、國の興亡にも關係する重大問題である。

要するに事實上世界の森林は今の儘で進んで行くと、今後三十年餘りで木材が無くなつてしまふ、それぢや困る、どう

すれば可いかと云ふと、先づ現在の六倍位に成長量を增せばどうにか斯うにか我々の一代だけは助かるだらう、所が我々林業家の方に於ては十分に研究し、努力をして生産を增すやうにはするか、實際現在の六倍にすることは難しい、そこで消費者の方に於ても十分に注意をして消費節約の方法を講じて貰ひたい、斯う云ふ唯實際の統計に基いてお話をしたと云ふだけで、極めて平々凡々のことである、併し世の中のことは大抵平々凡々のことばかりで、問題は實行するか、實行しないかと云ふことである、それに付て想ひ出すのは、又餘計な話になるが、伊太利の「ムッソリーニ」のことである、私が歐羅巴に居る時分、伊太利に武力革命が行はれて、珍しいことであるが、それが立派に成功した、乃ち「ムッソリーニ」が總理大臣になつて、初めて議會に臨む時に世界の視聽は悉く「ムッソリーニ」一人に集つた、彼がどんな施政方針の演說をするだらうと云ふので、私共政治に關係の無い者までも新聞などを見て一生懸命に注意を怠らなかつた、當時私は伊太利に居らなかつたので、唯實際其場に臨んだ人の話を聽いて受賣するに過ぎないが、議會に臨むまで「ファッショ」の軍隊を率ひて、戰線に立つて居つた「ムッソリーニ」は飛行機より、着物を着換へる間もなく黒シャツの儘乘込んで來た、所が此人は丈の低い肥つた人で、借着の「フロックコート」がシックリ身に合はず、「カウス」なんかがハミ出すので　手を上に向けて歩いて居た、演壇に立つた「ムッソリーニ」は直ぐ不動の姿勢をする人であるが、あの恐しい眼で議場を一通り見廻してから、言葉も非常に亂暴な人であるが、「俺には施政方針なんてものは無い、從來伊太利の總理大臣は施政方針を演說する爲に總理大臣になつたやうなもので、伊太利の政治の方針ばかり論じて居るが、俺はそんな政治の方針を論ずる爲に總理大臣になつたのではない、伊太利の政治を實行する爲に總理大臣になつたのだ」是で彼の初ての施政方針の演說は終つたと云ふことである、極めて平々凡々なことであるが、私は何時も此事を思ひ出す度に是は實に名言だと思ふ、木材飢饉に對する對策を考へて見ても、極めて平々凡々のことであるが、唯それを實行するか、しないかと云ふことが問題である、私は木材の生產者たる林業家として、今後とも少しでも餘計に木材を生產させるやうに實行するから、消費者の側にお立ちになる諸君に於ても、お歸りになつたならば、直に木材節約の實行に取掛かられんこと希望する。



市民の理解を基調とする都市計畫

伊藤俊雄

吾大阪都市計畫區域內の地域制も漸くに決定を見て愈々本年五月一日から實施せらるゝことになつたことは吾等都市の改善に志す者の喜びに耐へぬ處である。蓋し地域制は近世都市計畫に於ける基本的要項であつて、一口に都市計畫と稱する時は都市に於ける交通、經濟、保安、衞生等の重要施設の計畫に亘り其範圍極めて廣汎であるが就中交通系統の確立と地域の決定とが其の根幹をなすものであると謂ふても敢て過言に非ざる程のものである。

所謂地域制とは都市計畫區域內に包括せる市町村を一體として其の現在及將來の土地的機能を按じて之を住居、商業及工業界の地域に區別し都市の全體的構制を統制し且つ土地及其上に在る建築物を規律するものであるから其の市民の實生活並に都市の進展に及ぼす影響は寔に鮮少ではないのである。

然るに我國都市發達の歷史に新紀元を劃すべき此大變革に對する世論の歸趨は如何であらう。遺憾ながら肝腎の市民は何等之に介意する處なく如何に强辯するも全く恬として風馬牛であると謂はざるを得ぬ狀態ではないか。斯の如くしては東洋の大商工都市として重任を負ふ大阪市開發の劃期的大業

が果して障碍なく圓滿に運行し能ふであらうか。

蓋し土地及建築物に對する本制度の如く峻嚴なる權利制限は從來信ぜられたる所有權の限界に關する一般觀念に革命を起さしむる程のものである。即ち都市に於ける共同生活の利益の爲めに土地所有權の行使並に建築物の建設使用に對し幾多の新なる制限を甘受するを要し、而も之に對し毫も補償を與へられぬのであるから之が爲に各國は既往に於て幾多の爭訟は相次いで起り、或る邦に於ては爲めに憲法の改正すらも行はれたのである。吾國に於ては目下の處未だ之に關する爭訟は殆んど表はれざる如くであるが之果して吾國民が地域制の實施及其効果を謳歌歡迎せるに因るが故であらうか。余の觀る處に依れば之と全く反對に地域制に關する概念の缺乏に基き本制度の內容を知らず之が實施に對して何等關心する處なく一顧すらも與へざるに因るものと解するものである。

大阪都市計畫區域廣袤八十五平方哩の中に住する果して幾人か其現住する土地の地域と之が爲めに蒙るべき利權の制限とを知つて居るであらうか。余は斯の如く本制定の意義及內容に對する市民の無關心を以て其責悉く關係當局者の怯惰と不懇切に在るものと斷じて憚らざるものである。

地域制實施の如きは假令大局より觀れば都市全體の幸福と能率とを向上すべきものなりとするも之を局部的に觀察する時は其利害得失極めて區々にして之が爲めに耐へ難き犧牲を拂はしめらるゝ者の生ずるを免がれぬ、されば之等一部の不運なる人々から猛烈なる反對を受けることは素より當然豫期せねばならぬ事なのである。

大阪市の地域制は既に確定して最早や動かすべからざるものとなつたのであるが市民の不知に基く反對若くは批難の聲なきを以て意を得たりとするが如きは之所謂「民をして依らしむべし識らしむべからず」の原則を信條とする舊式政治家の態度であつて苟も「總ての市民の幸福の爲めに」進むべき近世都市經營者の執るべき途では斷じてない。地域制は決して一片の告示文と彩色圖とのみを以て効果を收むることの出來るものでないことは寔に瞭らかなる處である、必ずや充分なる資料を基礎として其の依つて來る處を示し其決定が公正にして一時の便宜や個人の情實に左右せられたるものでないことを明かにし其地域內に現住する人々をして充分首肯する處あらしめ之が爲めに多大の損失を蒙ることあるべき人々も全團體のために其犧牲を甘受せしむる程の力強き了解を求むることなくては本事業實施の如き到底完全なる効果を擧ぐること能はざること炳々乎として火を睹る如しであらう。

吾國官公署の通弊の一は未發の事件若くは文書を極端に隱秘するに力め、發表するも何等差支なき事實若くは決定前の發表に依つて反つて其決定に有益なる討究と資料を得べき事實をもひたすらに隱匿せむとすることである。斯の如くして公衆よりは所謂官僚式、秘密政治の譏を免がれず而も一方反つて有力者の權勢に支配せられ或は緩和規定の頻發に依つて囂々たる批難を糊塗するの愚に陷つて居る常態である。

私は最近北米合衆國ボストン市が其の地域制々定に際し採つた公開討議及發表宣傳の手段を吾國のそれに比して興味ある對照として茲に述べる。

ボストン市に於ては昨年六月五日マサチユーセッツ州知事カンニングコックスが其の法案に署名した時から地域制が實

施さるゝことゝなつた、而して此法案は既に五ヶ月間州立法部に留保されてあつたものである。

此地域制のプランは夫が州立法部に回送された時から一般に公表せられた。其公表や宣傳の最も主要な媒介者となつたものは勿論ボストンに於ける新聞紙である、地域制に關する記事の多量が濺溂たる當面のニュースとして掲載され數多の新聞社は地域圖を復寫し附錄として新聞に添附して讀者に配つた。

地域法の草案には其市の暫定的な地域を色別けにした地圖に加へて都市計畫部は別に計畫案を解說した幾多のパンフレットを準備して之を發行した。又市公會堂に於て都市計畫部及地域諮問委員會の手に依つて前後三回の公開演說が開催され且其講演は各新聞の第一面に素破らしく大々的に廣告された。前座として計畫部及委員會當局の概括的な演說が濟んだ後にプランは地域制設定の主管者たるアーサーコメイ氏が幻燈を用ひて詳細に亘つて說明したのである。且同時に地域制實施に關する數多くの調査資料や圖表類が展示せられ法案のコピーは其理由書と共に配布せられた。

又一方本法案に關する州立法部委員會の手でも公開演說を二回州廳に於て開き法案に對する異議のあつた點や種々異つた局面が計畫部、委員會及市當局其他の人々に依つて發表せられた。而して總て之等の宣傳や公表は計畫部長のフェデリックフェイ氏が巧妙なプログラムを立てゝ之を指揮したのである。

かくしてボストン地域制案の提出より其通過決定を見るに至つた五ヶ月間に於て計畫部、委員會並びに技術擔當の主腦者は數多の市民團體、實業團體若くは町内聯合會の前に於て說明をなし部の事業として編纂された法案、地圖及其說明材料を蒐集した地域制便覽とも云ふべき小冊子が準備されたのである。

實に斯の如く正々堂々何人の批判をも受容れて其理の存する所を說き明す途に出でゝこそ地域制の如き制度も市民をして納得首肯せしめることが出來るのである、最後の決定に至る迄一部當事者以外には窺ひ知ることを得しめず、決定後は官公報上の形式的の公告や新聞紙の責任なき報道や乃至は電車内に實施期日を廣告する位の方法に甘んじて市民の實生活を羈束する重大なる制度の圓滑なる運用を期する如きは實に駭くべき謬見であると謂はねばならぬ。

地域制は都市の機能を統制し其能率を昂め安寧快適を保持する如き種々の効果を有すると同時に其運用良しきを得ざれば反つて發達すべき產業を拘束阻碍するの結果に陷るの危險なきを保せぬ。一例を擧げて云へば現在十五人以下の職工若くは二馬力以下の原動機を使用する工場が法令に從つて住居地域内に建築するを得たりとする、日夜營々孜々として黽勉之努めた結果幸に次第に事業の隆盛を來した曉に於て之に伴ふて使用職工を增加し又は原動機馬力を增大せむとすれば多年辛苦經營の該工場を他の地域内に移轉せざるを得ぬ。或は製造工業の過程（プロセス）に於ける工法の變化或は經濟的事情其他に基く事業の種類の變更に就ても同樣のことが云ひ得るのである總ての工場が大資本家の經營に係るものならざる限り家内工業若くは小工業より次第に職工を增加し原動機馬力を增して行くのが工業發達の自然の徑路であり且一國の產業上より觀

て望ましき現象であるが斯る立脚地より考ふる時は地域制の實施は小工業の發達進展を拘束し阻碍するものと謂ひ得られぬことはない、乃ち現在に於て住居地域若くは商業地域内に於て建築することの出來る工場と雖も將來の計を樹つるものは現法制の下に於ても亦工場地域に設置するを以て賢明なりとするものである。之等の結果を普ねく了解せしめて其赴くべき處を指示するに努めずして偏へに法の適用のみを峻嚴ならしめむとする如きは發達の道程に在る吾工業の芽を摘み苗を枯らすものと謂はるゝも如何して辯解することが出來るであらうか。最も合理的にして最も經費の少い（アンエキスペンシブ）都市計畫事業は何よりも全市民の心からの理解と援助を基調とせねばならぬ。

又してもアメリカの例を擧ぐるの嫌があるが最後に紐育市に於ける都市計畫問題に對する輿論の後援、否市民自らの事業としての地域制の實施の狀況を述べて本論を了することゝしやう——假令それが一部の人々の商業的利益に利用せられたものであるとするも都市計畫に對する市民の理解が如何に平易化（ユライズ）されてゐるかを見ることが出來るが故に。

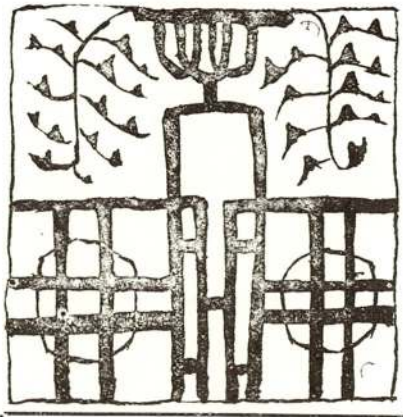
一九一六年三月五日の朝紐育の人々は其の日の日刊諸新聞に於て全頁を占めて廣告に氣付いた、夫には市の重立たる小賣商人十三名が署名し之に五十四人の商人、製造業者、銀行旅館、倶樂部、大地主等が裏書してゐる。其廣告文の冒頭には

『吾等は紐育を救ひ得るであらうか。紐育をして不自然にして不必要なる雜沓より、市民絶滅の地より、醜穢なる都市たることより、高き家賃より、過大にして不公平なる租稅より救ひ得るであらうか。吾等は總て之等のものより紐育を救ひ得る。少く共之等が一の特殊な產業的禍厄の爲めに生じてゐる限りは之を救ひ得るのである。其の產業的禍厄とは即ち住宅地及有名なる小賣商業區域内に工場を建てることに他ならぬのである』

と記された。更らに其中には心ある市民は高級なるホテルや商店や立派なる住宅の多くを包含する所の區域外に其の工場を有する會社の生產品を購ふべしとの趣旨も附記せられてあつたのである。

（一四—四—一五稿）

海を下る路を知らざるものは
河に隨つて往くべし



文化本來の意義に就いて

誤まられつゝある文化の語義の解說

K・S生

一

文化と言ふ言葉が、廣い意味では如何なる階級の人、又如何なる時代の人々の間にも、何物かの冠辭に用ひられてゐるが、然し文化價値本來の意味を嚴密に批判を加へたる後に於て、用ひられたるものとは首肯し得ない所が、多々含まれてゐる樣にも私共の眼に映ずる。靜かに文化本來の意味を考察するならば、徒らに時代人の思想の輕卒なる流れに迎合せんとする爲めに、今日の文化なる言葉が援用——寧ろ亂用——されてゐる傾きがある。

凡べて一物を考察し、是れに對して或る價値を妥當せしめむが爲には、克くそれが對照の研究を能へなければならぬ。其の對照の存在價値さへも研究せずして、只だ一部の輕い考へ方をする人々の群から出づる言葉に以て、時代語となし、流行語となし、その言葉を使用するに非ざれば、時代人としての存在を認めないと云ふまでに、極端に其の言葉に心醉して終つては、語義本來の嚴密なる價値が破はれて、從つて時代思想の流れが輕卒とならざるを得ない。

私は世の凡べての人々に對して、其の人々の使用する、言葉を促して、其の言葉本來の意義を詮議し、學究者としての席に使はれる嚴密さを以て、使用さるゝ態度を强いんとする程に、無用なる繁鎖を望むものではないが、今日の人々の用ひてゐる文化と言ふ言葉の使用の場所を考へて見ると、讀む人が背に汗する程の誤用がある、又誤用でないとしてもその術氣には唾を催す樣なものさへある。

凡そ輕卒に言葉が流行する場合は、其の半面に於て思想の流れも輕卒である。かく斷定は出來ぬけれども凡そかゝる傾向が認められる。それは言葉の對照に對する研究が終へられてあれば、かゝる輕い意味に於て用ひられ得る筈がないからである。

世の人々が考へてゐるが如く、文化と云ふ言葉が文明 Civilizatioa と言ふ言語と同一義を有するものではない。此點は

米田博士も其著「現代文化人の心理」の第一講「文化と文明の章下に、詳しく說明して居られるが、リツケルトも是れを同じ意味に於て其著 Rurturwissenschaft unc Naturwissenschaft に於て、幾頁かを此の意義の詮議の部分に充用してゐる。これは決して單なる、學究者の學的用語の無用なる繁鎖な分類と見るべきではない。要約すれば、文明と言ふ意義は、文化と言ふ意義の横斷的の性質を有するものである。たとへば英國に發生せる文化が世界的なる意義に供用せられて文明が發生し、其の發生過程の上から言へば、その文明は最早英國のみの意義に非ずして世界的に共通なる意義を持つ事となる。米國に於けるそれ、獨逸に於けるそれ、佛國に於けるそれ、何れも同じ意味に解すべきである。ワットが蒸氣機關を發明した當時は、決して文明を創造したものではなく、フルトンが蒸氣機關を船舶に應用したものもそれである。當時は英國に於ける文化、合衆國に於ける文化と言ふ、一國、一社會に於てのみ認められたる文化に過ぎない。それが、世界的に供用せられて同じ蒸氣機關になる、汽車、汽船が各國に創造せらるゝに及んで、それが初めて文明の形を採るに至るのである。日本に於ても此の事實を求むる事が出來る。天平時代の藝術の殿堂より洩れ出でし光を以て、私は決して文明と言ふ事が出來ないと思ふ。あの時代に於ける國民藝術の創造は、只だその時代人のみの克く創造した所のものである。平泉の金堂の建築、法隆寺の大架欄、及び其の壁畵、我が全國各地に散在する古建築、古器物等の保護建造物は、何れも皆我國の文化を見るべきで文明と言ふべきではない。然し乍ら、是れは餘程誤認せられて、心なき人々より、日本の文明は、と言葉に依つて言ひ做されてゐるが、嚴密なる言葉を以て言へば、日本の文化はあるが、日本の文明はあり得ない。——本來の意義では——たゞそれは各國の文物の流れ入るに及むでそれを消化し使用する事によつて文明は成立するが、然しその過程は已に日本だけに言ひ得るものではない事は前述の如くである。されば、日本と云ふ一國を單位として言へば、文化は生立するが文明は生立しない。

嚴密なる意味では、文化は創造であるが、文明は現象の總の應化 adaptation of phenomenone である。創造は創始であり、應化は同化である。創造と應化が相違するが如く、時間的なる概念上の相違が、文化と文明の間に存在するのである要するに文化は文明の母體であり、文明は文化に對して派生體として見るべきである。

二

然し乍ら、米國博士の說に從へば——同博士は日本に於ける文化の學術的研究を試みらるゝ唯一の權威者であるが故に同博士の說を標準にして論ずれば——文化と云ふも文明と云ふも、廣義に解し得るだけ其の意義に遡及せば、決して此の兩者を截然と區別し得るものでなく、只だ日本には近來文化なる語が稍々亂用さるゝ傾向があると見へるのは、獨逸文化が日本に輸入されて來た結果で、從來の英米流の文明概念を以てすれば、文化は今日程に有力に使用されないであらうと云ふ事を論じてゐられるが、私も嚴密なる考察を經て、此の說に從ふ一人である。

今同博士は「現代文化人の心理」の第二十九頁に於て「文

化の概念と民族主義或は國民主義」の章に於て、文化とは一國民一民族に附隨して産出されたるものであり、文明とは一國民一民族が、他國民の文化の度に同化された狀態であると云ふ事を述べて、次の如く示して居られる。

「クルツーア及びシヴイリゼーシミンと言ふ言葉、及び其の概念の起源や、英佛等の諸國民に於て先づ發達せるクールツアの概念の本質や、兩者の根本的の差異等に就て、極簡單であるが其の一般を說明したと思ふが、尙ほシヴイリゼーションの概念と、クルツーアの概念等を對照して考へる際に、發見される一差異のある事を述べて置きたいと思ふ」と前提せられて、

「それは一方に於てクルツーアの概念と、民族或は國民の概念との間に密接なる關係が發見されると同時に、多方に於てはシヴイリゼーションの概念と、人類全體或は世界主義或は人道主義の概念との間に、又密接なる關係が發見される事である。先づ文化クールツアと民族或は國民との關係に就て考へて見るが、今或る意味ではクールツアの概念は、本來民族の概念と、密接なる關係を含むでゐると言ふ事も出來るかと思はれる。（中略）されば今日の文化概念に於て文化と民族、或は國民との間に密接なる關係を認める思想は近世の産物であらうと思はれる。然らばかゝる思想は如何にして發達したかと言ふに、余はヘルデルや、フイヒテやヘーゲルなどが、文化と民族との間に密接なる關係を認めた事や、民族主義や民族心理學の發達等によりて、各民族が夫れ〳〵特有の精神的特質、或は民族精神或は民族性格を有し、そうしてそれが活動して夫れ夫れ特有の文化を發現するものと見る傾向の發達が、右の思想を産出せるものと考へるのである。もつとも他にも原因はあらうが少くとも右の傾向の發達は其の最も重要なるものであると思はれる。」と論述してゐる所によつて明である如く、文化本來の語義は、一民族一國民の極限的特質によつての所産であるが、文明は然るものでなく、英米流の所謂コスモポリタン世界市民主義、乃至中世に於けるローマの市民主義等の如く、極めて廣く解釋するべきもので、此の點を米田博士は更らに、語を續けて次の如く論じてゐる。

「然るにシヴイリゼーションの概念は箇々の民族ではなく人類全體に結び付く傾向を以つてゐると思ふ。是れシヴイリゼーションの羅甸語の起源から考へても、察し得らるゝので、さきに述べし如く、異民族の人々にも、羅馬の市民權を與へ、市民的品性敎養を具へさせると言ふ事が、ヴイリゼーションの概念の起源である。つまり民族差別を問はず、總ての人々をして同一の市民的生活を營ませると云ふ思想が、シヴイリゼーションの概念に、本來附着してゐるかと思はれるのである。」とて更らに「此のシヴイリゼーションの概念が英米流の世界的傾向、人類的或は人道主義的傾向を有する事は、シヴイリゼーションの概念が、主として英民族及佛民族の間に於て、殊に英民族の間に於て大いに發達したと云ふ歷史的事情と直接的なる關係があるかと思はれる」點に就て、

「要するに、英民族は近世に於て、他にさきだちて世界的大發展を有し、地球上到る所に領土を有して野蠻未開なる諸民族や、彼等の目から見れば文明の未だよく發達してゐ

ないと思はれる諸民族と、直接に接觸して來たが、其處で彼等は自から其等の諸民族を指導し、又支配して、文明化シヴイリライズする必要を感じ、更らに之に基督敎的傳導精神が結合して以て、英國民の文明化の活動を益々盛ならしめたのである。」

右に述べてゐる如く、同博士も文明は世界的に解決するを妥當とし、文化は、一民族一國民の精神的特質の表現であると解釋してゐられるが、私は全然之と同じ立場に於て、前來自分の說と符合せしめたのである。

三

而して今日本に於て、文化なる說が、非常に多岐に用ひられてゐるが、それも私の前述したる如く、日本民族本來の所存なる所の精神的特質を以て、かく稱するならば、私は此の文化なる言葉の使用に反對するものはない。然るに、どらかと云へば、英米佛等の思想の感化を受け來りし日本は、其の結果をも輕い意味にて文化と稱してゐるが、それは決して文化と言ふべきものではないと思ふ。それは日本は近代的なる形に於てのみ、西洋文明を取り容れた結晶と見るべきで、即ち西洋文明を取り容れた日本文明で、それを以て日本民族が本來的に使用する、又は所有する所の精神的特質より派生したものと見得るものではないのである。即ち是の意味から云へば、我邦今日の文化生活なるものは、此の意味を逆用してゐるのではあるまいか。日本本來の生活形式を放棄して、西洋の形式に則り衣食住凡べて洋風を取り容れて生活するの狀態を以て、文化生活を營みつゝあるものと考へ、又は本人自身が左樣心得てゐるものなどは、此の嚴密なる解釋によれば、それをして尙文化生活と云ひ得るであろうか？私の見る所によれば、それは文明生活であるが、文化生活ではない。

吾々の言ふ本來の意味の文化生活は、吾々の祖先の遺風を汲みて、其の精神的特質を發揚した生活のみが、日本に於ては日本の文化生活であると云ひ得る。住宅に於ても、本來の意味の含まれて居らぬ生活形式を以て、即ち洋式家屋に住居するの狀態を以て、文化生活なりと考へてゐる人々――然かも皮肉にも社會の新人を以て自任してゐる人々の間に於て――を發見する事が出來る。又藝術の方面に於ても然りである。日本には日本の本來所有する日本畵がある、彫刻があるが、西洋流のものを掲げ、又他よりもより多分に掲け得る生活を營みつゝあるの狀態を以て、文化に相應しき狀態と考へてゐる人を、吾々は容易に發見する事が出來る。衣食住共に、西洋式に則る生活の狀態を以て、文明生活と言ふならば、吾々は決してそれは誤つてゐる考へ方だとは云はぬ。又それは本來的には決して誤まつてゐるものではない。それは獨逸語のクールツア、レーベンでなくて、英語のシヴイリゼーシヨナル、ライフである。

私は前述せる如く、今日の誤まつて使用されつゝある文化の意義を本來の道に戻さむがために、文化と文明の本質的意義を說明したが、此の言葉の意味から出發して、所謂文化生活なるものに私見を以て批判をすれば、心あるものをして、冷汗三斗の思ひあらしむるものである。私は前にも云つた如く、學究者の用語の標準を以て、尋常人の日本語を律せんとするの愚を學ぶものではないが、文化と文明は、カテゴリー

に於て截然と辨別すべきものであると云ふ事を、一般に明にしたいと想ふのである。言葉を輕卒に信用する國民の思想は決して健實なものではない。外國輸入のものゝ意義と、日本個有の意義とを混用し亂用するが如きは、自己の無知を表明するに止まらで、國民思想がそれだけ動搖してゐる事を示す一つの立派な證據である。

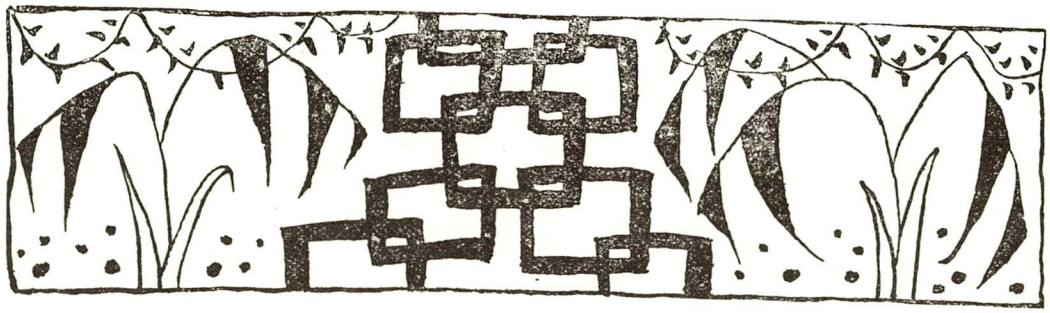
私は數年以前に、本誌に於て略同樣の意見を述べて文化本來の意義を明にしたが、然し巷間用ひつゝある所を見るに今尙、やはり數年以前と何等異る所がない。文化住宅、文化的服裝、文化的裝飾等と云ふものを見ると、必ずそれは西洋味を加へたものである。かくまで亂用されてゐる所は、米田博士も指摘されたように大戰前後を通じて、哲學界が凡べて新カント學派によつて支配せられ、一新學派たる文化哲學、文化科學なるものが獨逸の西南學派の人々によつて提唱せられ日本もそれが非常に影響して、マルクス學說の解說が、一部の篤學者によつて今尙行はれつゝある以外に、他の學究者としての新人は、何れもマールブルヒ學派に走つたゝめ、文化なる概念が非常に我國に浸染したのである。それが學問的には正當に使用されて居るとしても、一端學究者がそれを門外者に解說を試みるとなると、それが誤用の初まりになるのであつて、文化と云ふ言葉が、大正六七年の日本思想界の所謂黎明期に於て、その言葉が流行したのに見るも、その間の事情は極めて明である。

四

而して前にも一言したるが如く、文明と文化とが、その意義を相互に出來得る限り、外延的に解釋し去れば、實の所此の兩者の區別はよほど困難なるのである。何れが、文明であり、何れが文化であるかと截然と分つ事が出來なくなるのである。それは恰かも社會事業と社會政策とを、極めて廣く解釋すれば、その兩者は何れも同一物なるかの如く見ゆると同一である。然し今日の意味に用ひられてゐる限りでは、クルツーアと、シビリゼーションとは分つべきものである、私は數年を經たる今日、重ねて本誌に於て文化の意義を解く事を實に不愉快に思ふものである。

欅の木椎の木の葉のしづもりの

蔭に燃へたる花ざくろ花



水洗便所と汚物處理槽の關係及構造に就いて

——汚物處理法と其構成——

澤部實之介

汚物處理槽なるものは大小便所より排泄せられたる汚物に對する處理設備にして其の構造の如何は云ふ迄もなく、便所其の物の構造及び設備が汚物處理槽に及ぼす影響や大なりと云わざるべからず。

現在一般建築物内に取付けられたる水洗式便所に於て比較的多く、故障を有する物なりとは何人も否定しあたわざる言葉なり、されば如何なる原因に依る物なるや、又は故障を起し得ざる程度の構造なるや、されど水洗便所に於て其の使用法の順當ならんか、決して故障を生ず可きが如き理由は甚だ根據に乏しき事柄なり、然るに故障を生ずる處理設備にして其の構造の如何は云ふ迄もなく、便所其の物の構造及び設備が汚物處理槽に及ぼす影響や大なりと云わざるべからず。

現在一般建築物内に取付けられたる水洗式便所に於て比較的多く、故障を有する物なりとは何人も否定しあたわざる言葉なり、されば如何なる原因に依る物なるや、又は故障を起し得ざる程度の構造なるや、されど水洗便所に於て其の使用法の順當ならんか、決して故障を生ず可きが如き理由は甚だ根據に乏しき事柄なり、然るに故障を生ずる可き、根據を有せざる自體に於て如何なる、原因に依りて故障を誘導すべきやと云ふ事に關し次の如き故障を誘導すべき原因を有するものなる事を知り得るものなり。

イ、處定量の注水裝置とせざるもの

ロ、便所内に一定の使用紙を具備せざるもの

ハ、使用紙類以外品を便器内に投入せるもの

ニ、途水管の接合點の不完全なるもの

ホ、途水管の小徑なるもの

ヘ、送水管に勾配を有せざるもの

ト、送水管の腐敗槽内投入部分構造不完全に依るもの

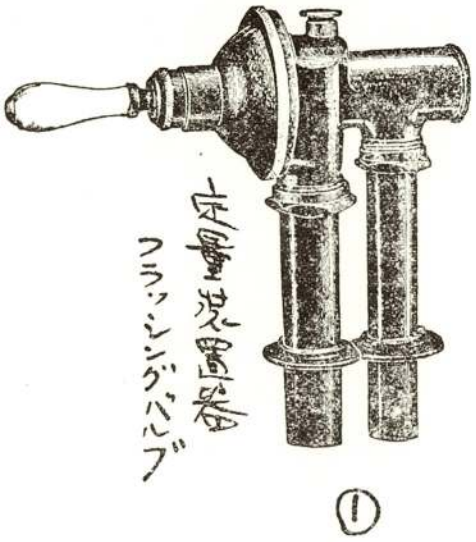
チ、ウトラップを用ひざるもの

リ、送水管材料を鉛管とせざるもの

以上列記したるは、主として水洗便所に關する物を示したるものにして、處理槽に於ける場合に關しては別項に於て標示する事とせり。

イ、處定量の注水裝置とせざるもの

總て水洗便所に於て使用せらる可き水量は常に一定せらる可き理由を有せざる共、之れが使用の場合に於て機械的設備を爲す時は、不定量注出法に依りつゝある物に對比し其の使用法簡便なるも、一面より不定量注出法を見る時は、家庭内に於けるが如き場合に於て相當の繁雜を月視し得らる場合にありては、



(イ)



然れ共、之の手段にては、カラン式に賴らざるべからず、さればカラン式とは如何なる物なるやと云へば普通上水道栓に於て見るが如き、手廻しカランの類にしてこれが使用の場合に於ては水を出すがための手段及水を止むるがための二手段を要す可く極めて手數を要する物のなるがために普通住家等、小人數の所においては問題となる可き事なきも、多人數の使用者を有する商店、會社の類に於ては甚だ繁雜なる行程をなす物と云わざるべからず、されど定量式に於ては絶體的故障を有せざるとは斷定し難きも不定量注出式に於ては絶體に故障を有する事なきも、不定量注出法による物は主として其の立脚點を水量使用上の儉約を主となし顧慮したる物ながるために汚物の送水せられたるが如く見ゆる場合に於ては人意的に、送水を中止せしむるが故に、給水管内に起る故障の原因を作製せしむるが如き物にして、目擊し得られざる便器排水口より腐敗槽内に入る可き送水管内に有する故障の如きは主として、送水用水量の不足に起因する物なり、然るに水洗便所における故障の八割は送水管内に起る可き物なるが故に之れが防止上不定量注出法の如きは、用ひざるを可とすべき多くの事柄を有するものなれば之れが理由の原因と結果を考察するを要する物なり。

ロ、便所内に一定の使用紙を具備せざるもの

現在使用せられつゝある水洗便所に於て、故障を生ずべき原因は一つに使用紙の具備即ちトイレットペパーの有無に起因せる事は多言を要せざる所なり。

水洗便所は在來の汲取便所に比すれば複雜なる裝置と設備を要する物なるが故に、之れが使用方法に於ても一段の注意を要するは理の當然しからしむ所たり、然るに一般使用者の現狀を見る時は如何無理解の使用者と、無關心なる設置者を其の故障の多くが構造の不完全なるが如く考ふる者あるも、必ず施設不完全に依る物とのみ斷言し得ざる物にして、使用者の理解の有無に依りては、之れが故障を除去し得べき可能性を有する物と云わざるべからず。

されど現在便所内にトイレット、ペパーの常備せられたるは極めて少數なるが

使用水量を節約し得らる物なり、なんとなれば、使用者の如何に依りて、常に一定量の注水を要せざるがために水量の半減する事もある可く經濟的、方法の一手段とも見得らる可き物なり。

故に先づ之れが設備を全うせしむるを要する物なれ共、水洗便所に於ける經常費は汲取便所に於ける場合に比較すれば極めて多額を要する物と云わざるべからず、然れ共大商店、會社、集會所、劇場等多人數が使用せんとする場所に於ては、市内等に於ては汲取便所に於ても相當經費を要する物なれば、自然淨化の方法を用ふるを有利となすものなり。

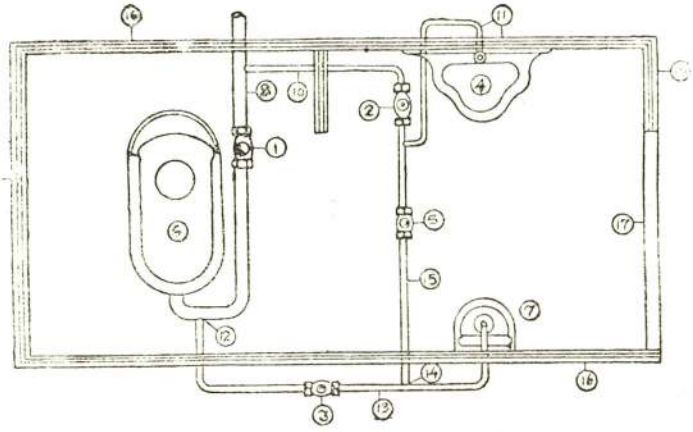
されば水洗便所において先づ、トイレットペパーの具備を完全にせしむる事に依りては際限なく生ずる故障に對し絶體的、之れが防止は困難なる事柄と云へ共、人意的に生ずべき、當然起る可き故意の故障に對しては、絶體的之れが障害に對する防備の完全を期し得べきものなり、されば水洗便所に於て、事簡單なる物に屬するが故に之れが具備に相當、留意を必要とする所以なり

ハ、使用紙類以外品を便器内に投入せるもの

水洗便所においては便所内落口より腐敗槽内への送水用管の徑は、特別事情を有する物は論外なるも通常三吋半より四吋の口徑を有する物を使用し、尚ほ臭氣の防止上トラップを有する事は誰しも知る所にして、用便中使用すべき紙類に於ても、之れが管徑を容易に通過せしむるものを要するものなるも、之れが構造の有樣を知らざるが故か又は在來日本便所に於ける慣習に依り起る可き事柄なるかは、不明に屬する物と云へ、何人も想像し得ざるものを投入せしむる事實を見出す事を得る物なり、斯の如き場合に於ては日本便所と異り、便所の使用を中止し之れが修繕に相當の期間を要するが故に、必ず使用紙以外品の投入を、水洗式便所に於てはなすべからざる事なり、故に、施設者において相當之れが防止に注意せざるべからず。

ニ、送水管の接合點の不完全なるもの

自働洗滌裝置ノ說明



本裝置ハ用便後定量瀉水弁(1)ノ押釦ヲ踏ミ下ゲ直ニ足ヲ放ストキハ給水管(8)ヨリ入來リタル水ハ便器内(6)ヲ洗滌スルト同時ニ水ノ一部ハ管ノ分岐點12ヨリ入リ逆止弁(3)及ビ管内13ヲ經テ手洗用ノ如露(7)ヨリ噴水シツツアリ之ト同樣ニ小便器(4)ニ於ラモ用便後定量瀉水弁(2)ノ押釦ヲ踏ミ下ゲテ置クトキハ給水管内10 11ヲ通過シ同便器内ヲ洗滌セントスル水ノ一部ハ逆上弁管内15分岐點14ヲ經テ手洗用如露ヨリ適水量ヲ噴出シタル後自働的ニ止水ス依テ用便後何レヘモ手ヲ觸レシメズシテ定量ニ瀉水セシメ汚物ヲ洗滌シ又同時ニ手ヲ洗ヒ得ベシ而シテ大便器内ニ瀉水シツ、アルトキハ逆止弁(5)ハ自働的ニ閉止シ小便器ヘノ流水ヲ止メ又小便器内ヘ瀉水セシムルトキハ逆止弁(3)ニテ大便器ヘノ流水ヲ止ム斯ノ如ク衛生裝置ノ進歩ハ勿論畫尙便利ナル最新式特殊裝置ナリ

送水管の管徑の小なるものは又、汚物送水上其の結果に於て故障を相當生ずるものなるも、其の原因や主として送水管の接合點に於ける接合方法の不完全に起因するものなる事は明白なる事實にして然らば不完全なる接合方法とは如何なるやと云へば、管内部に於ける接合によりて生ずる粗荒部を有する事に依る物にして、之れに固形物の附着する事に依りて時を經るに從ひて管内を密閉するが如き狀態となり、ついに故障を生ずるが如き場合となるものなり、されど斯の如き場合は普通住家に於ては、少なき物なるも多人數が使用する場所に於ては最も注意を要する物にして、出來得る限り、接合部を減少せしめ、便所一ケ所毎の汚物は直接腐敗槽に導く構造となすを可とするも、位置及經費等の關係上より數ケ所の送水管を、大なる一本の送水管に接合せしむる場合に於ては、接合方法に付ては相當の注意を要すべく、ビルデイング及學校等の如きに於ては、先づ設置せられたる便所の總數が同時に使用せられたる物と算定し、之れに依りて一時に排出せらる汚水量の總計を排除し得らる可きより以上の送水管となすを要す可く、送水管の徑小なるが故に汚水の逆流により便器内に霧出せしむるが如き場合を有する物なるが故に、送水管の接合方法と手段に付ては完全なるは云ふ迄もなき事なるも之れが離合に關しては細心の注意を要するものなり。

（附記）

一般に汚物の送水に限らず、送水管内の兩端が共に水面内にあるが如き場合に於ては送水管には相當の空氣の潛入せるを普通とするが故に送水のために管内に潛入せる空氣は壓縮せらるが故に、之れが外氣に接せんがために、比重關係等の原因に依り乘透するは當然なる事なり、されば汚物送水管の如き、便器接合點に於て　トラップを有し、一方に於ては、汚物處理槽の腐敗槽内に深く投入せられ居るが故に、管内の空氣は全く外氣と斷せらるが故に一便器内汚物の送水により、管内空氣は壓縮せらるが故に、之れが逋出せんとする場所を求む可く、されば送水管數ケ所を接合せし場合に於ては使用せられざる便器の方向に向ひ當然逋出し露出するが如き結果を生ずるがために、相當なる補助設備をなす事を要する物にして斯の如き場合に於ては送水管の一部に於て空氣の外部に逋出す可き通路の開拓ケ所を設けしむる事、卽ち排氣設備等を有する場合に於ては、之に連續せしむるか、又は二重て換裝置となして汚水の露出を防がざるべからず、それ獨り汚水の送水場合にのみ限りて起る可き問題ならざるが故に、水道、衛生諸工事に對しては相當施設に顧慮を要するものなるの所以なり。

ホ、送水管の小徑なるもの便器と腐敗槽間に於ける送水用に使用すべき送水管、卽ち汚物の送水設備のために用ひられたる、管徑は小なるもの依り大なる物を可とするも、經費等の關係より小徑の物を使用する場合極めて多きが故に斯の如き場合に於ては少なく共も三吋半以上の物を使用せざるべからず、出來得る限り四吋以上の物を使用するを可とすべく、萬一小徑なる物を使用せしが如き場合においては、土地の狀況及便所の位置の關係により、垂直部に屬する部分は、水平部に屬する徑より小徑の物にて事たるを得るも、水平部に屬する部分は相當大徑の物を使用する時は、其の結果に於て相當價値を發揮する物なるが故に、此等特種部分に對する工事の補修

に對しては困難且つ高價なる修繕を要するものなるがために、施設の初めに於て送水管の小徑なるものは、故障に對する安全率の小なる物たる事を知らざる可からず。

ヘ、送水管に勾配を有せざるもの

二點間の差位大なるとも其の距離大なれば、勾配緩なる可く、二點間の差位大ならずとも其の距離小なれば勾配急なる可きが故に、送水管に於ける勾配の如何も又便所と淨化裝置の位置の關係に他ならざる物なり。

故に勾配を有せざる場合に於ては、先づ腐敗槽を便所に接近せしむるを要すべく、又相當勾配を有する時は其の距離大なるとも支障なきものと云わざるべからず、腐敗槽内を通過せし汚物は比較的水に近き液體となり居るが故に、送水自由なれば、便所より淨化裝置への距離大なる物に對しては、勾配の充分取り得らる物は此の限りにあらざるも、然らざる物に於ては、先づ腐敗槽のみを接近せしむるを可とすべく、先づ固形物の送水より單なる液體となし、送水を容易になし、勾配を有せざる場合に於る相當處置を構じ汚物の送水を圓滑ならしめざる可からず、されど此の場合一間に對し二寸の勾配を有せしむる事は圓滑なる送水方法と云ふ可き事柄たり。

ト、送水管の腐敗槽内投入部分の構造不完全に依るもの

汚物の送水用管は固形物を送水せしむるを以つて、土管類の如き内面の粗雜面を有するが如き物は、使用せざるを可とするものなり、なんとなれば、送水用汚物の流出を圓滑ならしむる必要を有するが故なり、されば主として、其の用材は鉛管の類を用ふるを可とする物なり、なんとなれば内面圓滑にして酸類のために腐喰せらる事なきがためなり、斯の如く鉛管は材料其の物としては極めて有要なる物なれ共、其の使途の如何に依りては何等効力の發揮をなす物にあらざるがために腐敗槽内投入位置の如何に依りては大いに其の効果に相違を來す物なるが故に、之れが工事に注意を要し、技術上特種の技工を有する事は、諸種のパテント理由として之れが特許を有するの多きに至りたるものなり。

然れ共、斯如き物は總て複雜なる構造より單純なる構造を有する物が萬一の故障に對する修理の容易なる物となるものなれば之れが撰擇に關しても注意を要する理由なり、送水管の投入構造及手法に付て次の如き場合の生ずる物なる事を知らざる可からず。

一、送水管口の側面より開口せるもの

二、送水管口の垂直投入せらるも汚水面に達せず開口する物

三、送水管口形に屈曲開口したるもの

四、開口部の水面に遠きもの

五、開口面の水面より近きもの

六、開口部の切斷面圓杉なるもの

七、開口部の切斷面隋圓形なるもの

八、開口部面の側壁に面せるもの

九、開口部面の側壁に面せざるもの

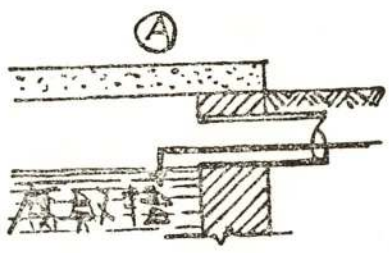
十、最も適當せる開口部の位置を有するもの

各部の構造に付て示せば次の如し。

一、送水管口の側面より開口せるもの

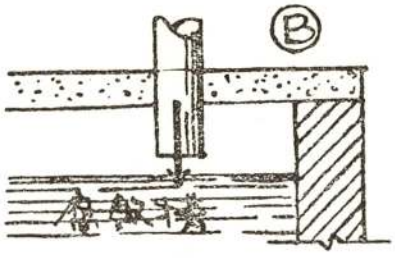
A圖に見るが如き場合にして、下水溝に於ける、土管と會所との連接裝置の如き場合にして、便器落口より腐敗槽の距離大なる場合又は排出作用を敏活ならしむるために、送水管に急勾配を附せんがためには、當然其の管口の開口位置も腐敗槽内の一側面に設けざる可からず、されど此の場合に於ては、其の開口位置、

即ち同一側面においても、匂配の關係等より、水面上に開口する場合、又は水面以下に於て開口する物もあるべく此等の狀態が如何なる結果を生ずべきやと云へば、水面上又は水面に近き部分における水中に於て開口せる物は結果不良に終る場合多く故障を生じ安く、下方に面する部分に至るに從ひて順次故障を生ずべき度合を減少し得る物なり、されど下方に至るに從ひて其の故障の度を減じ得るとも、形投入に比較すれば、より以上に減少し得られたる物と思料せらる可き物なるが故に實際に於て餘り採用せられざる物となりしなり。



二、送水管口の垂直投入せらるも汚水面に達せず開口する物

B圖において見る如く、A圖において見る場合と共に最も多く普通行わる方法手段なるが故に、一面より考察する時は何等故障を生ず可き原因となる可き物を見ざるも、もし此の方法を用ひんか、想像だに有せざる、不結果を生ず可き事は事實の多くが之れを證明せる所にして、當然起る可き、一大原因を有するものなり、されば經驗少なき工事施行者に於て設計及施行をなさんか、然る時は、衛生工事又は汚物處理裝置に於ては、比較的故障を生じ、多數の人々をして困却せしむる事の多きは、實地の經驗に乏しきが故に生じだる問題にして、理論と實際が必ず一致すべき物にあらざる事を物語る物と云わざる可からず、なんとなれば、此の場合に於て腐敗槽に導かれたる汚水は如何なる沈澱狀態を有する物なるかと云ふ可き事柄にして、C圖に於て見るが如く腐敗槽内の汚水沈澱狀態を、先づ之れを三段に區別し得らる物なり。



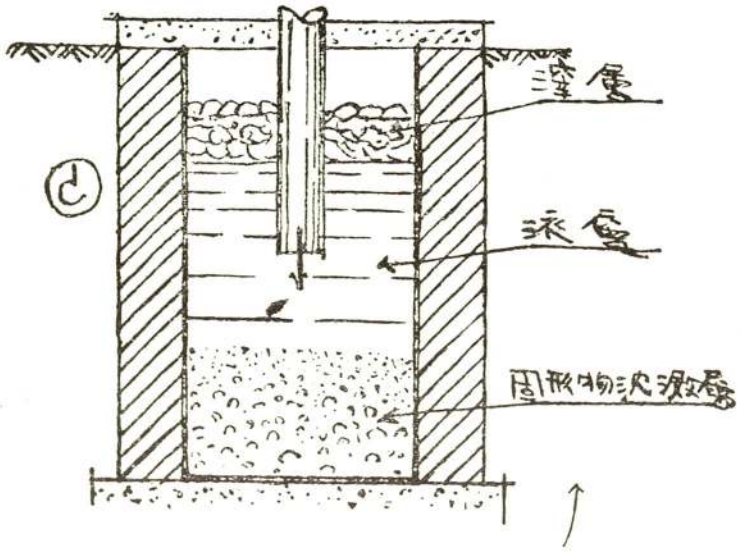
腐敗槽内に於ける汚物の狀態に關しては後記するが故に、こゝには省略するも最も注意を要するは、圖示に見るが如き上部において滓層を作る物なり、故にこれがために送水管口の開口位置の水面上又は其の附近に於て開口せしむるの不結果を生ず可き理由を有するものなり。

滓層に付きては後記するも極めて强固なる上層を形成する物にして、コンクリート層の如き强固さをついには有する物たる事を知りおかざる可からず、然るが故に開口部の位置の水面より下方に至るに從ひて好結果を得る理由たり。

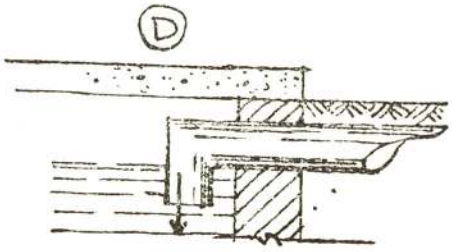
三、送水管口　形屈曲開口したるもの

D圖に見る如く送水管を腐敗槽上方に於て　形に屈折せしめたる物にして腐敗槽内において送水管の開口方法は前述せし二つの場合と本項において述ぶる場合の三手法に限られたる物にして、以下述ぶるは主として開口部の位置に關する事柄と見る可き物なり。

D圖に見る如く此の方法に於ては第一及第二の場合の二方法を融合したる形態にして、一に於ける缺點は　形になし開口部を下方に面せしめたるが故に除去せられ、第二の場合に於ける汚水の水面に對して送水汚物が一直線に直下する事なく腐敗槽内に入るが故に、著しく槽内を攪亂せしむる事なき物なるが故に、總て



は、前者に比して可なるもC圖に見る如く腐敗槽内の汚水は、滓層　液體層、固形物沈澱層の三層を形成せるが故に、固形物沈澱層に於て開口せしむるが如きは、却へつて攪亂せしむるが如き結果となる可きが故に、開口部の位置の如何が、其の効果に及ぼす所や重大なる物なり。



五、開口部の水面に近きもの

水面に近き部分、即ち水面上に於ける場合、及び水面下に於ける場合を有す可く、いづれの方法に於ても、滓層上又は滓層中において開口せる物なるが故に、共に其の送水管の開口は結果に於て可なる物と云ひ得ざるものなり。

六、開口部の切斷面圓形なるもの

普通送水用鉛管は圓形切斷面を有する物なるを以つて開口部における切斷面を圓形となしたる物にして、同一圓周を有する物の最大面積は圓形なる理より、開口部の面積の大なるを要するを有利とするが故に用ひられたる物にして他に何等理由を有する物にあらざるなり。



七、開口部の切斷面隋圓形なるもの





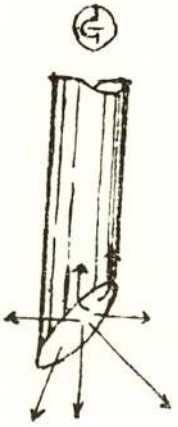
此の場合は前項の場合に於ける同一圓周の有する最大面積を同一圓筒に於ける切斷面積を大にせしむると共に、之れが送水管として腐敗槽内に於て開口せしむる時は圓筒の垂直斷面を有する圓形の場合より、切斷面の斜面角を有するより、下方及側方の一面に汚水の流出せしむるが如き狀態となり、理想的なる流出手段と見る可き物なり、されば第六に於て述べし物に比し腐敗槽の最も嫌忌すべき槽内汚物の動搖を減少せしむる事を得、固形物は下方に

送水管投入方法としては、事情の許す限り腐敗槽側面よりL形となし開口せしむるを最も可なる構造と見る可き物なり。

四、開口部の水面に遠きもの

此の場合は、前述せし如く、水面上に於て開口するもの又は、水面下に於て開口する場合を有すべく、前者は滓層上の開口となるが故に不可と見るべく、後者

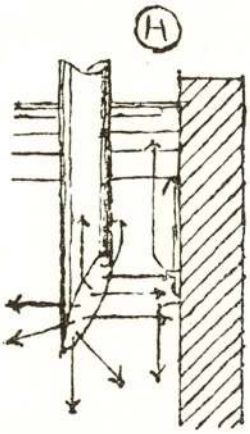
沈澱し、浮遊物は側面より比較的上方に浮列するがために、腐敗槽内に於ける菌の作用を助長せしむる事を得る物なり。



以なり。

八、開口部面の側壁に面せるもの

開口部面を側壁に面せしむる事は最も普通に用ひらる可き、實地及理論的に於ても合理的なる物と云わざる可からず、なんとなれば開口部面を側壁に面せしめたるがために周圍への流出による場合に於ける波動が下方と側面に面せる部分に多く傳ふるが故に流出せし汚物は固形物の沈下と、側面に當りたる比較的輕き固形物も同時に沈下せしめ得るを以つて眞に好都合なる裝置と云わざる可からず、されば送水管の取付けせんとする場合に於て、少しの注意を用ふる時は其の結果において更に有効度を增加する物なれば一層の注意を必要とすべく、汚物裝置の如く全く理論的立場より出發したる物においては更に相當の努力を必要となす所



九、開口部面の側壁に面せざるもの

腐敗槽内に於ける汚水の送水管口の位置と、切斷面の方向の關係に依りては其の結果は腐敗槽内に於ける効果の及ぼす事や大なり、されば開口部の側壁に面せざる事により、其の切斷面の圓形なると隋圓形なるとを論せず、腐敗槽内に於ける汚水の動搖極めて大なり、故に此の點に關し留意する時は種々なる方法を考察し得べき事となるも、決して複雜なる物は如何に合理的なると云へ共使用すべからず、なんとなれば、もし之れが修理の必要を生ぜんか、普通日常吾人が使用せるが如き物品の修理と異なり、之れが修理は難事中の難事と云わざる可からず。

されど以上述べたるが如く開口部の位置に關し種々なる方法も生ずる物なるも要は即ち一にして腐敗槽内に於ける汚水の攪亂をさけるがために施されたる手段を最も當を得たる物と云わざる可からず

されば如何なる方法と手段を用ふれば完全なる汚物處理槽に於ける行程を完成せしめ得らるや、それ必ず現在使用せられつゝある汚物處理槽に對する一革命的衝動を與ふ可き物と信ずる所以なり。

十、最も適當せる開口部の位置を有するもの

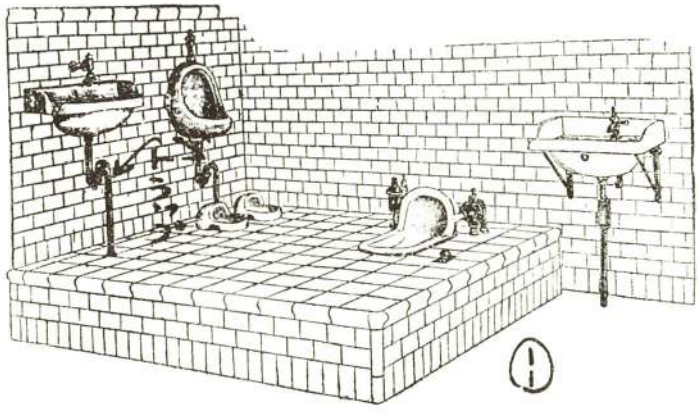
腐敗槽に於ける自體の構造は深度の最小限度は之れを六尺と現在に於ては規定せられ居る物なり、又規定なきとするも其の有効度は六尺以上の深度を有せしむる事の必要は學理的に説明せられつゝある所なり、されば適當せる開口部の位置と云へ共腐敗槽の其の深度に依りて相違せるを普通なるが如く考ふる物なるも、汚水面より三尺内外の位置を持つて最も適當せる位置なりとす、なんとなれば、

圖に示せる如く、滓層及固形物沈澱層との中間液體層に於て開口せるが爲なりされど、こゝに示す其の深度は、理論的又は學理上の説明にあらずして、實地上多數腐敗槽構造と故障の度合に依りて經驗したる實則數と見る可き物なるも、これ主として現在用ひらる腐敗槽に於ける

場合なるが故に他に適當なる、送水管の開口方法を有せんか、必ずそれを嚴守すべき必要を有する物に非らざる事は、論ずる迄もなき所なり。

十一、Sトラップを用ひざるもの

Sトラップを使用する事に依りて得る利益は、大なる物と云わざる可からず、如何に水洗便所が無臭なるが如く宣傳するも、Sトラップを使用せざる場合に於ては、臭氣の便所内より發散するは論ずる迄もなき事にして、之れSトラップなる物が斜斷作面を起すが故なり、又Sトラップを使用せしめたるが故に、故障を未然に防止せしむる事を得る物にして人意的による故障の如きは、トラブッ用S形となり居るが故に其の類を送水管以後の部分において起せしむるが如き事を有せしめざる物なり、さればSトラップを使用せざらんか、臭氣は常に便所内に存在し人意的故障に對する防止は極めて困難なる物となる可き事を知らざる可からず。



り、送水管材料を鉛管とせざるもの經費等の關係より送水用管材を、土管類を使用するが如き場合を有するも、此等の材料においては、内部汚水流通面の粗なるが故に、固形物の附着を來し、ついたこれがために管内の密閉となり障害を來す物なるが故に、酸類及鹽類等に何等作用せられざる鉛管の使用に於ては、故障は之れを未然に防止し得らる物なれば、萬一鉛管を使用せられざる場合においては、之れに變る可き適材を使用せしむる樣留意せしむる物なり。

以上は汚物處理槽に最も關係を有する水洗式便所と、之れが衛生工事上の構造と、作業上の注意を列記したるに過ざる物にして、更に各部の構造に對しては相當の詳細記事を要するも、こゝにはこれを省略し、汚物處理槽に於ける概要及構造と、各部の構造設備に關し列記せんとす。（以下續く）

日のひかりかげり來れば
枝枝の柘榴の花は
搖れてそよげり



新らしき建築美

山崎萬壽夫

——これは我が朝。我が日は始まる。來よ、今こそ、來よ、汝大なる眞晝よ！（ニイチエ）

十九世紀に於ける自然科學の勃興に發した物質を即ち富を主とした華々しい勝利の歌が歐洲の一角に起つて世界の隅々まで其の聲が響き渡つた結果は極度に精神を疎んじ物質を偏愛する奇形文明を構成したのであつた。其精神の發達と相伴はない異常な物質の繁榮は竟に唯物論と無神論を謳歌して社會が共通に有つ目的理想を失墜するに至つたのである。人心を統一する高遠な目的は消滅し爲めに各人の心はそれ自らに分離し非人道になり際限のない物質の爭奪に苦闘するに到つてそれは非愛國的、厭人的傾向を明らかにして其目眩しく作用する外的刺戟を以て人の心身を擧げて頽廢の底へ底へと導いてゆくのであつた。私等の社會からは意志、勇氣、責任等の道德觀念が次第に跡を絶ち人間の性格と世間の輿論とは益々不健全に過敏になり狐疑的になつて常に動搖し私等の行爲からは嚴肅な論理を求めることが出來なくなつた。凡ゆる罪惡は感傷的な申譯を付けて保護され正義の憤怒は恐怖を含むだ冷笑に變化して人間の心は麻痺してしまつた。恐怖、倦怠、感傷、發作的狂熱、非常識、主義——近代人の殆どがこの病的心理に左右されてゐると言つて過誤はない。

併し斯かる時代傾向に我國が犯されたとは言へそれは唯非常に急激な外國文物の輸入に眩惑されて盲目的な模倣に自ら

を省みることを忘れてゐるうちに征服されたに過ぎないのである。それは世を擧げて歐米模倣に餘念なかつた灰色の薄明の時代のことであつた。

まもなく斯る文明の隆盛は其發祥地から絶望の叫びを擧げ伸長力のある生命を壓する不自然な斯る重壓は竟に劇しい反撥を受けねばならなくなつた。

精巧に造られた物質文化の大建築は其の基礎から覆がへされむとする。華々しいその第一線は精神と物質との轉換にあつた。

藝術の原野は未來派首將マリネッティの宣言に曙してヘルマン バアルの絶叫に獨逸表現派の眞紅の色が輝き始めたのであつた。幾何くもなく未だ過去文明の醉が醒めきれない私等の同胞は其華々しい戰ひの姿を見て忽ち發作的病的狂熱に犯されて其思想の輝ける一面を輸入し其繪畫の新らしい技巧を模倣し其建築の純一さを會得理解し得ずして我がものとせむとし而して言ふ「過去は葬られたり」と。憐れむべき私等の同胞は自身なほ過去の變態文明に深く犯されたるを意識してゐないのである。從來のものが概して葬り去られたと言ふもそれは葬られるべきものが葬られたに過ぎないのである。それは其最初から死滅性をもつてゐたと言へる。永久性をもつたものは永久に亘つて滅びないでゐる。それが何處までも眞理であるのに私等の同胞は只新らしさにのみ泥醉して謳歌する。表現派主義も未來派主義も共にそれを生むに到つた國——國民に各々にそれを生むべき思想が意識的に或は無意識的に準備されてゐたればこそ其れが進みゆく進路が展かれて遠き彼方に人格の光、生命の統一の輝きを仰ぎ見えたのである。

「眞實は我々に凭つて創造せられなくてはならない。對象の意義が穿たれなくてはならない。信ぜられ、馴らされ、記述された事實を以て滿足せられることは出來ない。宇宙の姿が純粹に藏はれず僞られずに映發されなくてはならない。併しながらそれはただ我々の中にある」と茲に表現派主義の力點が置かれてゐる「そこには色彩や構圖の形式的な調和がそれ自身の主觀的目的に於て强調されてゐる。此の傾向を若し極端に押してゆけば竟には單に客觀的なる要表の配列關係を目的とする純粹な形式主義に陷る譯であるが然しさう云ふ形式主義の方向は既に客觀の意義を否定し去つて專ら主觀の目的丈けを强調するものになる。然かも前に云つたやうに印象の主觀主義に對する反動としての表現主義はその主觀に於ける客觀的形式を主眼とするのでその客觀に於ける主觀的形式を目的とするのではない。故にその行き方は客觀的實在を抽象して形式化する普通の裝飾的傾向にあらずして客觀的形象を保留し乍ら只それを統一する原理をば吾々の感性の或る客觀的な法則性に求めることでなければならぬ。云ひ換へれば無意識的に吾々の主觀の Mechanism によつて客觀を變改するのでもなく又無法則的に勝手に吾々の Fantasy でそれを變改するのでもない。但又單に客觀を破壞してその破片を吾々の感情表出の具に供するのでもない。客觀を統一すべき吾々の感性の或る自律的な法則性が意識的に表現されるのであるそしてその法則性の基礎が偶々一般的な統覺の形式原理と一致する限りその結果に於て裝飾的な効果を生ずるのである。しかもこの法則性の基礎としての自律性

は結局に於て客觀化されたる個性の內容即ち經驗的な「自我」の主張を離れることが出來ない。故に感性の法則性若しくは「主觀」の客觀的形式といふものは所詮主觀を貫く個性の法則性である」（大西氏）

然るに私等が見た限りの我國の此派或は此派に似たる——？——の建築物並にその計畫には無法則的に勝手に其人のファンタジイで變改した奇形に等しいもの單に客觀を破壞して得た碎片を拾ひ集めて適宜に繼ぎあはせた自墮落な何等鑑賞に値ひしないものが多く勿論次代へ傳へ殘すべき價値なきものが殆どである。それにも拘はらず斯かる同胞は頑としてそれが新らしい美を有つ新時代に贈らるべき建築藝術であると盲信して省みないでゐる。だから私等は Fr. Vischer 及 "als leben in sich gespiegelt" と言つたやうに美は常に創造的意志其者が自己の影を映したものでそれは自己自身を對象化したものであり純粹意志の自覺であると云ふことを特記する必要を認める。

表現派建築も未來派建築も共に過去の記錄として復興式建築の仲間入りをするときが近付いて來た。明治維新以後に於ける我國の文明は西方の文明の斷片にすぎなかつた。それは理性と科學との貧弱な文明であつた。同時に知識の文明であり機械の文明であつたけれどその貧弱さには變りがなかつた。最初より永遠性を有たなかつた綺羅びやかな此の文明は早やその行くべき處まで行き盡くさむとして愈々局面を一轉すべき必要が逼迫して來た。大戰後に於ける歐羅巴は正しく其新傾向を最もよく私等に語つてゐる。試みに彼の國々よりの刊行物を見よ。音樂に繪畫に彫刻に文學に思想に宗教に一切文化の方面に於て彼の國々はその破綻を示して私等同胞の共有する東洋文化のなかに新らしい生命の旋律を求めやうとしつゝある。現代哲學の全野に亘つて其思想上の革命へと展開しつゝある獨逸の現象學（Phänomenologie）の主張者の思想の流れのやうに凡ゆる經驗科學は「空間」の中に現存する事實——色彩、音響等——を以て其の研究の對象とし而も「超時間」的に直ちに其本質を把捉せむとして居るのである。斯うした態度——純粹意識の立場に立つて——物の本質へ肉迫する一種の直觀は古來より東洋に發達した直觀的な態度と深い共鳴點を見出すことが出來る。

往時、有我（Atman）と輪廻と業とより成り立つた美るはしい婆羅門建築にも將た又無我（Anātman）と輪廻と業とを基礎に据ゑた佛教の莊嚴な大建築にも「季路問事鬼神、子曰、未能事人焉能事鬼。敢問死、曰、未知生焉知死」の一文にその現世的立場を能く現はしてゐる儒教の建築にも等しくその特色とするところは幽玄、靜寂、淵默な內的生命の深奥さであつた。併し其の反面にあつて斯かる東洋思想が頑固であり固陋であり偏狹であり獨善であつたことを知つてゐなければならない。

私等は過去現在の一切を抱擁し攝取して正に五千年の昔よりなる私等同胞の東洋文化の眞生命を充分に發揮するべきときが漸進して來たことを自覺しなければならない。同胞よ。西洋謳歌の相繼いで起る眠りより醒めよ。

而して自覺の時代より更に進み出でて自己の固有文化を實現するの努力に戰はなければならない。

私等同胞の文化の特有色——直覺的、

靈智的、象徴的、精神的、具體的――を以て全人類を普ねく照らし出す時季が正に到來せんとする。

併しこの問題は只の異國的な刺戟を求めるやうな安價な低徊ではなく全世界のあらゆる偉大な藝術に共通な或るものを把捉することにあることを瞬時も忘れてはならない。

「東洋意識の妙へなる花が新文化の上に咲きかけて來た。キップリングは嘗て「東は東、西は西」と歌つたが、さうした考も既に時代後れになつた。「東は西」「西は東」といふ眞に融け合つた渾一な文化が私共の前途を照らすべき時代が來た」（金子氏）　完

大阪市社會部調査課では最近一箇年間に於ける市内の借地借家爭議より見たる住宅問題に就いて左の如き考察を下して居る

◆

市内住宅の概況は二三年前に比し不景氣の結果市内を去るもの若くは同居するものが漸く多くなつたため一般に空家の數が增加して居るが、それにも拘らず家賃値下の傾向が見えないため收入に對する家賃の高率が借家人を苦しめた事は矢張り住宅數不足の時と同樣である

◆

從つて爭議の原因を見ても殆ど其の悉くが家賃問題に結びついて居る事は特に注目に價するわけであり而も家主よりする要求が大多數を占めて居る事は家賃の昂騰が彼等を驅つて消極的より積極的態度に移らしめる程痛切に借家人の生活を脅かしたからである今いま程の參加人員によつて一箇年間の爭議が最長二百二十日平均五十日内外の久しきに亘つて執拗陰惨な戰ひを續けたかを見るに、その人員は二千七百二十名といふ大多數に達して居る、そしてこの内借主が貸主の約三倍に相當する多數を占めて居ることは利害を同じうした借主が結合を背景とし團結の力を以て資本家たる貸主に對抗したことの好適の證左である

◆

ではその結果如何と云ふに大體に於ては借主側の勝利であつたと云ひ得るがそれにしても充分の收穫を齎し得なかつた事は貸主が住宅又は土地拂底と云ふ城砦に據り明渡しの新戰法をもつて頑強に應酬したからであるゝ之を要するにこの一箇年間の住宅爭議は撤頭撤尾家賃問題を中心とした爭議であり借主側が積極的態度をもつて貸主側に對抗した事が顯著なる特色であつてこの爭議より見たる住宅問題に就ては左の數項を擧げる事が出來る

◆

一、近來家主は同一借家の永住を欲せず種々なる口實のもとに家賃の値上を要求し若し聞き入れられざるに於ては忽ち家屋の明渡しを迫り新舊借家人の交代ある毎に家賃を吊り上げる傾向が顯著である事

二、普通の手段による家賃値上の不可能なる事を知つた一般家主間では最初より家屋の明渡しを要求する事によつて間接に家賃の値上を承認せしめると云ふ敵本主義を採用するものが著しく增加したこと

三、家賃に關する爭議が最多である關係上その生活を脅かされた借家人は必死とならざるを得なかつたので本爭議の色彩は勞働爭議と大差なく執拗陰謀であり然も團結は力なりとの觀念が借家人の間に相當根强く蔓つた事

四、家賃滯納を原因とする爭議が相當の數に上つたことは經濟界の不振によるもので經濟問題としての住宅問題が依然勢力を有すること

◆

五、家主の家賃値上の要求に應じないい許りか却つてその減額を迫る傾向が借家人間に著しくなつたのは特に近來の所産として注意するに足ること

六、家主がその所有家屋を轉賣する毎に家賃の昂騰を來たしたこと及び借家人が家主に無斷で老舖雜作を賣却したことが爭議の主因となつて居ること

七、家屋の修繕を條件として値上を承諾せしめにもかゝはらず修繕をなさゞること及び家屋の修繕を口實に立退を迫り或ひは修繕の要求を待ちかまへて之と交換的に家賃の値上を求めることが家主側に於て流行した反面では修繕なき口實に家賃を滯納し又は家賃の値下を要求するものが借家人間に簇生したこと

◆

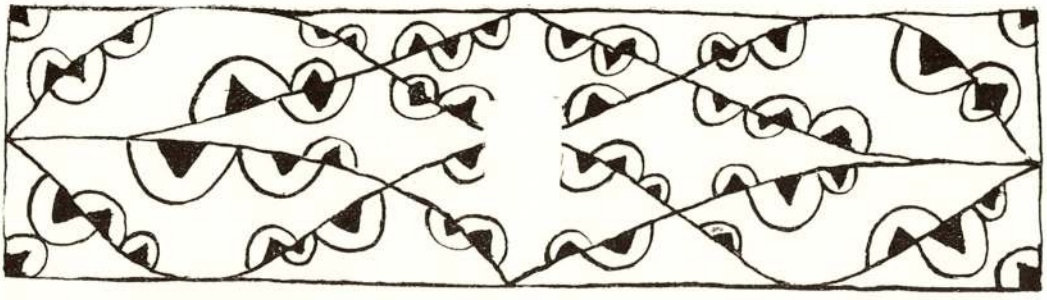
八、家賃を滯納又は供託して家主の値上要求に反抗する氣風が生じたと同時に家屋の明け渡しをなす際立退き料を要求する傾向が借家人間に顯著となつたこと

九、土地會社の續出によつて著しく地價の昂騰を來したことが地代及び家賃に影響し之が爭議の原因となつたことの少くないこと

十、家主及び借家人の双方に相當の無理があり惡家主のある反面では惡借家人が相當の數を占め双方は感情に支配せられて爭議を長びかせたこと

◆

以上は爭議を通じて觀たる住宅問題の特色であり傾向であるが、之に依ると今後の本問題は家賃問題轉賣問題借家人運動等を中心として卷くべきであり更に之を强調するものは家主地主の强硬なる應酬であり不正案内業者の跋扈であり生活又は失業の苦惱であると觀測されるから將來に於ては一層の活氣と混亂を呈する事だらう、從つて本問題を質の問題として論議する前に先づ量的方面から觀て之が對策を講ずる事が、市内より市外へ大都市より中都市へ燃え擴がつてゐる本問題を解決する上に於て重要な事であらう、更に家賃と收入との好ましき調節を圖ることが最も必要である



セメントの凝結及び硬化を生ずる變化

—セメント製造及び使用の際の化學變化—（三）

細木松之介

セメントに水を加へて混捏し置けば時の經過するに從ひて物理的並に化學的に種々なる變化を起こすのであつて孰れも皆重要なる變化ではあるが一々之を詳細に區別して攻究する事は困難であるので此等を總括して凝結及び硬化と稱するのである。

即ちセメントに適當の水を加へて捏ねる時は可塑性の物となり之を以て任意の形體を造る事が出來るのであるが暫時にして此軟體は其可塑性を失ひて凝固し今まで其表面に現はれたりし水分も消失するのであつて此變化を凝結と云ふのである尙且以上時の經過するに從ひて更に其硬度を增し機械的に强固なる者となるのであつて之を硬化と稱するのであるが此凝結と硬化の二段の變化がポルトランドセメントなどに於てもよく分るがプラスターなどに在ては二段の區別は分らず一度に連續しある變化となつて居るのである孰れにしても凝結を始めたる後は之を攪捏せない事にせなければならぬので凝結し始むれば既にセメントの分子間に鎖網を生ずる者なれ共之を攪捏する時は鎖網を破壞するを以てセメントの强度を減殺するの損害あり故にセメントと水を混合するには一時に餘り多量を混和する時は之を使用し盡くさゞる內に既に凝結を始むるの恐あるを以て一度に少量を混和して其凝結を始めざる先に其使用すべき適所に打込むか又は使用し終る事にせなければならぬのである。

セメントに混加する水の分量によりて凝結の時間に差異を生ずるのであつて多く水を加ふれば凝結を遲からしめ極めて少量の水を用ふれば凝結を速かならしむるのである又溫度の上昇を凝結及び硬化を速かならしむる者であるから溫暖の氣候に於ては寒冷の時よりも速かに凝結する者であるから夏期にはセメントが早く凝結するので工事中困る事があるのである斯くてセメ

ントと水の混合物が岩石に類似せる極めて堅固なる者に變化の一若くは二以上の起るに歸因するのである。

（一）過飽和溶液中より結晶狀の岩漿を生成する事

（二）膠質若くは凝膠の乾燥

（三）各種の物體が相互に若くは水と作用して（一）に於ける如く結晶體を生ずるか又は（二）に於ける如く膠狀體を生じて後に乾燥する事

過飽和溶液より結晶體を生ずる事は石膏の硬化の特徴であつてポルトランドセメントの凝結するのも恐くは此種の變化であつて水酸化カルシウムの結晶を生ずる者なるべし斯る場合に於ては存在せる水中に石灰が溶解し長く溶解として存在し能ふよりも多量の物を溶解すれ共暫時にして結晶するを以て更に他部の石灰を溶解し又水化物となりて結晶し斯くて存在せる水を悉く化合し盡くすが又は石灰を使用し盡くすに至るべし而して斯る變化の起る速度は液の純度による者であつて石灰及び他の膠狀體の比較的少量の存在が凝結を遲からしめ或は全然之を防止する事あるなり。

膠狀體はセメントの硬化と異なりて全く化學變化を起こさずして岩石に類する堅き者に化するのでゼラチン及び膠は其顯著なる者であるから如膠狀體なる性質は容易に認識せらるゝのであるが此外水酸化カルシウム粘土礬土珪酸等も或場合には膠狀體となるのである。

全體膠狀體なる物は左の如き三種の形狀になりて存在する者で其第一は極めて微細なる粒子となりて溶液中に浮遊せる者であつて此混合物を殆んど眞の溶液と異ならぬのでソルと稱する者である又第二はソルを熱するか又は之に酸或は特殊の鹽類を加へて凝結せしめたる者で粘質で又膠質の固體であるから之を濾過し又は沈澱せしめて液と分離するを得べく之をゼルと稱するのである而して此等ソル及びゼルの或者は互に他の形體に變化し得べき者なれ共或凝結せるゼルは再びソルに變ずる事不可能なる者あり又第三の者は無定形の者で乾燥せるゼルに適合する者であるか角質の者もあり粒狀の者あり又細粉の者あり然れ共固定せる者にあらざる限り之を處理するに水を以てすれば再びソルに變化するを得べき者である膠狀體の性質を知らんと欲せばゼラチン又は膠の性質を觀察すれば最も容易に之を知るを得るのである即ち此等の一を水に浸せば漸次小膨脹して軟化するが其容積の增大する事は異常な者である而して若し多量の水が有る時にはゼラチンは恰も溶解したる者の如くなりて之をソルと稱するのである然るに之より徐々に水分を除去する時は遂に乾燥して其容積は非常に收縮し堅き角に類似したる者を生ずるなり尙此乾燥に熱を使用する時は生ずる固體は之を水中に浸すも再び軟化せざる者となるべし又膠狀體を乾燥する外に種々なる化學藥品を加へて之を凝結せしむるを得るのであるが此藥品は主として酸性の者である

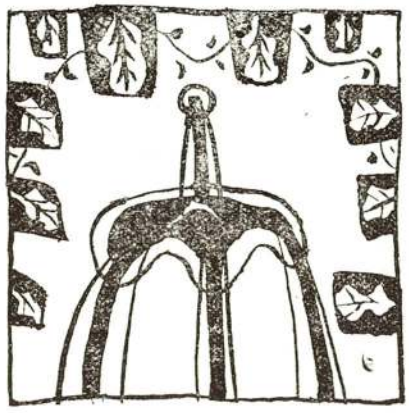
石灰珪酸及びアルミノ珪酸鹽はセメント及びモルタル中にある主なる膚狀體である又水硬石灰及びモルタル中に遊離石灰の存在する事も自然であるが注意して製造し且充分に燒けた後セメント中には遊離石灰は存在すべからざる者である而して遊離の石灰はセメントの凝結を遲からしめるのである即ち其の理由を斯るセメントを水と混和すれば石灰の一部は水に溶解してセメントが加水分解によりて生ずる物を豫め生ずるからである斯の如

き反應生成物の存在する事は之を含有する者の化學反應を遲緩ならしむる者であつて其理由は反應によりて生ずる者のみにて化學平衡を打立つるよりは早く平衡を立つる爲である。

セメント、モルタル及び他の水硬性物體に於ける凝結及び硬化を生ずる變化はポルトランドセメントに於て最も能く觀察せらるゝのであるそれはポルトランドセメント以外の物は其成分顯るゝ定であれ共ポルトランドセメントの主成分は結晶狀のアルミノ珪酸石灰で之に少許の硝子狀不純物を夾雜して居るのである故にセメントに水を混化し硬化せしめたる後に之を研磨して顯微鏡上に檢すれば約其半分は依然として變化せざるセメント粉末であつて其殘餘が膠狀體なる事を見るなるべし而して此膠狀體を認識する方法は試品をメセリンブルー又はイオシンの如きアニリン染料の溶液に浸し之を取出して吸收せられざる染料を洗淨すれば膠狀體は染料を堅く保持するを以て洗淨のみによりて之を洗去する事能はざれ共セメントの粉末は染料を吸收せざるを以て容易に之を洗ひ落すを得べく斯くして容易に判別するを得る者なり而して此變化せざるセメント粉末の分量の多少はセメントを粉末にする程度によりて定まるので粉末が細かければ細かい程水に依て使用せられ易いのであるが市販のセメントに在つては常に其の三十乃至五十ペルセントは純セメントを充分硬化せしめたる者の中に存在する　變化セメント末である而してセメントの粉末が細かければ細かい程之に加ふべき砂の如き者の分量を多くしても可なりで又其加水分解も充分に起るのである併し水に作用せられざるセメントの部分は其硬化に何等役立たない事を知る事が肝要である其理由は之を知らざるが爲に種々不合理なる說も出たり又硬化せしセメントを再び細粉として更に之に水を加へて硬化する事實を說明する爲に不合理なる說をも提出する者あるを以てなり然れ共顯微鏡の助けを以て研究した　結果によればセメント粉末の未だ加水分解を受けざる者の殘留する間を再び之を細粉して更に水を加へて之を硬化せしむるを得る者である故に如何に微細に粉末とし又如何に注意して砂と混和したりとするも第一回に水と合した丈にてセメント全部が加水作用を受くる事は決してないのである。

セメントが水に合つて變化したる部分をよく檢すれば化學的に分解して水鹽化カルシウム含水珪酸鹽及び含水アルミノ珪鹽酸等を生じて居るのであつて水は酸ともなり又鹽基ともなつてセメントを分解し一方には石灰、膠狀珪酸、膠狀アルミノ珪酸及び恐くは膠狀の珪酸石灰をも生成し石灰は其溶液中より水酸化物として結晶し其他の物體は膠狀體を爲すのであつて顯微鏡を以て精細に檢すれば石灰の結晶するは急結性のセメントに於て稍急速に起るのである。

セメントに於ける水の作用は物理的のみに限らずして化學的にも働く者であるので其證據には水と作用して發する溫度の上昇が其凝結の時間と殆んど反比例して居るからである然れ共實ては此溫度の上昇に對する滿足なる說明が出來なかつたのであるが現今に於ては充分其理由が分り即ちセメント內には遊離石灰を含有する者にあらざるも水と合して始めて石灰を遊離せしむるので此石灰が水と作用して茲に熱を發生するのである然れ共其結晶狀を爲せるアリットに於ける水の作用は遲きを以て此アリットと水との作用によりて發生する熱がセメント凝結の際に第二回目の溫度の上昇のある原因となるのである然れ共セメントの硬化と凝結とを精確に區分して研究する事を難事であるので之れ双方に或程度までは同時に起る變化であるからである。



剛節架構の彎曲力率解法考案と其の研究（其の五）

大野直平

上記の方法を連續梁に應用する場合・(28)公式は極めて簡單なれども連續梁の場合 member の定數を大體 assume すれば moment を求め得らるゝにより、隣持 span 二個所の剛比を考へ、直ちに定數を得る爲 次の如き表を擧ぐ定數は load を有する span の方向に向つて、(28)公式を應用すれば(28)公式の分母GK_7の內(Gは3乃至4と假定)K_7が非常に大なる場合はSは に近づき、定數は4となりK_7が量少なる場合は定數は3となる、故に3乃至4の間を假定し得る、(28)公式は

$$S=\frac{\pm 2K_1}{\mp(4K_1+GK_7)}$$ 移項して

$$\mp 4SK_1 \mp GSK_7=\pm 2K_1$$ K_7で兩邊を割り

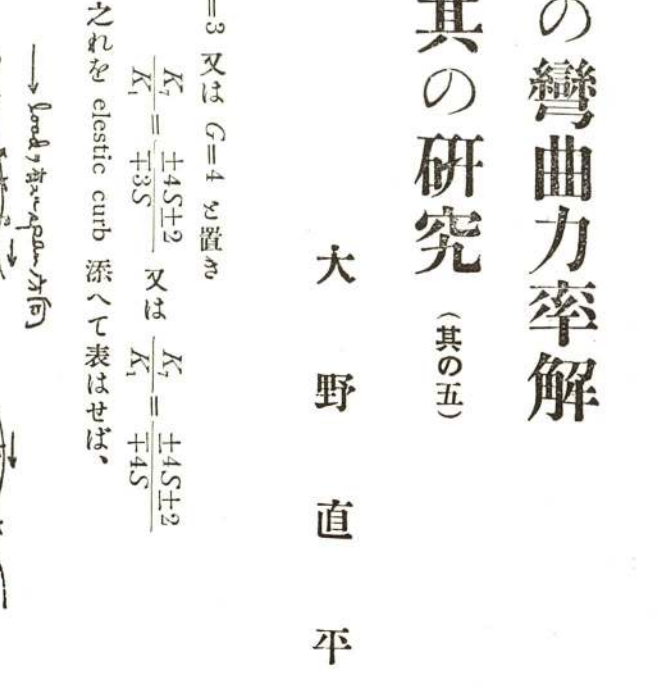
$$\mp 4S \mp GS\frac{K_7}{K_1}=\pm 2$$ 移項して

$$\mp GS\frac{K_7}{K_1}=\pm 4S\pm 2 \qquad \frac{K_7}{K_1}=\frac{\pm 4S\pm 2}{\mp GS}$$

$G=3$ 又は $G=4$ を置き

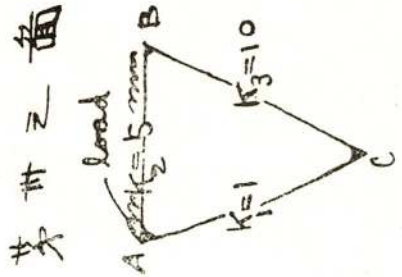
$$\frac{K_7}{K_1}=\frac{\pm 4S\pm 2}{\mp 3S}$$ 又は $$\frac{K_7}{K_1}=\frac{\pm 4S\pm 2}{\mp 4S}$$

之れを elestic curb 添へて表はせば、



此剛比と slope の比との關係を得る爲に、之れを圖表にせば第三圖表の如くなり、$\frac{K_7}{K_1}$を下方水平軸に取り垂直に昇り

curb と出合した る點より水平に左し定數を得るものにして、連續梁に於てmoment of inertia を constant とせば$\frac{I_1}{I_2}$を取るものとす、矩形をなす架構にありては member 端の定數推定し得ざる場合あり此場合は大凡推定し得る個所を選び、前法の如く(27)又は(28)公式を循環的に試むれば自ら其等定數の確定値に達するなり、勿論此場合左右兩方向に別々に循環繰返し行ふものとす、次に尤も簡單なる例を以て其方法を明かにし且つ之れを slope deflection 公式によりて其正確度合をcheck するに次の如き三角形 frame に於て其 member の剛性を 1 : 5 : 10 とし、第非三圖 k_3 の member に transverse load を受くる時 AB member の兩端の slope の比を求む。



初め BC member C 點の定數を、第三十四圖記入の如く 3.3 と假定し、(28)公式を用ひて C 方向に試み廻れば、

$$S=\frac{2}{4+3.3\times10}=0.054$$

AC member の定數（A 點）は

$$4-2\times0.054=3.89$$

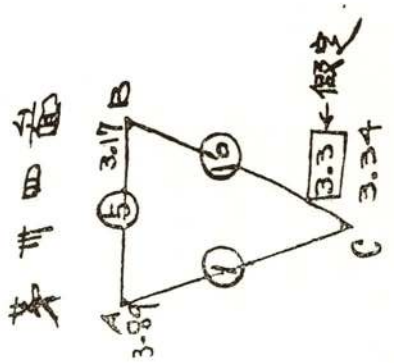
BA span に移り(28)公式を繰返し、

$$S=\frac{10}{20+3.89}=0.416$$

BA member B 點の定數は、

$$4-2\times0.416=3.17$$

同方法を繰返し、



$$S=\frac{20}{40+15.8}=0.36$$

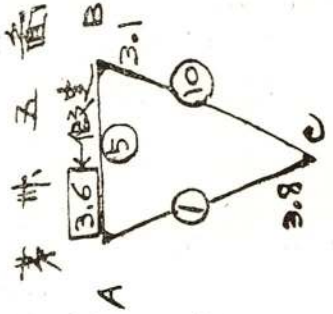
CB member C 點の定數は

$$4-2\times0.36=3.34$$

$$S=\frac{2}{4+33.4}=0.0535$$

AC member A 點の定數 $4-2\times0.0535=3.89$ 之れを以て確定とす。

次に CA member C の點の定數



$$S=\frac{2}{4+18}=0.091$$

$$4-2\times0.091=3.8$$

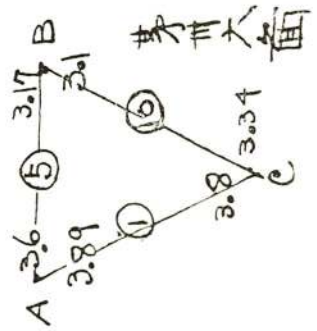
$$S=\frac{20}{40+3.8}=0.456$$

BC member B 點の定數

$$4-2\times0.456=3.1$$

$$S=\frac{10}{20+31}=0.196$$

AB member A 點の定數は $4-2\times0.196=3.6$ 定數一致し來れるを以て各剛節點の定數悉く決定せりとなす、此れを圖



第三十六圖

示せば第廿六圖に表はせる通りとなる。

次に(29)公式より各 member の slope の比を求む(但各 member に一個所づゝ單獨に load を持つ場合を考ふるものとす)

I……AB member に load を有する時,

$$S=\frac{-(6\times5+3.89)}{(6\times5+31)}=\frac{-33.89}{61}=0.56=\frac{O_B}{O_A}\quad\text{又}\quad\frac{O_A}{O_B}=1.78$$

II……BC member に transverse load を受くる時

$$S=\frac{-(6\times10+5\times3.17)}{(6\times10+3.8)}=1.19=\frac{O_C}{O_B}\quad\text{又}\quad\frac{O_B}{O_C}=0.84$$

III……CA member に transverse load を受くる時

$$S=\frac{-(6+33.4)}{(6+18)}=1.64=\frac{O_A}{O_C}\quad\text{又}\quad\frac{O_C}{O_A}=0.61$$

以上の slope の比の正確なるや否やを check するに slope deflection の公式より $O_AO_BO_C$ を解き,其比を取る其比の公式は計算の途中を略し結果を上ぐるに,

$S=\frac{O_B}{O_A}$ を表はして次の如くなる第廿三圖

$$S=\frac{24K_1K_{23}^2+48K_1K_2K_3+48K_2K_{23}^2+24K_2^2K_3}{-48K_1K_2K_3-48K_2K_{23}^2-24K_1K_{23}^2-24K_2^2K_{23}}\quad\cdots\cdots(31)$$

I の場合に相當する AB member に單獨に load を有する時 $K_{1,2,3}$ を夫々1.5.10を宛て算め (31) 公式は次の如くなる。

$$\frac{O_B}{O_A}=S=\frac{2400+48\times50+48\times500+240}{-48\times50-48\times500-2400-2400}=\frac{29040}{52800}=0.56$$

$$\frac{1}{S}=1.78$$

II の場合に BC member に單獨に load を有する場合の slope の比は

$$\frac{O_C}{O_B}=S=\frac{24\times5+48\times50+48\times10+24\times25}{-48\times50-48\times10-24\times5-24\times1}=1.19$$

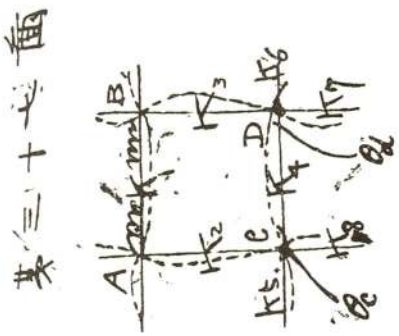
$$\frac{1}{S}=0.84$$

III の場合 CA member に單獨に load を有する場合 CA member の兩端 slope の比は

$$\frac{O_A}{O_C}=S=\frac{24\times10\times25+48\times50+48\times25+24\times100\times5}{-48\times50-48\times25-24\times10\times25-24\times125}=1.72$$

$$\frac{O_C}{O_A}=0.58$$

以上 slope 比値を比較するに約$\frac{1}{100}$迄の相異が表はれて居るも其差は極めて少きを以て moment を求むる系數を得るには,實用的に充分なるべし,然れども此處に注意すべきは load を有せざる member の moment の分布なり,之は前例(いに擧げし如き正確なる slope の比を表はす事は難しく誤差可なり大なり依つて次の如き公式によれば解き得らる。



第三十七圖

第三十七圖の如き frame を解くに當り (AB member に load を單獨に持つ場合) A B の slope の

比は前述循環的に(27)公式を繰返す事により AB member 兩端の slope の比は確定し得る事、前例三角形 frame につき解ける如し、而して次に CD 點の slope の比を求むるに、假に O_AO_B slope を知りたるものと考へ slope deflection の公式より C 點につき member の moment を表はし $\Sigma M=0$ とし

$$2EK_4(2O_C+O_D)+2EK_2(0O_C+O_A)+CK_5O_C+GEK_8O_C=0 \quad (ハ)$$

但しCは K_5 member の定數とし G は E_8 member の定數とし(推定又は求め得たる場合を考へ既知數とす)

同樣に D 點につき slope deflection の公式より member の moment を表はし $\Sigma M=0$ と置き

$$2EK_4(2O_D+O_C)+\Sigma EK_3(2O_D+O_B)+DK_6EO_D+FK_7EO_D=(ロ)$$

DF は上記の如く相當する member の定數を推定するものとす。

(ハ)(ロ)兩式を解きて

$$\frac{O_D}{O_C}=\frac{(2K_4+2K_2+\frac{CK_5}{2}+\frac{GK_8}{2})K_3O_B-K_2K_4O_A}{(2K_4+2K_3+\frac{DK_6}{2}+\frac{FK_7}{2})K_2O_A-K_3K_4O_B}$$

の式中に $\frac{O_B}{O_A}=S$ $O_B=SO_A$ を置き換へ

$$\frac{O_D}{O_C}=\frac{(2K_2+2K_2+\frac{CK_5}{2}+\frac{GK_8}{2})K_3SO_A-K_2K_4O_A}{(2K_1+2K_3+\frac{DK_6}{2}+\frac{FK_7}{2})K_2O_A-K_3K_4SO_A}$$

θ_A を消す

$$S=\frac{(2K_4+2K_2+\frac{CK_5}{2}+\frac{GK_8}{2})K_3S-K_2K_4}{(2K_4+2K_3+\frac{DK_6}{2}+\frac{FK_7}{2})K_2-K_3K_4S} \quad \cdots\cdots(32)$$

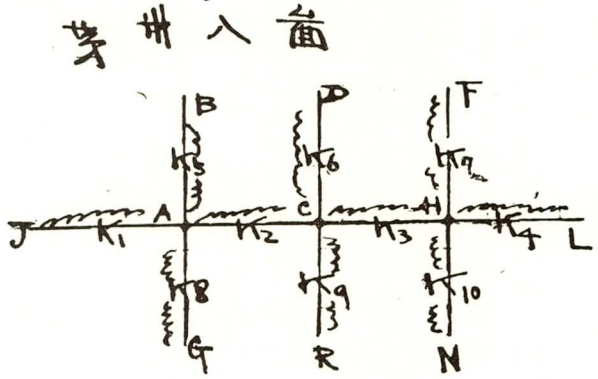
$K_5K_8K_7K_6$ の member を有せざる時は

$$S=\frac{(2K_4+2K_2)K_3S-K_2K_4}{(2K_4+2K_3)K_2-K_3K_4S} \quad \cdots\cdots(33)$$

(32)又は(33)公式にて CD 點の O の比は求めらる、從つて CD member の CD 點につきての定數を夫々確定し得る、次に AC 及び BD member の slope の比は、(27)(28)公式により再度 check して定數を求むるものとす、定數を凡て確定せば moment は3章の公式より先づ AB 點の moment を求め、然る後 load なき member に對しては定數の割合相當なる moment 分布を5章の方法にて決定するものなり。

8. 稍々複雜なる member より成り立つ slope 比の公式(load を各 span に有する場合)

第廿八圖の如き frme に於て各構材端の固定狀態を表はす定



数を $J.B.D.F.L.N.R.G$ を以て示すものと假定す。

PQT は各剛節點に於ける load term を代數的に sum up せるものとす、$K_1K_2K_3K_4K_5K_6K_7K_8K_9K_{10}$ は、夫々構材に相當する $\frac{1}{l}$ を示せるものとす。

$P_1P_5P_8P_2$ 又は $Q_2Q_6Q_3Q_9T_3T_7T_4T_{10}$ は各剛節點を中心とし集合せる member 其れ々の load term とす。

A 點の slope SO C 點の slope をとし H 點の slope を $S'O$ とする。

slope deflection の公式より各構材の moment は次の如くなる。

$$\left.\begin{aligned} M_{AJ} &= JEK_1SO+P_1 \\ M_{AB} &= BEK_5SO+P_5 \\ M_{AG} &= GEK_8SO+P_8 \\ M_{AC} &= 2EK_2(2SO+O)-P_2 \end{aligned}\right\} \quad \left.\begin{aligned} M_{CA} &= 2EK_2(2O+SO)+Q_2 \\ M_{CH} &= 2EK_3(2O+SO)-Q_3 \\ M_{CD} &= DEK_6O-Q_6 \\ M_{CR} &= REK_9O-Q_9 \end{aligned}\right\}$$

$$\left.\begin{aligned} M_{HF} &= FEK_7SO-T_7 \\ M_{HL} &= LEK_4SO-T_4 \\ M_{HN} &= NEK_{10}SO+T_{10} \\ M_{HC} &= EK_3(2SO+O)+T_3 \end{aligned}\right\}$$ 各剛節點の member の moment

$\Sigma M=0$ と置き SO 及び $OS'O$ を解けば次の如き結果を得る。

$$O=\frac{(JEK_1+BEK_5+GEK_8+4EK_2)(4EK_3+FEK_7+LEK_4+NEK_{10})Q}{+(2EK_3)^2(JEK_1+BEK_5+GEK_8+4EK_2)-(4EK_3+FEK_7+LEK_4+NEK_{10})}$$

$$\frac{-2EK_2(4EK_3+FEK_7+LEK_4+NEK_{10})P}{\times(JEK_1+BEK_5+GEK_8+4EK_2)(4EK_2+4EK_3+DEK_6+REK_9}$$

$$\frac{-T2EK_3(JEK_1+BEK_5+GEK_8+4EK_2)}{+(2EK_2)^2(4EK_3+FEK_7+LEK_4+NEK_{10})} \quad \cdots\cdots\cdots\cdots\cdots\cdots\cdots\cdots\cdots\cdots (34)$$

$$S'O=\frac{-2EK_3(JEK_1+BEK_5+GEK_8+4EK_2)Q+2EK_22EK_3P}{(2EK_3)^2(JEK_1+BEK_5+\cdots\cdots\cdots\cdots \text{分母は(34)式と同じ}}$$

$$\frac{+\{(JEK_1+BEK_5+GEK_8+4EK_2)(4EK_2+4EK_3+DEK_6+REK_9)-(2EK_2)^2\}T}{} \quad \cdots\cdots\cdots (35)$$

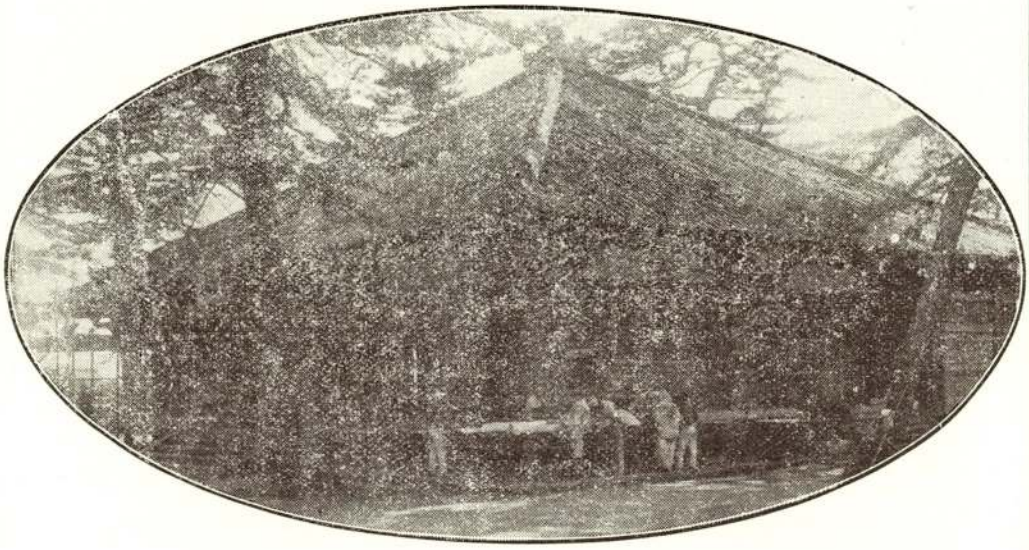
O と SO との比を取れば分母及び E を約し比較的簡單なる形式となる

$$\frac{O}{S'O}=\frac{1}{S'}=\frac{(JK_1+BK_5+GK_8+4K_2)(4K_3+FK_7+LK_4+NK_{10})Q}{-2K_3(JK_1+BK_5+GK_8+\ K_2)Q+2K_22K_3P}$$

$$\frac{-2K_2(4K_3+FK_7+LK_4+NK_{10})P-2K_3(JK_1+BK_5+GK_8+4K_2)T}{+\{(JK_1+BK_5+GK_8+4K_2)(4K_2+4K_3+DK_6+RK_9)-(2K_2)^2\}T} \quad \cdots\cdots\cdots\cdots\cdots (36)$$

× × ×

淨土寺淨土堂實測の實況



兵庫縣下の古建築に就いて

（1）

菅田登美雄

第一章　緒論

第一節　緒論

昨大正十三年の暑中休暇中に鶴林寺に測量に行き、又淨土寺に實測に行つてから殊に日本建築に興味が湧いて來た。

元來自分は本校へ入學當時から日本建築には趣味を持ち、殊に特別保護建造物を見學する爲には何時も辨當を腰に下げて唯一人で出かけたものだで淨土寺淨土堂の實測は此の小論文を書かす樣になつた大きな原因である。

思ふに、兵庫縣下には大正十年末の調査に依ると古建築竝びに國寶の多い事、全國でも優秀な地位を占めて居る、即國寶では數から云ふて京都府奈良縣、滋賀縣、和歌山縣に次で第五位、百四十點を算し、古建築では特別保護建造物に指定されたもの總數三十四點で是又京都府、奈良縣、滋賀縣に次で第四位を占めて居る。

就中、淨土寺淨土堂と本堂とは東大寺南大門、醍醐寺經藏等と合せて貴重な天竺樣の好標本であり、太山寺本堂と圓敎寺大講堂とは其の大規模な點に於て大いに學ぶに足るものと思ふ、こんな意味で兵庫縣下の古建築に付いて書かうと思つて居る。

第二節　研究の順序

其の研究の順序は目次に示した通り行ふものとし結論で大體兵庫縣の古建築上から見た地位を概説し、次に本論に入り各古建築、一つ〳〵を詳説し、終りに結論に入る考へである、それで其の本論も例へば圓教寺を例に擧けて云へば、先づ第一に概説し特に其の位置は後の研究者の便利の爲に詳述する考へ、第二　矢張り概説の中として其の寺即圓教寺を歴史的に考へて創立當時から只今迄の興亡の大略を記し、次にその古建築を論じたい心算だが、其の遣方も大體各古建築に就て最初に其の建築の構造形式、現在の建築物の建立年代、特別保護建造物に指定された年月日を書き、次にプランカラエレベーションに及ぼし、外部、内部の細部を述べて終る考へであるが、勿論是れは大體の方針に過ぎない、で其の書き方の簡繁は建築の價値に比例さす考へである。

第二章　本論

第一節　圓教寺

第一　概記

一、位置　兵庫縣飾磨郡曾左村書寫山頂、姫路市の西北方、二里半、書寫山の頂上にある、西國第二十七番の札所である、姫路市を出て北し夢前川に沿ふて北方へ二里許り歩くと曾左村に達する、此處から山　半里、四十分で書寫山圓教寺大講堂に到着する事が出來る、道路平坦姫路市から曾左村書寫登山口まで乘合自働車の便もあり（自働車賃驛前から登山口まで六十錢）徒歩でも三時間あれば姫路市から書寫山頂迄十分達する事が出來る。

參考地圖、參謀本部、二萬分の一、姫路、書寫

二、歴史的研究

圓教寺は天臺宗で一條天皇の永延二年僧性空の開山である、其の緣起に依ると「上人靈地に告を感じて西の谷に庵を結び坐禪し……

開山後五年にして元禄元年如意輪堂を建て

寛和元年播磨國司藤原季孝朝臣法花堂を建立し

其の後上人講堂を興し常行堂、多寶塔鐘樓、經藏、眞言堂を建立、創めて書寫山圓教寺と號した。

花山法皇の御信仰甚だ厚く貞永中俊源上人再興し食堂、五重の大塔を創建した」

文曆中九條道家崇信厚く

建保二年法眼範性理性院を起し

寛治三年御嵯峨天皇餘部社を寄進され

弘安二年如意輪堂を七間四面に擴張し

元弘三年後醍醐天皇の行幸あり

天正六年豊臣秀吉毛利征伐に際して當時を其陣所とした」と

是で大體の本寺の沿革が想像されるで往時は所謂密教式の大伽藍であつたのに現今では只僅かに大講堂、鐘樓、金剛堂の三特別保護建造物と常行堂、食堂其の他二三の堂宇が殘存するに過ぎない。

第二　圓教寺大講堂

構造形式　七間六面重層屋根入母屋造本瓦葺

建立年代　室町時代？

指定年月　大正二年四月十四日

圓教寺大講堂は書寫山の殆んど頂上の平

地にある。南面して居り、其の常行堂、食堂と此の大講堂との三大建築物が此樣に一ケ所に相隣接して立つて居るなんて殆んど他に其例が無いと云つても差支へ無からう。

プラン——七間六面の大建築物である、其の前面五間には棧唐戸を用ひ左右の一間づゝは欄子窓側面は板壁と大講堂木連戸とを合せ用ひ後面は中央寺教圓一間のみに唐戸其他は板壁である、濡縁は前面と兩側面即丁度外陣に相當する所を圍んで居る且つ內外陣の區劃の嚴正な事等は天台密教の當初の方針と云ふ事が出來るのではなかろうかと思ふ。

外部、エレベーション——重層屋根本瓦葺の大講堂は上層軒二重繁棰を分布し支輪、小天井を備へ圓柱に、二手先手拱を組み各柱間は板張として居る、で上層の正面中央一間に小唐戶を附けて居る事と寫眞第一圖に示す樣に貫く樣のものが突出して居る事とを竝べ考へると當初繞らすに廻緣を以てしたものではなかろう？此の貫樣のものは四周に突出して居る下層の屋根は丁度法隆寺金堂を思はす樣に上層の裳階になつて居て其構造形式は上層のものと等しい。

細部——取立てゝ云ふ所も無い樣だが內外陣の區劃の嚴重な事、其の他天台宗教創建當時の手法を踏襲して居る事等は大いに見るべき所だろう、只本堂の尨大な事は單に是だけでも一見する價値は十分有ると思ふ。

Fig. 1　圓教寺大講堂

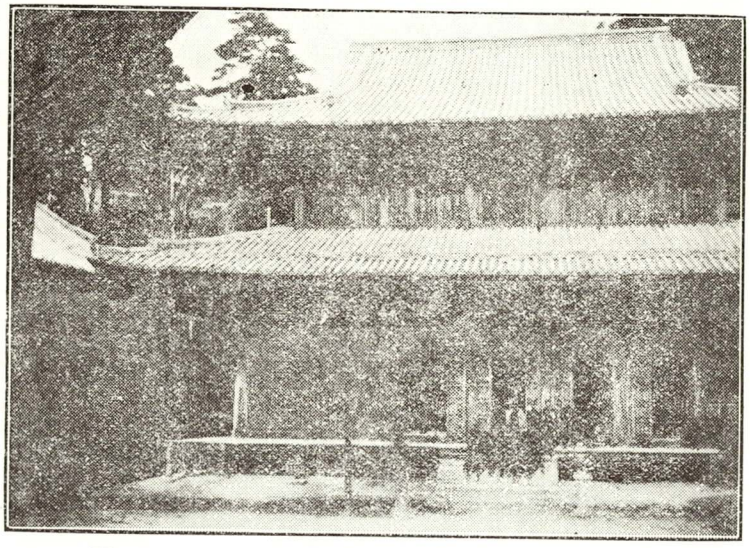
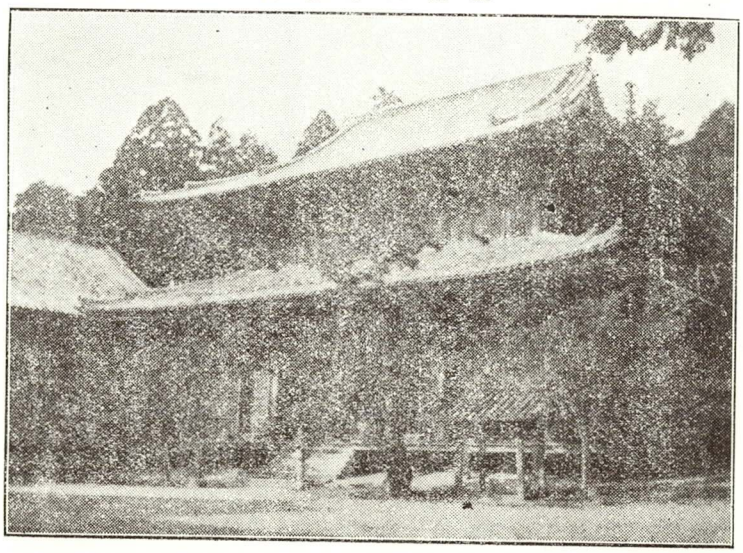


Fig. 2　圓教寺大講堂



M. Takenaka 寫

第二　圓教寺食堂及常行堂

此の二建築物は未だ特建に指定されては居無いが見るべき建物と思つたから一寸寫眞の說明をしてをく。

第四圖は常行堂を正面から見た所である正面の大唐破風の入口を入ると左右殆ん

ど均齊に切妻造の翼様の手を出し別に後に入舟母屋造の大建築を控へて居る。第三圖食堂の周圍を繞る廻椽は破損の度甚だしいが内部は比較的完全に殘つて居る。

で前述の様に大講堂、食堂常行堂の大體配置圖は次圖の様で山上に三つも塀の如き大建築が集合して居るならんか稀に見る所と古宇田先生も云つて居られたが、自分も誠に尤な事と思つた。

Fig. 3　圓敎寺食堂

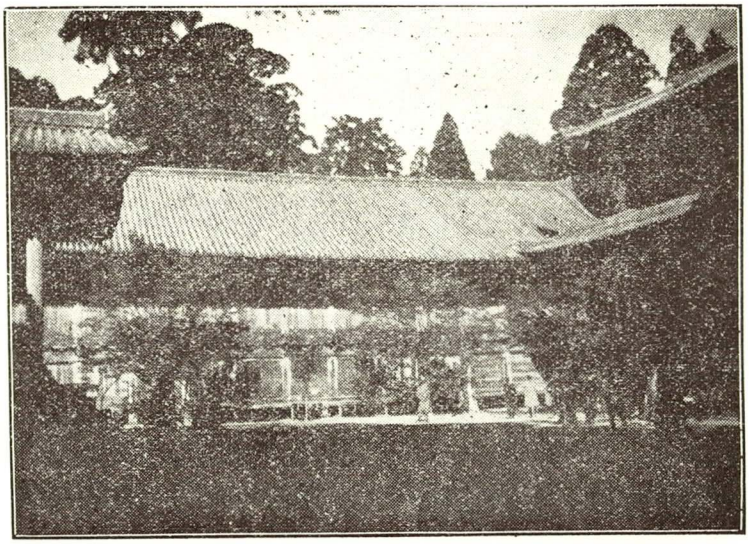
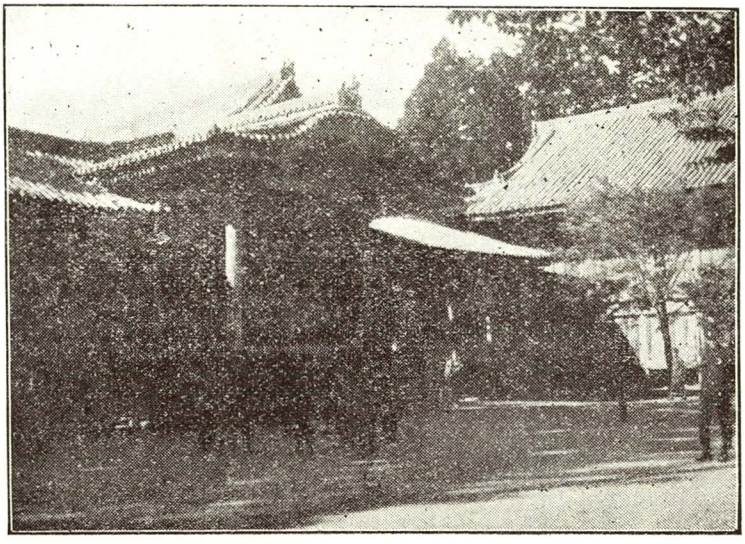


Fig. 4　圓敎寺常行堂



第四　圓敎寺金剛堂

構造形式　三間四面單層屋根入母屋造本瓦葺

建立年代　室町時代？

指定年月　大正二年四月十四日

金剛堂は圓敎寺の奥の院である、圓敎寺と有　が寛喜は鎌倉時代中期で當ら無い又金剛堂前にある立札には

「開山上人傳法の靈蹟永觀二年上人の創立也」

と有るが永觀は藤初で當らない事亦甚だしい、で建築上細部の手法からして室町時代？建立かと思はれる。

プラン――三間三面で前面中央に棧唐戸を立て兩脇間は欞子窓後面中央一間は板引違戸其他は板壁である。

外部、エレベーション――單層屋根入母屋造の本建築は木割纖細な二重繁棰を分布し出三手を用ひ柱は方柱が且面取り手拱間の中備は前面のみ使用し他は中備なく、で只今では周圍には廻椽は無いが昔有たらうと思はれる、

緣起には金剛堂なんか出て居ないから確實には明でないが唯、

「寛喜二年御眞覽上人俊源七間二階に造替し其の他食堂大塔等を建立す」

形跡が四周に殘つて居る。

圓部――床總拭板敷で構造頗る簡單で中央に厨子を安置し天井には飛天の技樂を奏する樣が極彩色で畫かれてある、甚だ宜いものと思はれる

全體の感じ木割纖細で優美の感が強い所へ大きな本瓦葺の屋蓋を附けたものだから屋蓋の重量の爲に壓倒される樣な感じ無きにしもあらずだが屋根軒端に反轉の有る事は反つて莊重な感じを起さしめる。

第五　圓教寺鐘樓

構造形式　三面二間重層袴腰屋根入母屋造本瓦葺

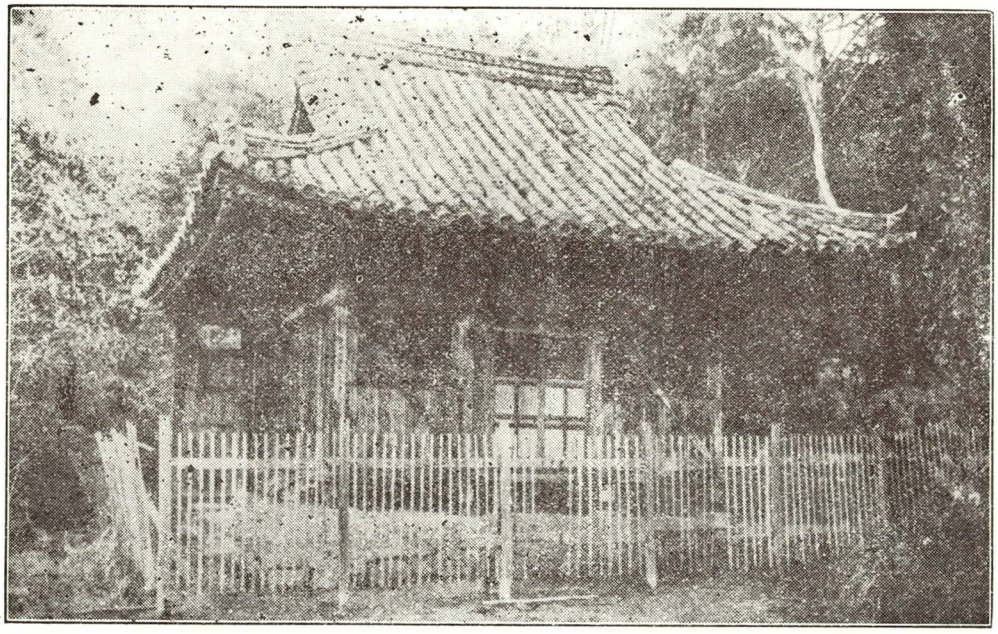
建立年代　室町時代？

指定年月　大正二年四月十四日

緣起には

「上人住山久しくなりて常行堂、多寶塔、鐘樓、經藏、眞言堂を造立し――」（元弘二年？）

と云つて居るが勿論現在のものは創建當時の遺風は無く室町時代再建のものと考へられる點が澤山有る、即元弘に創建された鐘樓が幾度かの修繕の結果殆んど創建當時の面影を失なひ殘つて居るが現今の鐘樓か、それとも何かの厄の爲に（圓教寺は好く火を失す）失なはれたものが室町時代に再建されたものか、どちらにしても創建當時の面影の無い事は甚だ殘念な事と思ふ。



第五圖　圓教寺金剛堂

プラン――三間二面重層屋根入母屋造本瓦葺で袴腰を附けて居る本建築は軒二重繁棰を分布し手拱出組尾棰なく支輪を附けて居る。

腰組の出組は上の廻緣を受け（廻緣には高欄あり）腰下は袴腰で羽目板張であるが最近袴腰修繕の結果改惡した事はそのふんばり方少なく全體の氣分を害する事甚だしい、住職の話によると何でも出入の大工に修繕させたとか甚だ惜しい事だと思ふ

プロポーション――其の全體の形狀、屋蓋雄大な割に袴の張の少ない爲に廻緣の丈の低い妙味も失なはれて甚だ重苦しい感じがあるが唯その手法木割の雄大な事は時代の特長と云ふべき所と思ふ。

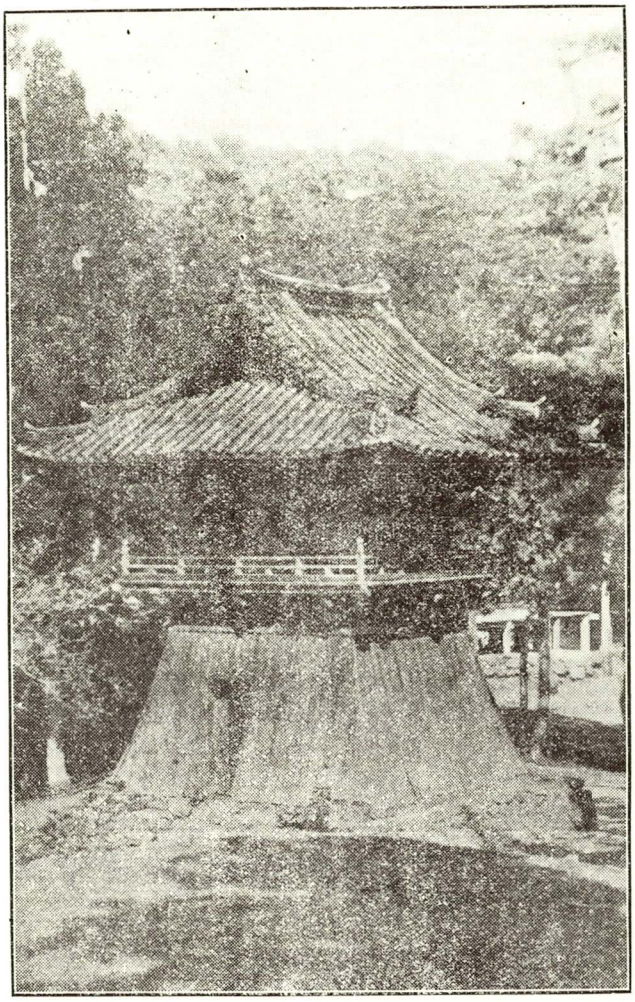
第六　圓教寺に藏する國寶に就て

概説で述べた如く「一條天皇の永延二年僧性空の開山である」

即藤原の初期今を去る九百三十九年大略九百五十年前の大昔だ、此の様に古い且つ由緒ある寺だから國寶も澤山あるだろうと思ふが實は案外無い、思ふに當山は屢々受けた火災の爲に斯く失つたものだろう一例を云ふと、明治三十一年の如きは寶藏を焼き大正十年本堂の火災の如きは自分等が本校入學後の事とて耳新しい所であるで左に列記せば圓教寺に藏する國寶

一、彫刻　釋迦如來
二、同　文珠菩薩
三、同　普賢菩薩
四、同　持國天王
五、同　廣目天王
六、同　増長天王
七、同　多聞天王
合計　七點

Fig. 樓鐘寺教圓



二萬分の一　小野參照

第二節 淨土寺

第一 概記

一、位置　兵庫縣加東郡小野字淨谷
神戸市より西北方八里小野字淨谷にある

神戸市より行くには山陽線加古川驛で播丹鐵道(私設)に乘換へて小野驛で下車する、淨土寺はこの驛から約東北五十丁の所にある、即驛を出て加古川を渡り東北に進み小野の町を横斷し黒川を過ぎれば稍丘陵地にある淨土寺に達する。

道路は平坦、小野町から淨土寺まで人力車もあり特別に備へば自働車も通ふ、山陽線加古川驛から小野町までは乘合自働車が通つて居る、神戸からなれば淨土寺迄約三時間で達す

事が出來、且つ建築上から見ても大いに價値あるものだから一日の見學には非常に好い所と思ふ。

參考　參謀本部地圖

第二 歷史的の研究

淨土寺に藏する緣起に依ると

「……當時者造東大寺俊乘房重源和尙之

啓迪也……中略……」

「……昔聖武帝始此墓地時行基法師與幹事既召先烈……(中略)……」

「……故無奈何於是令命弟子僧觀阿彌陀佛合度隆寺爲一寺……」

と即此に依ると聖武天皇の勅願に依り嘗て行基菩薩が開創した度隆寺の遺址である、で南部大佛殿に有名な俊重房重源が弟子觀阿上人に命じて建立さした事になつて居る。

「建久四年　日立一高堂一宇九間四面瓦葺奉安坐像藥師如來長四尺此像……」

即建久四年に本堂藥師堂は建立された事になつて居る。

「同五年又建九間四面一堂奉安置金色阿彌陀如來立像長一丈六尺觀音勢至各長八尺大佛工丹波法眼湛慶作焉……」

想ふに淨土堂即阿彌堂も本堂に相次で建立されたものらしい。

「又立經藏一宇安佛舍利立粒銅塔納五輪……」

「嘉頂元年冬建八幡宮寶殿輪奐雨刻引日景拜殿華表俗善前召蓮池大山主祠次辯才天役行者堂相並其前牛王堂此ノ奥在護摩堂開山堂相傍藥師堂乾召一堂號奥院……」

嘉頂元年約七百年前の境内の様子がわかる、これに依ると、只今では無いが大山王祠とか、牛王堂とかが當時は存在して居つたらしい。

「……正應七年藥師堂及影堂召回祿之變寺僧……(中略)……所應永十四年秋漸造宇今之堂是也」

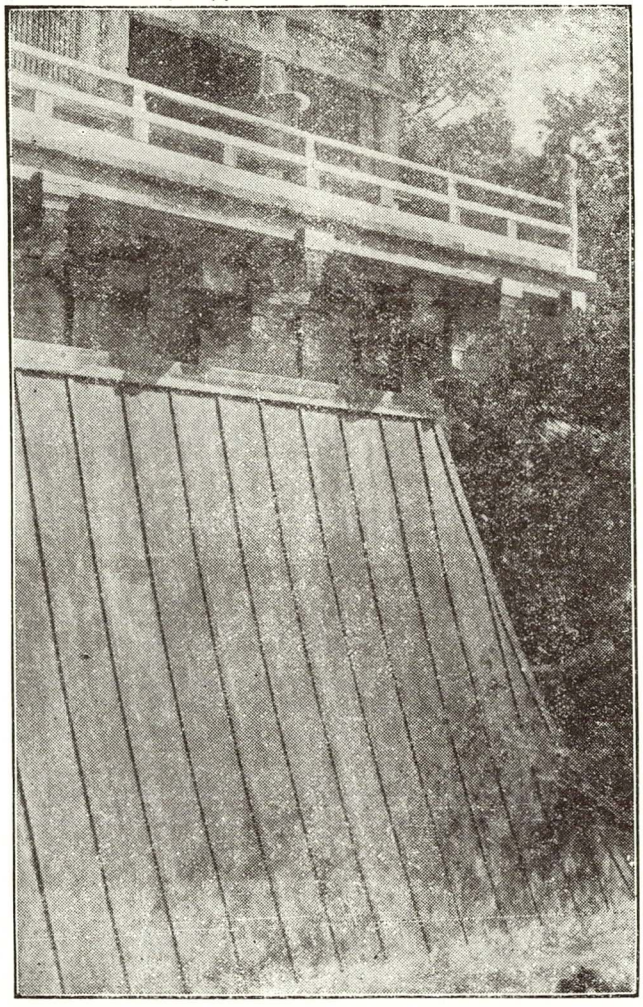
即寺傳では本堂及び淨土堂共に應永年中の再建となつて居るが形式上から見て大體當つてるだろうと思ふ。

其の後幾多の變遷を經て現在になつたのだが只今では大體境内配置圖に示す通り鎭守八幡神社を正面として八幡神社に向つて右側に本堂即藥師堂左側に淨土堂即阿陀彌堂との二建築が控へ居り、其の手法、所謂天竺樣の特質を發揮して居り大いに研究するに足るものと思ふ。

——(以下次號)——

Fig. 7　圓教寺鐘樓腰組詳細

ふ思とるへ與を感な快輕も に何如は欄高い低の丈の其





建築家の個性と時代

沼島草房

1

人生は否定さるべきよりも、肯定さるべきである。時代は逃避さるべきよりも寧ろ忍受さるべきである。全らある廣義の意味に於いてその時代の代辯者たるべき藝術家が、單なる自らの偏執狹量から彼自身の現代を逃避して自ら築いた一個の安住園に徒坐空食することは、畢竟、怯懦卑屈である以外のなにものでもない何者も藝術家がその時代の社會的雰圍氣乃至その轉變流動と何等かの交渉を必ず有つてゐるだらうことを拒斷することは能きない。藝術家は自身がその自らの藝術に敏感鋭覺であればある程、その時代と倶に激しく痛く惱み樂むものである。ある時代の藝術が結局その時代のあるべくしてあつた産物である以前に、藝術家はその時代の生れるべくして生れた子である。ピラミッドがかの墳墓の彼方の世界を狂信してゐた時代の産物である以上に、その建設に熱狂した王と奴隷とは時代の子である。その積まれ重ねられた石塊か大袈裟であつたより以上に、當時の宗教的信念乃至建築的野望が大袈裟だつたのである。即ち、かの時代が早速永劫そのものに連續してゐると考へられた程その時代が大袈裟だつたのである。ツタンカアメン自らの生涯は、その掘り返へされた墳墓より以上に遠い時代の中に埋れてゐる。その墳墓のきらびやかな傲れる藝術的衣裝よりも、その生涯はその富み爛れたる時代の香氣と色彩とに滿されてゐる。ミレエの「種播く人」とゴッホのそれとの感觸の甚だしい相違は、もとよりこの二天才の銘々の個性の特異さに依つたものではあるが、その二人の誕生期に約四十年の間隙あることを考慮に入れて、一層充分に理解さるべきものである。何故なら、近世に於ける四十年間といふ短日月は、藝術上のルネサンスを雜作なく二つ三つ重複せしめ得る程の內的質量と、轉變に次ぐに轉變を以つてするだけの焦燥と性急とを有ち合はせるものだからである。

攻めて言ふまでもなく、時代の全らゆる種類の感覺は他の誰よりも藝術家に依つて、眞摯に痛感され、生眞面目に表現

されるはづである。時代の他の何人によつてよりも藝術家によつて永劫に輝く。歴史は或る意味で藝術的天才の私生涯の連續である。時代は藝術家に依つて最も雄辯に後世へ語り繼がれる。ダンテはルネサンスの眞實の意味に於ける先驅者であつたと同時にその時代の代辯者であるレオナルドは彼の藝術を語る以前にその時代を語る。美と純情とを一つの尖塔にもりあげた多くのゴシック寺院は、天國への憧憬篤き敬虔なる藝術家に依つて正しく語られた中世であり。マリネッティに依つて語られた激情狂想は、大戰の慘虐にその心情を極度に激打された二十世紀初頭の時代意識である。藝術家は如何なる意味に於いても、その時代から恣に去ることは能きない。彼は豫言者先驅者である外に、その時代の代辯者說明者であらねばならない。進んで、その時代意識の革拓者、時代機能の開展者でなければならんか。彼は時代の底を靜かに流れる全らゆる感覺、吐息、血、魂を彼の許されたる全的表理力を以つて、どうでもかうでも表現しなければならぬ使命を有つものである。彼は時代の波に悲鳴をあげねばならぬ纖弱な貴婦人ではない。彼は革命戰の軍頭に立つ狂血兒よりも眞實の意味での英雄である。彼は時代を怖れて獨りよがりの城砦を築いてはならない彼は自らの怯懦をのみ怖れなければならない。彼の全生涯は、その時代の文化の雜多な、ともすれば混濁しやうとする流れをして眞の道を發見せしめ、それを榮光と勝利と生命との永劫の世界へ導かなければならぬ使命の上にのみ、たゞ懸るのである。その時代は、從つて、彼に依つて初めてその眞の文化的富貴と恩惠とを思ふまゝ潤澤に享樂し得るのである。かくて、その時代に於ける眞の藝術家はその時代の象徴の塔である。

2

言ふまでもなく、藝術は表現であるがそれは計畫される以前に感得され、組構さるべき以前に生成されなければならないものである。藝術は科學である以前に生命そのものだからである。從つて、眞實の意味での藝術は決して努めてそれを作爲的技巧的に寄せ集め組み建てられたものではなくて、生れるべくして生まれ創作さるべくして創作されたものである表現さるべきものは外にはなく、内に在る。表現さるべきものは單なる流行的な外面の片々たる影像ではなく、時代の底深くを潜み流れる不滅の生命そのものである。藝術として永劫の世界に生かさるべきは、その藝術家の衷心深くに潜み靜まれる神性をもてる情感であつて、その日その時の風に吹かるゝ雲の如きものではない。從つて、藝術家が時代の選ばれたる子であるといふのは、その時代の所謂流行なるものにひたすら追從阿附してその日暮しの輕淺な逸樂に昂奮したり失望したりする奴隷や犬の如きものを言ふのではない。時代の先驅者とは流行の尻馬に乘つて燥ぎまはるおつちよこちよいのことではない。時代の子とはその當時の流行社會の卑淫な喫煙室で噂されるちよこ才子のことではない。ナポレオンの像を畏も賢んで畫いた愚劣な御用畫かきのことではなく、その樂譜の題字を引つ裂いて床に踏みにぢつた勇壯な音樂家のことを言ふのである。こゝに言ふ藝術家にとつての時代といふのは、日夜に激しく轉變廻亂して殆んどその行くべきところを知らない媚婦の如き流行意識を指すのではない。美と神性との永劫の世界より來たれる藝術家の個性の上に立つ時代

を言ふのである。彼の時代は神の永劫より溢れ來たり、彼の永劫へ今も刻々歸りつゝある時代を言ふのである。パリを去つてバルビゾンにその生活の地を得たミレエを時代の逃避者といふのは、この意味で當らない。やくざて淫雜なパリよりも靜かで清澄なバルビゾンに於いて、彼は彼自らの個性に影射す、その時代を受得し表現し得たのである。彼の繪は誰が何んといつても立派に十九世紀の繪である。而も、彼は彼自らの純眞な個性を寸些も傷け歪めてゐない。個性のない藝術家はすでに自らの生くべき時代を有つてゐない。彼はいつの時代にもパンを食つて生きてゐる要はない。この意味で眞實の選ばれたる藝術家はその當時の流行風會を超越する。彼が自らの個性に忠實であればある程、彼は所謂表面の時代なるものから底深く姿をかくして生きる。優れたる藝術家がその短い在生中は極めて不遇の淋しい道を歩き、世紀の流れてゆくにつれてさんさんと輝き初めるのはこのためである。自分の周圍をとり卷くかういふ意味の時代は、今や偉いなる藝術家には何等の痛痒も與へ得なくなる。彼は自らの欲するまゝに歩き、自らの欲するもののみにその生涯を惜し氣もなく投げ出してしまふからである。彼がその人生への燃ゆるが知き熱意と死ぬ程の執着とをもつて、充分用意して、しつかりと踏み占めた大地は、すでに永劫の世界のものである。時代は今や彼に依つて導かれなければならない。彼の個性がのみ永劫の世界と連らなつてゐるからである。

3

絶對に自分自身になりきること、この外に藝術の扉を開かう鍵はない。言葉を代えれば、自らの個性に深く確く基調づけられたる彼特有の觀照とに依つて、自らの信じ欲するまゝの三昧境に汲入してしまふこと、この外に藝術家の生活はない。古來幾多の藝術家が或る程度の天才は確にもち合はせ乍ら、或は宮廷に卑しく出入して自らの魂を所謂御用藝術家といふ名に賣り、或は所謂民衆に媚び屈してその天才を一時の豚共の喝采に代えた例は少くはない。言ふまでもなく、舊く因襲や習慣や傳統はいつの世にも激しく渦卷いて惡臭觸るゝに耐へない濁つた雰圍氣を作るものであつて、日夜この濁水の中に生き食ひつゝある銘々がこの中に於いて自らの純情を確く守らんがためには、豫想の外と思へる程の苦き涙と痛き血とが絶えず流されなければならない。一朝にして世に勝ち得し勇者は曾て一人もゐない。勞苦に次ぐに迫害、迫害に次ぐに忍屈、忍屈に次ぐに哀傷、哀傷に次ぐに惱亂を以つてしなければならない。多くの不幸なる弱者は力つきてこの汚れの中に豚と供に蒼ざめて横はる。藝術家の生涯はたゞ自らの個性の純眞を地獄から守らんための鬪ひの生涯である。困難はその魂が偉大であればある程痛く募るものである。ベエトオヴエンのかの異常なる人生の歡喜はその並々ならぬ苦惱傷心を通じて、初めて勝ち得たものである巨人ミケランジエロもその自らの個性を守らんがためには、「自分は焦慮のあまり死にかゝつてゐる。何故なら、自分の不幸な運命は自分に自分の欲することを爲すことを許さないから」との痛い戰ひを常に鬪つたのである。藝術家は如何なる場合と雖もその自らの個性を失つては生命はない。その個性の純眞を汚しては藝術の高貴性はない。彼の立つべき唯一の立場はその個性である。彼の生命はその個性の生命だからである。

従つて、藝術家はその藝術活動に於いては厭くまで主觀的でなければならない彼は自らの個性の解放と進歩とを叫んでその思ひのまゝ希ひのあるだけを自らの主觀に依つて色づけなければならない。彼は厭くまで純粹に主觀的であつて何等の不可もないのであつて、彼にとつては主觀は永劫へ向つて開放されたる全生活の窓である。彼はこの窓からのみ美と神性とを感得するのであつて、その生活はこれに依つてのみ現實に體驗され得るのである。從つて、彼は所謂客觀化の平俗安易をのみ求めて、自らの衷心よりの求望以外の表現の道を辿ることを恥ぢる。彼の動くところ、彼の作るところ、全てに明瞭鮮明なる彼の主觀と香氣が匂ふべきである。もとより、その態度は四周の大自然へ向つて愚かしく挑戰的であるよりは、謙讓素朴な濁りなき、度量を示さるべきであるが、この對自然觀は客觀的であるよりも寧ろ、主觀的であるべきであつて、自然の相を寫眞の如く寫すのがその仕事の最後ではない筈である。ものを極めて正確に凝視し痛感する時、自らの個性はその大自然と唯一不二のものとなるからである。即ち、大自然は藝術家の鋭き主觀に依つて初めて正しく藝術的に生き得るものであるからである。

極く僅かな例外を除いて、個性は主張されてされ過ぎると言ふことはない。所謂性格の悲劇はその個性を伸ばすことに依つて釀生されず、曲げることに依つて惹起される。ゴッホがゴッホ自らのまゝに樂しみ又苦しんで生き通した限り、彼の最後の哀傷も一つの祝されたる悲劇であるに過ぎない。モツアルトが自らの藝術に充分樂しみ滿されて生き拔いた限り彼の不遇にして短命なり 派の生涯も無下に悲しまるべきではない。生き得る日の限り生き切ることに依つてをの全素質を遺誠なく表現すること、これのみが藝術家の絶對道であつて、その道程がよし如何なる幽谷と茨とに痛々しく滿されてゐやうとも、その生涯は些も嫌惡されてはならない。彼はその苦惱を通じ涙と汗とを透して、益々自らの眞珠を磨き得るからである。彼の苦惱はそのまゝ人類の苦惱となり、彼の輝きは人類の大空に新しき光を加へるからである。

4

個性は全らゆる個人の生活の核心である。藝術家の個性が強ければ強いだけ、全らゆる障害を押し退け突き破つて進まうとするのは當然である。ベエトオヴエンを論じた一文に於いて、エドワアド・カアペンタアは、舊き因襲や習慣や道德は物々しい容儀を以つて人類を威壓しつゝ過去からやつて來、神自身の姿にその身を裝うて偉大なる影の如く容體ぶつて時の廊下を歩んで來るが、偶像に向つての一種の冒瀆者である新しい個性がそれを攻擊し排斥してその王冠を引つ剝ぐと、現前の光影は卽座に轉變して、後に來たれるものが今度はその位に卽き、前のものゝ代りにその天上の光の一つとなるといふ意味のことを言つてゐる。個性は絶えず鬪へる改新者であつて、自らはその時代に依つて創造されつゝ、しばしば自ら時代を改革し、創造する。個人の藝術感興と社會の倫理的意識とが不自然なく一致してゐたといはれるかのゴシックの時代、一個の藝術家の喜悅が同時に社會人全體の喜悅となり得たといはれる黃金の時代、かうした不可能事が充分可能であつた或る特種の時代を除いては、いつの時代にも一個の偉大なる個性はしばしば他の理解なき卑俗なる社會人全體と驅

はなければならなかつた。血と汗とが殆んど空しく流された。個性は自ら勝つまでその主張を歪めやうとしないからである。個性に一旦もりあげられたる鋭き意想は、如何なる慘虐な迫害窮天の後にもその力を弱めやうとはしない。一旦燃えあがつた自覺せる個性衝動は、更び他の力を以つてして消し停めることは能きない。そは殆んど徒勞頑迷と見ねる程の執心を以つて、その時代人の無共感沒共鳴を爭つて悔いない。そはその本來の性として、自らの創意の像を外部の大自然の影に象徴化しないでは決してをかないものである。從つて、惜しげもなく自らの血を汗を魂を信仰を、時代の空へ撒き散らさうとする。全らゆる時代の暗礁は乘り切つて、新しい時代を自ら欲するまゝに創造しやうとする。新しい道を時代のために拓くこと、この外に個性の意圖はない。

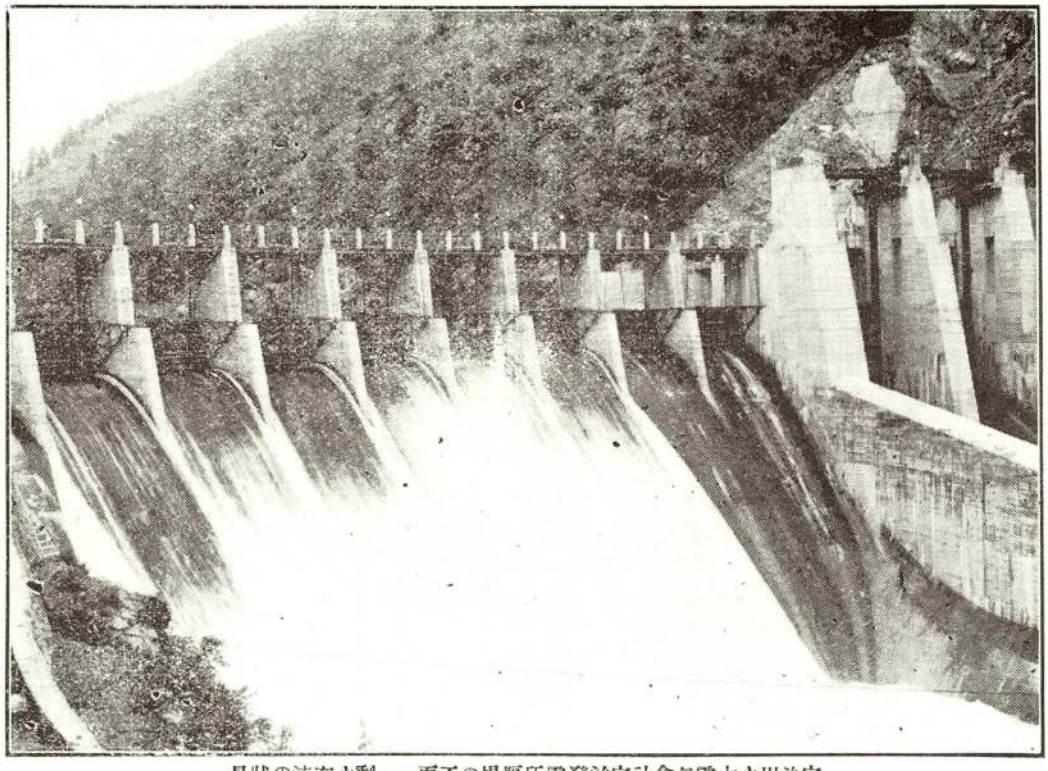
藝術家は他の誰よりも純粹に一個人であり、その藝術は他の何ものよりも絶對に一個人の藝術であるべきではあるが、その一個人に內感されたる時代に依つてその時代は氷劫の世界に輝き、その一個人の內生活の緊張の度合に依つてその藝術のその時代價値は計らるべきものである。彼は時代に媚び從ふ前に、自らの個性の聲に聞いて生くべきである。彼は最後まで休まざる戰士であり改革者であつて、その時代に曳きづられるよりも、時代を導きつゝ進む。彼の唯一の道は創見への道であつて、彼の全生命は、時代の錯誤と亂倫とに迷はされうち敗かされることなら、自らの魂の裏に新しき時代を築きつゝ歩むことに懸る。全社會人が總體としての時代的誤謬に墜ちて狂奔しつゝある時、彼はたゞ自らの信ずる道を淋しく一人歩む。全社會人が誤つて彼を賞揚する時、彼は自らの魂を塵芥の中に墮すことなく獨りを守る。彼の生くべきは現前の浮動社會ではなく、永劫に連なる絶對の時代である。全社會人と一藝術家との全き意味での共感共鳴の可能である時代、そは直ちに神の邦である。

神の邦は來たさるべきである。地獄がいつまでもこのまゝで續く限り、時代と個性との鬪ひは停む由もないものである

（附配——この小文はもとより一つの貧しい未定稿であるに過ぎない。いづれ稿を新らたにするつもりである）

ふつとして眼につけるかも

黑塗の一閑張にうつれる青葉



宇治川水力電氣會社宇治發電所堰堤の正面——剩水奔流の狀景

日本建築協會
春季大會參加記

於山城國宇治町
會員　R　S　生

さつき晴れの空に風薫る五月十七日のよき日、本年の春季大會は開催された。

昨夜から降つてゐた雨は、名殘りなく晴れて、宇治の上空には密雲の間から、美くしい初夏の光が洩れてゐる。宇治は昔から、所謂『茶所』として有名な斗りでなく、山紫水明の地である。町を縦走する宇治川の清流は、水の綠も深く、兩岸の山は逆に其影を映し、山の色、水の色はうち交り重なり合ひて、みどりの色は、いよ〳〵濃さを增してゐる。樹々の青葉、若葉は滴らんとし、みるからに、思ふからに、すがすがしい此地を卜して大會を開催したのも、故あるかなである。

けふのプログラムは、前十時、宇治町龜石樓に集合、宇治川水力電氣株式會社發電所見學、平等院見學、午後は宴會となつてゐる。

集合時間までに、大會々場なる龜石樓に、來り會する者、七十餘名にのぼつた。一同揃ひの徽章で、宇治電本社の案内で、宇治發電所から見學す。その大要は

所在地　京都府久世郡宇治町宇治郷
水路取入口　滋賀縣滋賀郡石山村南郷地内

水路延長　六、一三一間
使用水量　二、二〇〇個
落差　二〇五尺
出力　三二、〇〇〇『キロワット』
水車　八、一〇〇馬力　六臺
發電機　七、〇〇〇『キロヴォルトアムペア』六臺
變壓器　一、八〇〇『キロヴォルトアムペア』二一臺
起工　明治四十一年十二月
竣工　大正二年七月

で、電力は京都、大阪方面に供給するものである。

正午宇治公會堂で、宇治電の寄贈にかゝる晝食を喫した。食後、晴明神社の境内で、一行記念の寫眞を撮る。

後一時前、堰堤工事及志津川發電所の見學に出發す。前者は、宇治發電所より約五十町、後者は同約三十町ばかりで、共に宇治川の上流にあり。

先づ出發地、晴明神社前で、宇治電の好意なる同社專用の電氣『トロッコ』に乘る。この『トロッコ』は、大へん面白く出來てゐて、一臺（大きさは巾四尺、長六尺、高二尺五寸位の長方形）に四人合乘りで、而かも車の眞中に、縱に、繩があつて、それに捕まつて落ちない樣にするのである。

電氣機關車に、この『トロッコ』十數臺を連結して一列車を編成した。一同はこの列車のお客となつたが、乘つた恰好は頗る珍奇なもので、揭載の寫眞で想像されたい。一同は、こんなものに乘るのははじめてで、誰も胸に、危惧の念を有つてゐるが、さも物珍しげに、口では話し合つてゐる。列車の前後には、運轉手、車掌がゐて、尤も斯ういふ名稱が、つけられるかどうか、判らないが其人等に、一行の生命を、暫く預け、やがてこの建築協會列車は、動きはじめた。

今列車は、宇治川の左岸を沿つて東北に遡つてゐる。動搖は、かなり劇しい。ついうつかりすると、はづみで振り落されさうだ。車上見ゆる山々は、雨に洗はれて、若葉、青葉は、輝く陽に、燃へてゐる。水は清冽、そして、流は急、山は新綠、實に爽快。顏の面を通る薰風も心地よい。時に、車は、斷崖、絕壁をよぎり、平坦を過ぎ、急阪を登り、見るも恐ろしき谷間に懸る鐵橋を渡る。この時こそは、流石に、思はず身體が縮こまる。高き崖の岩間から、可愛らしい藤の花が溪流に戲れてゐるのも、眼をひく。とかくして列車は、堰堤に列着した。

堰堤を遠望すると、丁度小『ナイヤガラ』瀑布のやうな、感がある。堰堤のすばらしい工事と、壯觀とは、今更らに人工の偉大さを思はして、聊か人意を强うすることが出來た。

『堰堤は剩水吐を設け發電に引用以外の水流を溢流せしむるの外右岸に於て河底に近く直徑十六尺の正圓形隧道を穿ち堰堤上流に於ける河底の沈澱物を排除し且つ洪水時に於て洪水の一部を流過するの用に供す。堤體は總て『コンクリート』造にして宇治川本流を横ぎり兩岸に跨り長さ二百十六尺高さ最低川床以上堤頂迄八十六尺、厚さ百五十尺乃至二十八尺堤頂部には徑間二十尺の『テンダーゲート』九戸を裝置し更に左岸に隣接し剩水路を設け徑間二十三尺の『ストーニーゲート』二戸を備ふ此水門以下水路延長二百六十五尺なり』。これは堰堤工事に對する、係技師の叮嚀なる說明である。

二時半同所を辭し、歸途志津川發電所に寄る。その大要は

所在地　京都府久世郡槇島村槇尾山
水路取入口　宇治橋上流約五十町宇治川右岸
水踏延長　一、〇〇九間
堰堤　長サ二一六尺—高サ一〇一尺—厚サ上部二八尺
堪水量　一二九、〇〇〇、〇〇〇立方尺
水槽　面積五三〇坪—深サ二四尺
落差　一五〇尺
使用水量　二、八〇〇個
出力　二八、〇〇〇『キロワット』
水車　一七、〇〇〇馬力　三臺
發電機　一四、〇〇〇『キロヴオルトアムペア』三臺
變壓器　三、〇〇〇『キロヴオルトアムペア』一二臺
起工　大正九年九月
竣工　同十三年三月

である。

四時平等院に着く。

平等院は、藤原關白賴通の建立したもので、初めは其別墅だつたが、寺に改め明尊僧正をもつて開基とす。小僧さんの案内で、寺の寶物を參觀す。この小僧さんなか〳〵の愛嬌者で、曰く、此掛地は、狩野永德、襖は何某、眉間の欄間は、左甚五郎の作ではないさうです、何々は國寶になりかけてゐる、來訪錄（同寺訪問名士の染筆）には、あまりよい作がないさうです等……等、頗る茶目で、人々をして思はず頤を解かした。尙同寺には、後醍醐天皇笠置より逃れさせられて三種神器を奉安せられたといはれる、御室あり、殊に源三位賴政に關するもの〻多きは特記に價す。

次に有名なる鳳凰堂に案内された。鳳凰堂は、優秀なる古建築物で、其の結構、樣式、內部の裝飾等は、既に業に世間周知のことで、今更ら喋々を要しない五時暇を告げて、龜石樓に歸着す。

豫定より遲くるゝこと一時間半、愈々五時半晩餐大懇親會開始さる。百疊の間に各々の座、定まる。居ながれた所を見ると、堂々たる關西建築家ばかりで、如何に大會が、權威ある重みあるかを思はすに充分である。

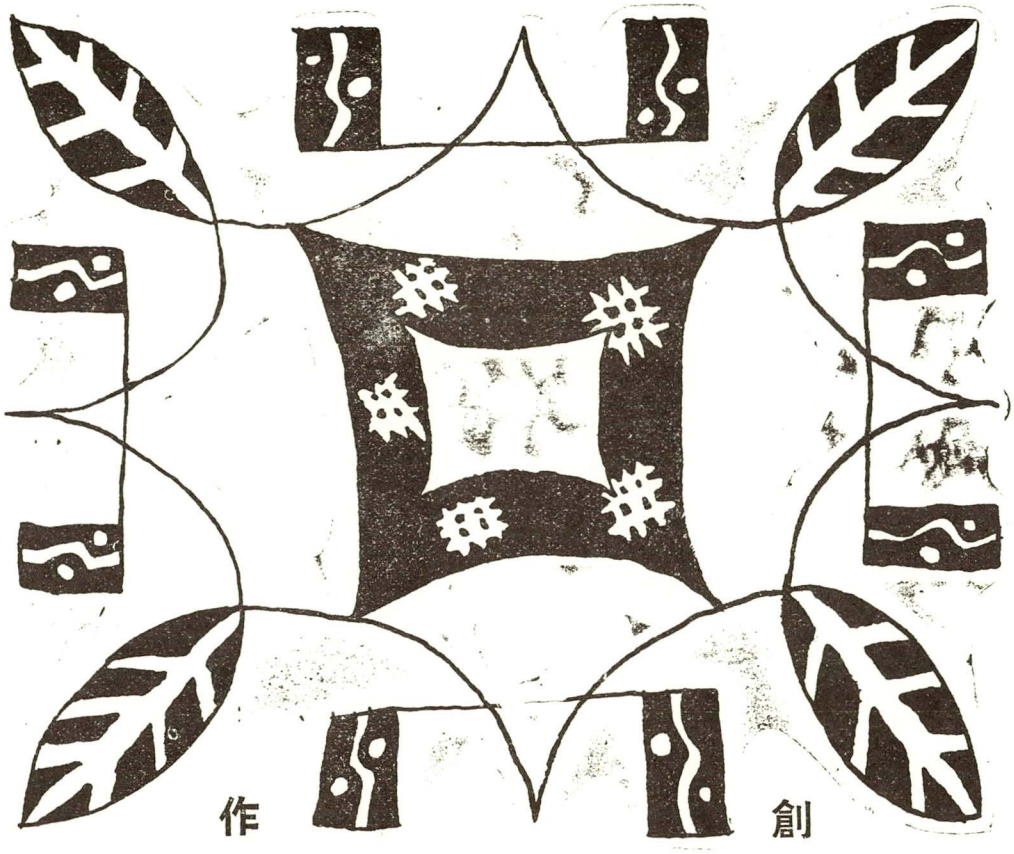
開宴に先ちて、松本理事長役員を代表して、『多數來會を得て、盛大なる懇親會を開きたることを祝し、粗餐なれども十二分の快と親睦とを盡されんことを望む云々』の挨拶に、亞いで須川委員長、大會委員を代表して、右と同樣の挨拶に加へて、『不行屆の點あれば、小輩に免じて諒せらるゝ樣』との辭に、會する者各々拍手を以つて、之に答ふ。

宴は開かれた。料理は龜石樓主自慢のもの、之に配するに、宇治の紅裙十數名酒間を斡旋す。流石は、田舍、老いも若きも、宛然、公設市場の賣殘りの恰好。でも女は女、田舍は田舍。そこに別趣の味ありて、座は自然と華やかとなる。

酒は、はずむ。二酬また三酬。盃は隣から、近所へ、さては遠あるき。盃は重なる盃は。三筋の糸は、更に興を增す。と誰やらの、所望にK氏いなみがたく、歌澤『宇治は茶所』に、其の粹な喉で、滿場をうならす。これを皮切りに、めい〳〵日頃の自慢を現すは此時なりと『二上り』『鉾さび』等、等……と遂に安來節に至り、座はいやが上にも賑ふ。若き妓の、赤い、けだしを出して『出雲の何やら』を身振り面白く踊り、アンコールは幾度となく繰返へされ、興はのつた。日頃、謹嚴なM氏まで紅裙と、入り交りて鬼ごとに忘我となる。

かくて、時の經つを知らぬげに、宇治の初夏の夜は、更けて行くのであつた。八時さしもの盛大なるうたげも閉された。

稿を終るに當りて、當日好意を寄せられた宇治川水力電氣株式會社並に、說明に當られた同社員の方々に謝意を表す。



濕つた土地

あのにいむ

『たあいま！　たあいま！』と洋子が跳びこんで來た
エプロンのポケットが幸福さうに脹らんでゐるのが先づ彼の目についた。近頃よく肥つて、澤山の着物を着せてもらつて、頰を赧くして、妙に足を力を入れてよち〳〵揺れて歩くのが、あひるのひよこを思はせて少々滑稽だつた。

『わりに早かつたでしよ、ずゐぶん急いだものだから』と續いて敏子が入つて來た。

『お歸り。おつし、今日はどこへ行つたの』と彼は膝へ元氣よくあがつて來た洋子に笑ひかけた。

『ずうつとね、おつしね、おおちやか、おばちやん』

『ほゝう！　これおかちね、父うちやんのおみやえね』

『これおかち、父うちやん、おみやえ』

洋子はポケットに短い指をつゝ込んで、小き飴をとり出した。彼はそれを突き出した唇で受けとつて、早速口を動かせた。

『嫌な父うちやんね』と敏子は笑つて、『おつこ父うちやん、いやちんぼねえ』と洋子に頰をよせた。

『おつこ母あちやん、いやちんぼねえ。母あちやんにもおみえをあげなさい』と彼はすかさずに言つた。

『母あちやん、いやちんぼ？』と洋子はこの子の癖で

その首を一寸傾けてみせた。

『ウヽ、よう言ふ父うちやん』と敏子は笑つて、洋子の短い指から小い飴を唇で受けて、同じやうに食べ出した。

『それよりかあたし、今日大變なことを頼まれて來たのよ』

と彼女はものを言つた。

『なにをさ』と彼は二つめの飴をこんどは勝手に洋子のポケットから撮み出して口へ入れた。

『なにをつて、家を頼まれたのよ。そして土地と』

『僕等も人に土地を探して貰ふ位に早くなりたいね』

『早くなつて下さればいゝぢやありませんか』

『お金がないと土地が自分の有にならないなんて嫌だね』

『そんなこと言つてたら、一生涯人の建てた家にばかり住んでゐなけりやなりませんわ』

『一坪五錢で賣つてくれさうな土地がどつかにないかな。そしたら三百坪も買つてその眞ん中に小さい家を建てゝ、鷄を飼つて兎を飼つて、七面鳥を飼つて山羊も飼つて、家のぐるりに一杯青草を植えて、その草の中に大きな水瓶を据えて、眞夏はその中へぴつたり浸つて一人で大空を見てゐたい。……』

『冬には凍えて死ぬんですか』

『いゝや、冬にはぴつたり戸を閉めて、部室の眞ん中へストオヴと寢臺を置いて、何の野望も亂心もなく、カアテンの外側に射す弱々しい陽の光をぼんやり見てゐたり、窓の側を横切る風をきいたりしてゐたい。時々、ぼんやり温かいコヽアでも飲めると惡くないね』

『ふゝ』と敏子は氣をのまれてこどものやうに首を竦めて微笑んだ。

彼は三つめのおみやえに手を着けた。それから三人でポケットのものを皆食べた。

夕方早く食事をすませると、彼は敏子に勸められて外へ出た。四月も末に近い野は夕明りの間がかなり長いので、洋子は小さい下駄を素足にはいて、驅つたり停つたりし乍ら、危つかしい足どりで、他に誰一人通らない野道を大氣嫌で歩いた。敏子は道々今日の茶話會での話を彼にした。かなり長い間の机の前の生活から久しぶりにかうして戸外に出た彼にはすでにその穗が頭をもたげてゐる青々しい麥畑や、遠くの空に懸つたあるかないかの夕月や、木立の向ふの村の夕煙りや少し燥いだ妻のおしやべりや、その他色んなことが他意なく明るい滿足を與へた。彼は輕い快い氣分で、妻や子供の聲にうん／＼と答へてゐた。

今日の大阪での茶話會は敏子の母校の校友會のであつたがその出身校が遠い長崎であつただけ、今日集つて來た者にも少く、少いかはりに實にざつくばらんの親しい茶話會であつたらしかつた。彼女はその席上で梅森先生に實に何年ぶりかでお目にかゝつたのである。家と土地とはその梅森先生が探してくれとの依頼なのださうである。女史は今もやはり女學校の先生は止めずに京都と大阪との二つの學校で半週交替に教鞭をとつてをられた。今の住居は京都のすうつと郊外で、何彼につけて不便なので、できたら京阪間に至急に轉りたいとの話なのであつた。

『あたしのお世話になつた先生だからできるだけお世話した

いとおもふわ』と敏子は言つた。
『うむ。一つおまへが一生懸命にお世話してあげるといゝ。僕はまあまいざといふ時まで口出しをしないでをかう』と彼が言つた。
隣村へ着くと、彼等は喜田さんを訪ねた。喜田さんといふのはこの邊の他の多くの人々と同じやうに毎日汽車で大阪の事務所へ通つてられる人であつたが、敏子等が性來の交際下手でこの村へ來てからすでに三年にもなるのに未だこれといふ深い交渉を有つやうな人のない中の、僅か一人か二人かの親しい交渉をもつてゐる人であつた。所謂他の地方からこの地へ借家住居にやつて來た人々は、この邊の村では未だ『よそ者』といふ警戒と敬意との目を以つて見られるのが常であつた。敏子等は心得てこちらからも『地の者』に求めて近づかうとは希はなかつたが、喜田さんはすでにこの村に永住の豫定でゐられたので、從つて、『地の者』とも如才なく相當の交渉をもつてをられた。で、土地や家の心當りを賴むには、喜田さんを煩はすのが最も近道でもあり良策でもあつたのである。
敏子は早速一件をもち出した。喜田さんは快く微笑まれた『では、この土地の方で極く親切な適當な方をご紹介しませう。大木さんといふ方ですが、この村の大木村長の甥さんです。極くものゝわかつた人で、世話好きの方ですから喜んで世話して下さるでせう。いつもうちへ遊びに來られるんですから今晩もひよつとしたら來られるかも知れません。まあまごゆつくり話していつて下さい。ほんとに久しぶりだつたぢやありませんか』
『今晩は居られますか！』と表で大きな聲がした。
『や、來られました、あの方です。丁度都合よかつたです』と喜田さんは微笑まれた。
『どうぞ、居りますよ、おはいり下さい』と奥樣が玄關へ立つてゆかれた。
調えたやうに都合よく、敏子等は大木さんに紹介された。彼は初對面の人にものを賴み込むといふことに酷く氣がひけたが、敏子はこの好都合に喜ばされ調子づけられてゐたので早速土地の話を大木さんにもちかけた。
『よろしい、承知しました。いつでもその梅森さんをお連れして下さい。どこでもご案内しませう』と大木さんはうなづかれた。如何にも世話好きらしい人のいゝ笑顏であつた。
この村の中ならどこでもお望みのところを喜んでお世話しませう、そんな人格者なら喜んで村へ來てもらひませう、村長である叔父にも話して骨ををらせませう、時價よりうんと安くさせませうといふ話であつた。都合は實によかつた。
その翌朝、彼等が少々おそく起きて未だ寢床も片付いてゐない時、玄關へ來られたのは大木さんであつた。いつ梅森さんが土地を見に來られますかといふ問ひであつた。未だ先方へ通知の手紙も書いてゐなかつたので、こちらの二人は驚いて早速朝食もすませないうちから手紙を書くことになつた。敏子に賴まれて彼が未だ會つてもみない梅森女史に長い手紙を書いた。返辭が數日後に來た。今大變急がしいので、次の月曜日の午後大阪の學校からの歸りに寄るといふことであつた。敏子は出かけていつてそのことを大木さんに傳へた。

敏子の話に依ると、梅森さんは姉妹が數人あつて、現在アメリカで住んでゐられる二人をのけて他の三人は全て所謂教育家で、各地の女學校に勤めてゐられるが、夏冬の休暇には姉妹家族皆んな集るのだからなるべく大きな家がほしい、それから土地の方は梅森女史の令弟が京阪間に病院を建てたいからといふのであつた。そして、住居の方も粗末な借家ではなしに、能きれば土地つきの家を買ふか、でなければ土地を買つて新しく理想のものを建てたいといふのであつた。話はこの地方としては相當大きかつたので、村に即座に評判が立つた。醫學博士が殺風景な村に相當氣の利いた病院を建てるといふこと、姉妹そろつた教家育である家庭が村に永住されるといふこと、かうしたことは勿論村には村自身のためにかなり喜ばしいことだつたので、村長である大木氏、青年會の幹事か何かである大木さん、其他の村の所謂有力者を實に容易に動かせた。敏子は土地と大きな借家賣家とを見て廻つた誰彼が敏子を訪ねて來た。敏子も外出した。相當大きな根の要る著述を現在してゐた彼も、從つて、このために時々敏子について歩かされたり、今まで知らなかつた人と話をしなければならなかつたり、敏子の急ぎの時はペンを置いて洋子の遊び相手になつたりしなければならなかつた。

初對面の人にはなるだけ口を利きたくないはにかみや、初めての人に訪問されるのを酷く氣にする變人であつた彼も、人に今は知られたくはない小さな自卑自蔑してゐる長屋の一隅で、とうとう梅森女史を迎へなければならない日が來た。敏子ははしやいで、洋子ををいて一人で驛へ迎へに行つた。

彼は流石に少しぎこちない氣分で、初めての客を待つてゐた玄關の戸が開いて初めて聞いた聲は、流石に九州人らしいざつくばらんな氣どらない快い響きを有つてゐた。ともかくも彼は菓子盆を眞中に置いて女史と對ひあつて坐つた。嫌味なアメリカ製のマスタア●オヴ●アアツではなくて、單なるさばけた中年婦人であつたのが彼を素直にしてくれた。流石どこかに老嬢らしいニツケルの冷たさがあるやうに思へたが、氣持の美しい人らしいといふ初印象が彼を明るくしてくれた。

『せめて家だけは自分の家を有ちたいと思ひますの。何時の程からか、私は何枚も何枚も自分の住んでみたいと思ふ家の圖をひいて樂しむことを覺えてしまひましたの。私、今までの日本住宅は第一に廊下といふものゝないために一つの部室に行くためには他の部室を是非とも通らなければならないこと、部室同志の交渉があまりにルウズなために絶えず隣室の音や聲を氣にして居なければならないこと、客間本位であつたゝめ落ちついた家族の居間のなかつたことなどが、ごまかせない缺點だつたと思ひますの。それが、かうした缺點をなくした新しい家を自分で建てゝみたいと思ひますの。庭や空地を能きるだけ廣く採つて、歪んだ生活をもつと土と大氣とに親しいものにしたいと思ひますの』

かう言つた梅森女史の理想は勿論彼を喜ばしてくれたので自分は二三建築家に知人もあるのでよかつたら能きるだけの便宜を計りたいと彼は言つた。自分の住む家ではなくとも、自分が少々でも口を出して一軒の家を建てるといふことが彼を明るい昂奮の中へ押しやつた。かういふ世話ならしてみても面白いと、彼は既に相當乘り氣になつてゐたのである。

敏子はやがて女史を案内して大木さんを訪ねた。大木さんは殆んどあるだけの土地を叮嚀に案内して下さつたと、敏子は遲い汽車で女史を送つてから歸つて來て彼に告げた。

梅森さんとの新しい交渉がかうして初められた。今は敏子より以上に彼の方が熱心にあちこちの家を散歩の途中に見て歩くことになつた。いゝ家があるときくと、彼は自分の借りる時のやうな昂奮を以つて見に出かけた。土地の値段もあちらこちら聞き合はせた。相當の土地通に自分がなつてしまつたことを感じた。

或日彼は家のことで遂に敏子と諍ひまでした。或る銀行家の建てたものでこの邊では少々色の變つてゐるいゝ家が、銀行が破産したゝめに賣りに出てゐた。彼は事實自分でもよくはわからなかつたのであるが、その氣障なアメリカ風の安普請が氣に入らなかつたので、土地共で高くも二萬五千圓位のものだらうが、梅森さんがあんなものを買ふやうぢや仕方がないと敏子に言つた。そんなことはない、あんないゝ家は外にはない、評判では六萬圓だとかいつてゐる、梅森さんがお買ひになるといゝのにと敏子は言ひはつた。

『ふゝん、笑はせるね』と彼は無雜作に言つてのけた。『あんな家がこんな田舍で六萬圓とは人を食つた話だね。あの安つぽさが第一嶮だね。あんなものに感心するやうぢや梅森女史も案外話せないね』

『それがあなたの癖です』と敏子は自分の誇りを少々歪められたので性急に斷言した。『あなたはあの家のうちらも見てゐないぢやありませんか。六萬圓といふのは四百坪以上もある土地共ですよ。見て來てごらんなさい。實によく建てゝあつてよ。私もせめてあんな家に一ケ月でも住んでみたいわ』

『ふゝん。僕なら五千圓であれより氣の利いたものを建てゝみせるね』

『あなたはちつとものに感心しない人だ、人が笑ひますよ』

が、やがてその家を管理してゐる運送店で確めたところは二萬八千圓でそれも直ぐ現金を貰はなくてもいゝといふ話であつた。そらみろといふ快さが彼に來た。彼は今や土地や家に夢中になつてしまつた。

手紙がゆきゝしてゐるうちには日は追々過ぎていつた。彼は他の誰よりも以上に、大きな住宅や立派な病院がこの村に建つ日を待ち望んでゐる自分をいとほしく思つた。が、梅森女史の方では色んな混み入つた事情があつたので、病院の方は一先づ後廻しにして住宅の方を一意探したい、それも土地を探して今直ぐ新築にかゝるといふよりも、土地付きの家を一時借りて京都から轉宅し、それからぼつ〳〵住宅や病院を建てたいといふことに氣持が變つて來てゐた。せつかく喜田さんや大木さんを間に入れ乍ら、かんじんの土地が後廻しになつたといふことは、彼をかなり失望させることになつたが、仕方がないので專ら土地付きの借家を探して歩くことになつた。古い家や今まだ建築中のやを彼は見つけては梅森女史にまで手紙を書き、女史も來られたが、どれもこれも思はしくなかつた。自分がこれはと思つた家がちつとも女史の感興を惹かなかつた時、敏子はがつかりした風をして、人樣に家のお世話なんてするものではないと微聲でこぼすこともあ

つた。唯一軒の家を見付け出すにも、その家を見付けて來てくれた人への配慮、家主への交渉とかけひきにともなふ快不快、それから梅森女史への通知、それから再び女史と倶に家を見にいつて家主に女史を紹介し、それから一旦京都へ歸られた女史から氣に入らないからとの返辭をきいて又家主へ出かけて行つて斷らねばならぬ時の嫌な氣分等、種々面倒な濁つた氣持を味はねばならなかつたので、かういふことを數度繰り返してゐるうちに、氣持がぐつたり疲れて來たことを彼も感じた。そのうえ、あれからずつと本氣で色々運動して下さつてゐる大木さんや又喜田さんやに對しても、その初めの話があまりに華々しかつたゞけに眞實を告げて失望させるわけにはゆかぬので、大變この方にも氣を配らなければならなかつた。

二人はよく顔を見合はせてぐつたり坐つてゐたりした。

『家がほしいな。借家でもいゝから、も少しましな家へ轉りたいな』

『このあいだの家なんか、あたしだつたら喜んで住みますわ。棟は一つだし井戸の水もいゝし、それに湯殿がついてゐるし畑もついてゐるし』

『土地だつてあんないゝところが坪七圓だなんて嘘みたいだこゝへ電車が來てごらん、見てゐるうちに百圓臺にはなる土地だ。吹田みたいなやくざなところが百四五十圓もしてるぢやないか。梅森さん、どうしてとびつかないのかな。僕ならあるだけの金で買つてをくがな。人の氣持はわからないものだ』

『死ぬまでには自分の家を建てゝみたいわ。ほんとにはがいゝわ！』

ほんとに、はがゆかつた！

『あつたあつた、父うちやん、ほんとにいゝ家が見つかつたのよ』と或る日敏子がいゝ氣嫌で彼の机の側へ坐つた。

『梅森さんの氣に入りさうかな』と彼は氣乘りがしなかつた

『えゝ、あの向ふの家よ、もと郡長が住んでたつていふ家』

二人は立つて裏の椽から裏の野つ原を見た。折からの雨中に、一見相當立派だと思へる屋敷が靜かに煙つてゐた。今日まで常にその家は見乍ら、空いてゐるといふことに氣がつかなかつた自分達のうかつさが可笑しくなつて來た。あれならいゝと彼も思つた。雨の中を大變だから明日でいゝぢやないかといふのを、敏子はおして出ていつた。

家主は隣村を一つ越しても一つ向ふの村の豪家であつたがありすぎる暇と人のよさとにまかせて、その家の隱居が早速女中に鍵をもたせて雨の中をやつて來た。雨は激しくなつてゐた。彼は恐縮してその老人に幾度もいくどもお禮を言つた。

家は一軒ぼつねんと離れてゐて他とうるさい交渉がないといふことが第一彼等の氣に入つた。初めは郡長のために建てたといふだけあつて相當雜作もよく、東南西三方に廻り椽があつて相當明るくもあり、長い廊下の向ふの八疊の離れは讀書部室には所謂調え向きであつた。全部で七間、便所二ケ所納屋二ケ所、湯殿も井戸も上等であつた。いゝことには、かなり廣い庭をのけて裏に七八十坪の畑地が付いてゐることであつた。全敷地は二百坪に近いし、驛にも十五分位の近さであるし、何から何まで梅森女史の氣に入りさうであつた。で

二三日後まで家主には待つてもらふことにして、彼は大急ぎで京都へ見取圖をそえた手紙を書いた。返辭には五六日後でなければ行けないとあつたので、その由を家主に通じた。それからその約束の日には女史は病氣したとかで來られなかつたので又敏子が家主までその由を傳へにいつた。遂に女史が家を見に來られるまでには、彼等と家主との間にはかした空しい來往が數度くりかへされてゐた。女史がいよ〳〵來られた日には、女中だけが鍵をもつて向ふの村から來た。梅森女史は家を見たうへ、二三日中に返辭するからと歸られた。二三日たつと、女史は今度は妹さんを連れて來られて、も一度見せてほしいとのことなので、又女中が向ふの村から鍵をもつて出て來なければならなかつた。彼等は今はもう家主やその女中に氣の毒になつて來た。女中はその日もそこでは何等の確答を殘さずに歸つてゆかれた。それから、京都からはうるさいだらうがも一度今度の日曜日に弟と一緒にいつてみたいからとの手紙が來た。家主がしまひには怒り出しはしないかを心配し乍ら、彼等はその由を家主に告げて、その日曜日にも一度來てもらふことにした。大木さんの方からも土地はどうでしたかといふ督促が來てゐたので、次の日曜日には必ずお伺ひして返辭しますからと傳へた。彼等は兩方から挾まれてしまつた苦しい馬鹿々々しい自分達を感じた。

日曜日はずいぶん晴れたい〳〵日だつたので、しきりに外へ出たくなる氣分をおさへて、彼は敏子に茶菓子を用意させて初めて來られる梅森醫學博士に相當の敬意を表して一行を待つてゐた。終日待ちくらした。駄目！　彼等は又も約束をたがえた！　彼はやり場のない氣持をおさへ兼ねて、敏子をさそつて夜に入つてから散歩に出た。

『昨日は失禮しました。ほんとに失禮しました。何か都合もあつたのでせうからどうぞ惡く思はないで下さい。ほんとに失禮してしまひました！』

月曜日の朝つばらから、かうしたことを言つて、自らを極度に卑下し乍ら、流石に少々變に思つてゐられるらしい大木さんと家主とに、頭を下げて廻らねばならない破目に落されてしまつた時、彼は、もうかうなつた以上は梅森さんが土地を買はなくとも家を借らなくとも、今に自分がその土地を買ふし家も借りてみせるといふ氣になつてゐた。今は梅森さん一家への義理よりも、大木さんや家主への義理の方が彼には重くなつて來てゐた。彼は今やつてゐる仕事が完成しさへすれば相當まとまつた金もはいるといふ自信があつたので、こんな空しいことのために半分以上も仕事の豫定が狂つてしまつてゐるのに氣がついた時、もう〳〵人のお世話はまつぴらだと吐き出したい氣持になつた。氣持が濁つて來るのが實に不快だつた。

その日の夕方學校からの歸途、梅森女史が彼等の夕食中に訪ねて來られた。洋子へのおみやげを貰つたからではないが女史から色々昨日來られなかつた都合、はつきりした返辭が誰にもできない事情等をきくと、流石女史に不足を言はうといふ氣にもなれなかつた。やつぱり全力を盡してお世話しやうといふ氣にもなつた。で、彼はあるだけの常識を一抔に擴げて、京阪間ではこの邊の土地が將來最も有望であること、地勢上最も健康地であること、地價が現在最も低廉であるこ

と、生活が利便と安易とに惠まれてゐる乍ら意外に閑靜であること等を女史に說明した。この次の日曜日にこそは、是非弟を連れて來ると約束して女史は歸られた。

次の日曜日には彼は午前中は在宅したが、どうあつても出なければならぬ用事で午後は大阪へ出た。夜に入つて村に歸つた時、梅森氏が今日午後ともかくも來訪されたことをきいて幾分心に和やきを感じた。敏子の話に依れば、家主の隱居は例の如く女中を連れて朝早くから出かけて來て待つてゐたといふ。梅森氏は別に借りるとも借りないとも言はず、土地の方にも何等の確答を與へないで、あちこち默つて見て歩いたまゝ歸られたといふことであつた。そして、いづれ歸つてからご返辭しますと言はれただけだと言ふ。もつとくはしく言へば、女史は、あの家は便所が突き出しではないのでいけないこと、風は通りさうだが濕氣が多うさうなこと、あれでも道具の馬鹿に多い自分たちには狹いこと、今の京都の家からはうんと目おとりがすること等を敏敏子に話されたと言ふのであつた。

『駄目だ！』と彼は即座に斷言した。『それぢや初めからちつとも氣乘りがしてゐられたのぢやない。失敬だが、それぢや今といつて急に家一軒も見つかるまい。こんな長屋でもしんぼうすれば住めるんだ。住宅といふものは決して外のもんぢやないんだよ。心のものなのだ。その生活意識の問題なのだ。理想ばかりが雲の上にあるんでは、いつまで經つたつて家一つ建ちはしない。あの家には僕たちが轉らうよ。それから五年も默つてしんぼうして、金を貯めてうんと氣の利いた家を建てるんだ』

『轉るつて、あの家は他より一寸土地が下つてゐて濕氣が大變多いつて言ひますよ』と敏子は少々驚かされて答へた。『それに毎月三十五圓も大變だわ。あなたはそんなに働くつもり？』

『なあに、裏の畑を手入れして、茄子も作るし胡瓜も作る。馬鈴薯でも菜つ葉でも芋でも豆でも作り次第だ。花もつくつてうまく行きや大阪の夜店でも時々賣りにゆくさ。花賣り位ならやつてもいゝ商賣氣は僕にもあるね。薪は裏山から採つて來るし、お湯はうちでたてるから風呂好きのお前が汗をかき乍ら町の湯へ出かける要はない。橫の空地では鷄五十羽は充分飼へる。兎も飼ふし山羊も飼ふさ。僕は半日は離れの八疊にひつこもつてうんと精出して仕事する。望んでゐた半疊生活が即座にできる。いやな物賣りも野つ原の一軒家にはやつて來るまい。生活がもつと樂しくなるにきまつてゐる！土地の少々濕つてゐる位なんだい。人間は少々位は濕つた土の中へ手足を突つこんで、草や木と同じやうな氣持にならないといけないんだ。土は少々位食つた方が身體のためにもいゝんだ』

『わかりました！　よくわかりましたわ！』

『わかつたか！　よし。ぢや、この仕事をとも角も片づけて金にして、それで華々しい生活にうつることにしやう』

或る日の夕方、彼は久しぶりに洋子に小さいゴム靴をはかせて散步に出た。季節はすでに梅雨期に入つてゐたので、セルの肌ざはりが雨の霽れ間にしては少々蒸し暑つかつた。

『ちゝめんちよ、ちゝめんちよ』とはしやいで、洋子は先に立つて行きたい方へ急いだ。

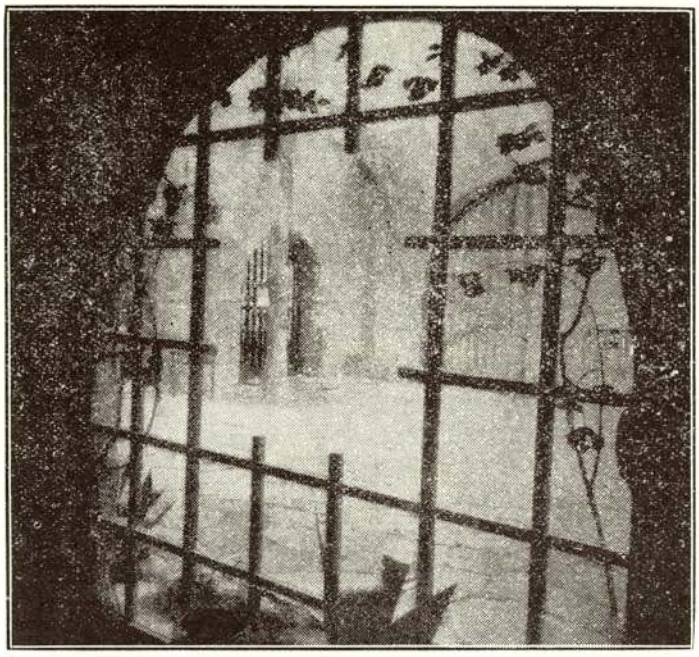
例の一軒家へゆく丁度途中に、七面鳥を一匹飼つてゐる家があつたので、洋子はよく母に連れられてそこへその汚い滑稽者を見にゆく癖になつてゐたのである。七面鳥も飼はう、鵞鳥も飼はう、フアブルといふ爺さん仲々の詩人だつたに違ひない、彼はぼんやりした氣分で洋子と一緒にそこに止つてゐる自身に何ともいへない和やかな滿足を感じた。その強い脚の力にまかせて雨の後の泥濘をやけにくた〳〵踏み廻し乍ら、不愛想な七面鳥氏は柵の向ふを足早く行つたり來たりしてゐた。彼はそこから洋子を抱きあげて、近いうちに自分が轉ることに決めてしまつた一軒家を見に行つた。なる程濕氣がかなり多いと見ゐて、家の周圍にはこの間まで見られなかつた細い青草がその邊一面に生え繁つてゐた。彼はしばしば泥に下駄をとられた。が、今や彼にはこの土地の少々濕めつてゐる位はなんでもなかつた。長い間嫌だ嫌だと思ひ乍ら長屋住ゐをして來た濕つた生涯、會ひたくもない澤山の空しい人間に自分の生活を亂されたといふ濕つた氣持、かういつたものから今即座に明るく一轉して、爽やかな、亂されない、晴々とした生活に入りたいと思つた。他人とのにえきらない交渉はもうもう嫌だと思つた。他人がではない、自分達がこそもつと恵まれた生活をしなければならないと思はれて來た『おつこ、ちゝめんちよ好きかい』と彼は洋子に激しく頬ずりした。

『おつこ、ちゝめんちよねえ、つき！』と子供はにこ〳〵した。

彼はしつかり子供を抱きしめて、泥濘の中を明るい氣持で歩きまはつてゐた。

さやさやにさやぐ青葉の枝見つつ

沖の白浪おもひゐにけり



俳壇

溪舟選

遠乘のついで詣るや若葉道　黒牛
窓に近く街路樹の若葉日搖れやすり
鉢物の若葉あはれむ埃り哉

夏近し

刈草の香にみつ土間や夏近き　艸人
夏隣る人の住居や竹の中　半離
芝植えて夏近き庭の日ざし哉
丘のあなたの工場の笛や夏近し　應石
屋根看板かくに人寄る夏近し
夏近き湖國や比良の流れ雲　凡果
夏近き磯風や砂に網を乾す
橋番の灯も夏近く更けにけり　糸君郎
見てあるくシヨウーウキンドゥ夏近し
夏近き風や園遊會の幕　毛乃夫
寺を出れば夏近き夜の星とべり
垣に乾す飯櫃二つ夏隣り　榮辻
繪草紙屋に隣る金魚屋や夏近し
窓飾り今日替へて夏隣りなる　紀明
夏近き明るき雨や橋に鈎る
住き人の窓に讀みゐて夏近し　春星閑
乳と苺もてきぬ卓の夏近し
埋地ハヤ四五軒建ちぬ夏近し　由風
砂地こゝら苺畠や夏隣り
花草もはや夏近し濱館　混紫
バラの鉢置かへて机夏近し

若葉

卓の上の花瓶や窓の若葉風　大江
若葉すべる日影赤屋根にぬれてあり
傘におつる雫や雨後の若葉道　燕々
食卓におつる毛虫や若葉風　沙子
大寺をぬけて坂道の若葉哉
若葉茶屋の風ゆれの灯もやに更け　糸君郎
崖なりに生え下る木々の若葉哉
江に垂るゝ樓大樹の若葉哉　蕉仙
雨に鐘ついて今くるゝ若葉哉
塀の外に並ぶポプラも若葉して
岨おりて苔蹈む徑や杉若葉　黒舟
風呂を出て若葉の風にひたりゐる
玻璃戸越しにみる雨の中の若葉哉
落つかぬ新ラ壁の色や垣若葉　豚兒
若葉もるゝ目ざしや庭の金魚池　春星閑
植木棚に並ぶ鉢物の若葉哉
柿若葉織部屋の明り窓の外　夜南
若葉映ゆる日の斜めさす廊下哉
受けて飲む岩もれ水や若葉風　榮辻
谷若葉橋にきてふと河鹿きく　毬子
梅若葉寂朝々に掃きにけり
梅若葉櫻若葉塀を隔てたり　凡果
屋根替への藁のほこりや柿若葉
岩にあたる潮鳴りや崖の楠若葉
吊橋にきて見おろすや谷若葉　五角

前號訂正句

庭櫻つけ(櫻)芝處々枯る　黒舟
鑛山をおりて舊道の櫻哉
溪櫻二三家みゆる谷の底　艸人
麥の色雞に障子あけてあり　雀子
岸の舟へ茶のみに戻る干汐哉　石鹿

投句を望む

▲課題『若竹』五句迄『日傘』五句迄
▲期日　六月十五日
▲届先　北區堂ビル三階日本建築協會

俳話

斯ういふ風に句を直す

溪舟

選句をするのに、私はどんな風にそれを添削することがあるかについて、前號にもその例を示したが、こゝにもう一ぺん、本號所載の句に對する私の態度を示しておきたい。

原句　卓上の一論捕や若葉風　大江

訂句　卓上の花瓶や窓の若葉風

原句では卓の在る場所が名瞭でないので、その句意を汲むのに惑じが動搖する恐れがあるので、「窓」を加へて場處を明らかにしたのである。

原句　ガラス越しにみる庭の雨若葉　豚兒

訂句　玻璃戸越しにみる雨の中の若葉哉

ガラス越しと云ふとガラス戸である事は想像されるが、しかし想像するよりもハッキリと玻璃戸と云つた方が適切であらう、すでに玻璃戸越しにみたる若葉であるから、庭の雨若葉と云はなくとも、庭である事が分るので、もう少し句調を穩やかにして雨の中の若葉で十分であらう。

原句　落つかぬ荒壁の色や垣若葉　同

訂句　落つかぬ新ラ壁の色や垣若葉

「荒壁」と云つても、それは古くなつてゐる場合には「落つかぬ」とは云へまい、カナリ落ついた色になつてゐるであらう、故に「新ラ壁」と訂正した、新ラ壁ならば色が落ちつかぬ場合が多いであらう。

原句　若葉から金魚の池に日もれぜり　春星閑

訂句　若葉もる〻日ざしや庭の金魚池

原句の見つけ所は決して捨てたものではないが、つまり云ひ現し方が甚だ單調で一本調子である、しかし訂正句にしても佳句であるとは思はない、殊に「庭の」は蛇足の感もある、後日更に考へ直して見よう。

原句　若葉する下の廊下に日ざし哉　夜南

訂句　若葉映ゆる日の斜さす廊下哉

原句は、感じやうによつては廊下が若葉してゐるやうにも覺える、而もこの日ざしは若葉を閑却して廊下のみにしてゐるやうにきこえる、故に私は、その若葉に映ゆる日が更に斜めに廊下にさしてゐるやうに改竄した。しかし訂句の「若葉映ゆる」は「若葉に映ゆる」でなくては不十分であると云ふ人もあらう、けれども、私の場合は「若葉に映ゆる日」ではなくて「日の映ゆる若葉」である、辭句を切りつめて使ふ詩には、往々斯ういふ場合のあることを考へなくてはならぬ。

原句　谷雫手に溜めのむや若葉風　栄辻

訂句　受けてのむ岩もれ水や若葉風

「谷雫」はヘンである「手に溜めのむ」もヘンである寧ろ「手に溜めてのむや」とすべきである、いづれにしても谷の雫はなかしいから「岩もれ水」とした、「受けてのむ」と云へば、手で受けても、口で受けても受されるが、いづれ、上から落ちてくるものを下から受けてゐる形ちであるから差支へはないと思ふ。云ひ現し方には缺點があるが原句の心持は涼しい感じのいゝものである。

原句　ふと聞きし河鹿嬉しや若葉溪　栄辻

訂句　谷若葉橋にきてふと河鹿きく

さういふ處で河鹿の鳴く聲などをきくことは「嬉しや」とことわるまでもない、嬉しいやうな快よい氣持のするものであるから、ことわるだけ蛇足である。

原句　屋根替への埃立つ日や柿若葉　凡果

訂句　屋根替の藁の埃りや柿若葉

原句「埃立つ日や」とあるが、屋根替でもすればいつの日だつて埃りは立つ、特に埃立つ日といふものはある筈がない。

原句　吊橋が搖れて見おろす谷若葉　五角

訂句　吊橋にきて見おろすや谷若葉

原句の心持は、吊橋がゆれだ、そのゆれてゐた時にゆられ乍ら谷の若葉を見おろしたといふのであるが、句のまゝでは、吊橋がゆれたいので見おろす、といふやうにきこえる、つまり之も辭句に缺點があるのであるだから、吊橋にきて谷の若葉を見おろしたとすれば、その場合、橋がゆれてゐてもあらうし、ゆれてゐなくてもいゝ、要するにこの句の要點は、谷の若葉を吊橋からみた場合を云つたものなので、ゆれる、ゆれぬといふ事には大なる關係はない。

原句　遠乘や若葉潛りて宮詣で　五角

訂句　遠乘のついで詣りぬ若葉道

若葉を潛つて門を出たとか、蜂の巢を見たとか、河の岸へ出たとかいふやうな場合はよいが、宮詣でなどたとはこちたい云ひ方である、殊に遠乘りなどの場合は、宮詣でなどが目的ではない、ついでとする方がよいやうだ、詣りぬ（まゐりぬ）と云つたゞけで、宮なり寺なりへ立寄つたことも明らかになるであらう。

原句　街路樹の若葉の影や敷居さは　里牛

訂句　窓に近く街路樹の若葉日搖れぜり

街路樹の影が敷居さはまで届くといふことは實際にあるか何うか覺束ない感じがする、「さは」は「まで」とすべきである、それにしても、そのまゝでは句として感じが深いと云へぬ、窓に近く街路樹の氣が日に搖れてゐる方が、もう少し感じがいゝと思ふ、如何。

原句　朝顏の若葉の土を洗ひとり　里牛

訂句　鉢物の若葉あはれむ埃哉

句でいふ若葉は多く樹木のそれである、普通でも若葉といへば樹木のそれをいふやうである、朝顏にしても葉の土を洗ひとつたと云へば、餘りに寫實にすぎ、洗ひとつたゞけのことでソコに美的餘韻ものこらず、鑑賞上想像の餘地がない、だから斯ういふ場合はヤハリ土は着いてゐるまゝに眺める方がよい、すると、洗つてやらうか、やるにも及ばぬが、若葉が弱るか、頁けすにぐん〳〵強くのびるかなどいふ想像の餘地がある。



○資本利子稅新設

大藏省の稅制整理調査幹事會は過般來直接國稅の體系を議題となし所得稅を中樞としてこれに配するに

一、財産稅
二、戶別財産稅
三、特別所得稅
四、收益稅

の中何れを以てその補完稅となすべきかにつき愼重調査を行ひつゝあつたが其後省內に於し幹事會を開き黑田主稅局長、勝東京稅務監督局長以下各關係委員出席前日に引續き審議するところあり、その大體方針に就ては次の如く內定したが幹事會としての具體的決定は更に數字上の調査を要するのでこれを留保し主稅局において參考資料を蒐集して具體的調査を行ふことゝなつた、即ち直接國稅の體系として一般所得稅の基本稅となしこれに配するに財産稅を以て補完稅とすることが稅源に遺漏を生ずることなく所得稅調査の脫漏を補足し尙累進率を適用し國民負擔均衡を圖り得るを以つて最も理想案ではあるがこれに就いては資産階級より財産稅は財産沒收稅なり（實際は財産の收益に對する課稅であるから決して財産沒收稅ではない）として强硬なる反對もあり實際現在の財政狀態では地租營業稅を地方へ移讓することは困難であるから財産稅創設は實行至難である尙ほ戶別財産稅を以つて補充稅とする案も財産稅に次ぐ理想案であつて相當の長所を有して居るもこれに就ては旣報の如く該稅自體に於て個々の財産に課稅するを以て累進率を適用することゝ能はず又相互課稅にあらざるを以て借金を差引いて公平なる課稅を行ふことが出來ぬといふが如き欠點もあり尙これを財産稅創設と共に地租營業稅から地方移讓を前提とするものであるこれ亦實行不可能である、次ぎには特別所得稅を以て所得稅の補完稅とすることは國民負擔の均衡を圖る點と社會政策の見地からと適當なる方法であるがこれも地租營業稅の移讓を前提として居りこれが欠點としては旣報の如く該稅設定の結果收益財産が享樂財産に向ふ傾向を生じ且脫稅を助長するの弊害あるを以て必ずしも理想案と稱することは出來ない更に所得稅を中樞となしこれに配するに地租と營業稅の收益稅を以て兩翼となす我國の現行制度に對しては決して理想的體系を備へるものなりと斷定することは出來ないがしかも一種の體系を備へて居ることは明かである現行制度の欠陷とする所は勤勞所得と資産所得とに對する課稅が不公平であるといふにある、若し家屋稅と資本利子とを新設すれば國民の負擔公平は十分に圖り得られるから必ずしも租稅の體系を根本的に立直す必要なく尙稅源としてその欠陷とする點に向つて改正を施すことがわが國財源政の現狀に鑑み最も適當なる方策であるといふことに意見が一致しこの方針の下に愈々具體的調査に取りかゝることゝなつた模樣である

○全國建築商の結合

過般來復興大東京建設促進の目的を以て全國建築資料商の合同が計畫されてゐたが今回我國一流の資料商と權威ある學者達が東京商工獎勵館に於て屢々協議の結果漸く決定し二十一日上野精養軒に於て盛大なる發會式を擧げたが會員は三井、三菱、淺野、久原、沖等の一流處から鐵材、木材、ガラス、ペンキ、瓦壁に至るまで全國に亘り二萬に達し會長には內田嘉吉氏があげられ將來の事業は資料調査研究はもとより相互の取引上にも不道德的の行爲を戒めあひ一

意專心我國建築界の一新時代を劃するに盡力しやうこいふ事になつた

○申込み殺到の月賦賣住宅

大阪市が政府から借入れの低資で建てる約九十二戸の月賦住宅に對してはまだ建築場所も決定せぬのに早くも各方面から氣の早い申込や照會が續々殺到し『われこそ手に入れやう』こ凄い景氣を呈してゐるが市ではまだ正式に申込を受付けてゐない、いよ〳〵申込を受付けてから多數の申込者こごうして販賣契約をするかについて當局は頻りに頭を惱ましてゐるが、從來の住宅組合についても市吏員中の比較的高給者が先廻りして便宜を得てうまいこごをしてゐるこの世間の非難もあるので、今度の月賦販賣住宅は申込順によらず、嚴正な抽籤による方針であるが、更に申込者の身許調査も行ふ必要がある、即ちこれらの住宅は敷地平均二十五坪、階上二間、階下三間の俸給生活者向きのもので數に限りあるこごだから、(一)妾を圍ふもの、(二)老人の樂隱居所にあてるもの、(三)店舖を張るもの、(四)投機の目的で數戸の申込をし權利取りのブローカー式のこごをやるなごは市から拒絶し、主こして俸給生活者を標準こする、尙ほ一戸について四、五百圓の保證金(一種の敷金)を前納させ、規定の十五箇年經ゝぬ間に賣逃げなごしたものには一切返却せぬやうな方法も考へてゐる

○市設の納骨堂

大阪市の周圍部に散在してゐた墓地は市域擴張で市の中央部に近くなりその面積も現在の天王寺、長柄及び外人墓地だけでも九萬五千八百平方メートル(約二萬九千坪)あり、人口の增加こ共に當然墓の數も增えて墓地は限りなく平面的に擴がつて行くものこ見なければならぬ、これでは都市の體裁上もよくないが、この大きな墓地を整理するこごはなか〳〵困難な事業なので市保健部では年々死亡する市民を抱擁し得る大納骨堂を建設し墓地整理を解決する計畫をたて村尾保健部庶務課長の手でその設計、豫算、設立場所、料金などについて立案中である、設立場所は現在の阿倍野葬儀所裏で鐵筋コンクリート三階造り建坪七百二十七平方メートル(三百二十坪)の大きいもので建設費二十萬圓一階の中央部に祭壇を設け、その他の部分に約四平方デシメートルの納骨壇上、中、下の三階級を區切つて約二萬箇を造るこれに一般市民から料金を取つて骨を納めさせる納骨者に一つの鍵を與へ若し鄕里の墓地に埋めるため、或は他へ移轉のために納骨を取出す要が出來た際には一應市の納骨堂保管者に斷つて鍵で開けて持つて行けるやうになつてゐる

○一千五百戸分の大アパート

內務省は失業救濟問題の對策こして經費十五萬圓二ヶ年間の繼續事業こして先づ失業調査を始むる事こなつたが、社會局に於ては既定の方針に依る勞働法の制定健康保險法の實施の外新たに失業保險法を制定する爲め其の基礎調査を近く開始する豫定である尙社會局內には從來の如き消極政策のみにては失業救濟の目的を達する事は不可能であるから、此際進んで英國等に於て實施せられて居るが如き救貧法の制定をなす可しこの議論もあり、又府市こ共同して大規模の繼續的土木事業を起し、以て實際的に失業自由勞働者の徹底的救濟を爲すが最も適宜の處置なりこの議論もあるが、未だ根本的救濟策に就ては決定を見るに至らない而して一方失業問題こ共に重大なる社會問題こなつて居る住宅難に就ては從來恩賜團同潤會等に於て種々の施設をなして來たが近時財界の不振は郊外諸般の大小工業に迄影響を來し失業者の續出こ勞銀の低下を來し主こして勞働者は市內に職を求むる必要に迫らるゝに至れる爲め從來交通不便の郊外にのみ建設せる多くの住宅は殆んご住む者なく空しく立ち腐れこなるが加き結果こなり、全然失敗に終つたので同潤會では本年度に於て主こして市內同樣の場所に鐵筋コンクリートの防火耐震構造のアパートメントハウス(一千五百戸分)木造普通住宅二千五百戸計四千戸を建設する豫定で計畫に着手するなご住宅難の解決にも大に努力する方針であるこ

×

×

×

主要建築材料値段

◎耐火リノリウム　市内施工
大阪耐火リノリーウム會社
チョコレート色　四分仕上坪　八、五〇〇（円）
褐　色同　同　八、五〇〇
赤　色同　同　九、〇〇〇
青　色同　同　一三、〇〇〇
マグネシアセメント市内倉庫渡し　九五、〇〇〇
ドロマイトプラスター　同　一號品　一タル四切半　八、〇〇〇
三號品　同　七、〇〇〇
ストロブロック（模造天然石）市工事　寒水石大理石類　尺坪　八五
花崗石類　同　一、二〇〇
防水劑ボースイ　一、五〇〇
三封度入　二、三五〇
五封度入　三、一〇〇
四〇封度入

◎リノリユーム　英國子ーアン製
奥村重兵衛商店
巾六呎　長九〇呎（十五坪巻）　X　一、九ミリ　一坪ニ付　七、八〇〇
E　二、二同　同　八、六五〇
B　三、〇同　同　一三、四〇〇

◎ウオールボード
英國ゼームス純製
一坪　四、二〇〇
寸法　巾三呎　長六呎　三呎巾　長九呎　巾四呎　長八呎

◎メタルラス（和製）
廿六番　巾二呎長六呎　一枚　〇、四八〇
廿四番　巾六呎長六呎　同　〇、五五〇
廿番　巾三呎六呎　同　三、〇〇〇
十八番　巾三呎長六呎　同　三、八〇〇
十三番　巾五呎長六呎　同　四、八一〇

◎壁紙
英國製　巾一尺七寸　長三十六尺（張上約一坪五合）　一巻　一、〇〇〇以上各種
米國製　巾一尺五寸　長十三尺（張上約二坪）　一巻　一、二〇〇以上各種
張手間　一坪　一圓四十錢以上

◎金屬天井
材料　蛇腹　逃板付　一坪　三、〇〇以上
同　逃板ナシ　同　二、〇〇同
張工賃　同　二、〇〇同

◎日の出印便利瓦
日本建築紙工　大阪出張所
半號　巾三尺二寸　附屬品及　長七十二尺　ペイント添　一四、五〇〇
一號　一巻　同　一七、五〇〇
二號　一巻　同　二一、五〇〇
三號　一巻　同　二五、五〇〇

◎鶴印便利瓦
半號　一巻　巾三尺二寸　附屬品及　長七十二尺　ペイント添　三、八〇〇
一號　同　同　五五、五〇〇
二號　同　同　八、五〇〇
三號　同　同　一二、五〇〇

◎日の出印砂付便利瓦
半號　一巻　巾三尺二寸　附屬品及　長七十二尺　ペイント添　一六、〇〇〇
一號　同　同　一九、〇〇〇
二號　同　同　二三、〇〇〇
三號　同　同　二七、〇〇〇

◎日の出印建築用紙　ピルヂングペーパー
一號　一巻　巾三尺二寸　長七十尺　三、〇〇〇
二號　同　同　四、二〇〇（四、三〇〇）
三號　同　同　五、三〇〇

◎日の出印パーマネントルーフ井ング
一號　巾三尺長三十六尺　三十六坪平方尺二七、〇〇〇ヲ以テ一巻トス

◎日の出印衛生疊下用紙
一號　一巻　巾三尺二寸　長七十二尺　三、七〇〇
二號　同　同　四、四〇〇

◎日の出印瀝靑（モスパーヒール）
一號　一枚　巾二尺八寸　長三尺二寸　一、二五〇
二號　一枚　同　一、三〇〇
三號　同　同　一、五五〇

◎日の出印アスファルトフエルト
一號　一巻　巾三尺二寸　長七十二尺　三、二〇〇
二號　同　同　四、二〇〇
三號　同　同　五、五〇〇

◎スレート
淺野スレート販賣株式會社
三號　同　同　三、五〇〇

◎淺野波形板
長六尺　巾二尺二寸　一枚　三、三〇〇
長七尺　巾二尺二寸　同　三、八〇〇
附屬亞鉛木捻釘一本　〇、三五
長六尺　巾三尺厚一分五ノ一枚　二、八〇〇
長六尺　巾三尺厚二分一枚　三、三〇〇
附屬銅鋲　一本ニ付　〇、〇六
同亞鉛寸釘　同　六毛
同　銅釘　同　一、〇三

◎石綿スレート
石綿スレート株式會社大阪支店
淺野スレート販賣株式會社
野澤幸三郎商店
灰白色　十六吋角　一枚　〇、一一〇
淡黒色　十二吋同同　〇、〇七毛
八吋同同　〇、〇五三
灰黒色　十六吋同同　〇、二〇〇
十二吋同同　〇、一五〇
八吋同同　〇、〇五八
菫色　十六吋同同　〇、二二五
十二吋同同　〇、一五三
八吋同同　〇、〇五九
赤色　十六吋同同　〇、二五〇
十二吋同同　〇、一六三
八吋同同　〇、〇六三
綠色　十六吋同同　〇、三〇〇
十二吋同同　〇、一九三
八吋同同　〇、〇七五

◎葺上標準値段
（一號アスファルトフエルト下葺）
（鋼鋲、亞鉛鍍鐵釘使用手間賃共）
◎菱形葺（網目葺）十六吋角使用
重子　灰白淡黒　黒　菫　赤　綠
二吋半　七、〇〇　七、五八　七、七三　八、一六　九、六二

◉同　上　十二吋角使用
二吋半　八、三五　八、九〇　九、五五　九、五七　一一、二四

◎一文字葺（十六吋角二ッ切使用）
色　合　葺足五寸五分葺足五寸
灰白、淡黒色　一〇、三〇　一一、七〇
灰　黒　色　一一、五八　一二、八〇
萱　色　一二、八三　一三、〇八
赤　色　一三、五七　一三、九〇
綠　色　一四、九五　一六、〇五

◎石綿盤葺上標準値段
（一面坪單價）
野澤幸三郎商店
網目葺（菱形）ノエルト一號品數込材料間儀共

寸法　色　合　十六吋角重二吋半　十二吋角重二吋　八吋角重二吋半
灰白色　七、三〇　七、八〇　八、八〇　九、五五　九、八〇
淡黒色　七、七〇　八、四〇　九、三〇　一〇、三〇　一〇、五〇
黒　色　八、一〇　八、五〇　九、二〇　一〇、五〇　一〇、七〇
萱　色　八、五〇　九、〇〇　一〇、一〇　一一、一〇　一一、三〇
赤　色　九、〇〇　九、五〇　一〇、二〇　一一、三〇　一一、五〇
綠　色　一〇、〇〇　一〇、五〇　一一、〇〇　一一、三〇　一一、五〇

◎ロッコー瓦葺上標準値段
（阪神間ニテ）
平瓦各號共一尺一寸角葺足九寸
一坪約四十三枚葺、軒先及蝶羽棟伏等道具瓦完備

色　合　灰白色、黒色、萱色、赤色共フエルト數込
一面坪ニツキ
棟　甲丸二段半圓形伏　一間　三、七〇
同　同　箱歷振伏　同　五、八〇
駄　斗一段積　同　七、五〇
綠色ハ三割高

◎亞鉛引平鐵板
月星印　〇（米一）　一、四四
タヒ　印　三〇（米一）　品切
犬　印　二〇（米一）　一、三二
三星印　三〇（米一）　一、三三
太陽印　三〇（米一）　品切
エビ印　二〇（米二）　一、三三
船　印　三〇（米二）　一、九五
月星錨印　三〇（米二）　一、八〇
山星印　二〇（米二）　一、三〇
五寸切レ　（米板）　〇、九四
蝶　印　一〇（英一）　品切
ラクダ印　三〇（英一）　一、九五
地球印　二〇（英一）　一、九五
赤丸一印　二〇（英一）　品切
桃　印　二〇（英二）　一、七
首　印　三〇（英二）　一、九四

#38　一級品　一、九二
#26　一級品　一、九二
#24　一級品　二、三〇
#22　一級品　百斤ニ付　一九、〇〇

◎同浪板
同　店
#20　六尺　〇、九八
#30　六尺　一、一六
#30　七尺　一、三九
#30　八尺　一、六二

◎銅瓦板
吉田定七商店
定尺巾一尺長一尺二寸（一枚目付）
和百斤ニ付）
一二〇代　建　壱、〇〇
八代增値　一二〇匁　八〇匁値

七代　七〇匁　壱、〇〇
六代　六〇匁　四、〇〇　七、〇〇
五代　五〇匁　八、一〇　八、一〇〇
四代　四〇匁　六、〇〇　九、七〇〇
三代　三〇匁　三、〇〇　一〇、五〇〇
二代　二〇匁　六四、〇〇　一三、七〇〇

◎銅瓦板　巾一尺　長一尺二寸
井筒政藏商店（大阪）
名稱　一枚目付　薄增値　單價和百斤ニ付　各壹錢上り
#28　六尺　一、三二
#28　七尺　一、六〇
#26　八尺　一、七〇
#24　各尺百斤ニ付　一七、〇〇
#26　一六、三〇

自拾二代　一二〇匁　建値　壱、〇〇
至八代　八〇匁

◎パイプ
金剛商會大阪支店
長　價格
内經　厚　四分ノ一吋　六呎　一、五〇〇
二吋　同　同　一、七〇〇
二吋半　同　同　二、〇〇〇
三吋　同　十六分ノ五吋　同　二、五〇〇
三吋半　同　同　三、五〇〇
四吋　同　八分ノ三吋　同　四、五〇〇
四吋半　同　同　五、〇〇〇
五吋　同　同　七、〇〇〇
六吋　同　二分ノ一吋　同

◎金剛板　巾三尺　長六尺　一枚ニ付
厚サ　重量　圓
二分　五貫二五　三、六〇〇
三分　七貫五〇〇　五、三〇〇
四分　一〇貫五〇〇　七、五〇〇
五分　一二貫七五　九、七五〇
六分　一五貫〇〇　二、二五〇

◎塗料
大東塗料株式會社
大阪營業所
品名　客量　定價
グラフアイト　五〇ポンド入　二四、〇〇〇
ペイント各色

七クロン　五〇ポンド入　七、〇〇〇
乙種黒色　同　六、〇〇〇
特製黒色　同　一三、〇〇〇
ネヅミ色　同　一三、〇〇〇
銅及赤色　同　一五、〇〇〇
木管用黒色　同

不二水性ペイント　五〇ポンド入　二、〇〇〇
各色共

大阪及東京渡値段
田中源太郎商店
性質　品名　種類　容器　單價
水性、壁、塗料　アラバスチン　白　五封度入　三、三〇
同　同　各色　三、八〇
同　同　同（樽入）　白　三、五〇
同　同　同（樽入）　白　格安
一〇〇封度入
三五〇封度入
ミ　止　アラバスチン　格安
シ　コーター
小瓶入　一、二
パテ材料　アラバスチン　パテ
小袋入　一、六
型　紙　アラバスチン　ステンシル　四ヨリ　一、五〇　迄

性質　品名　種類　容器　單價
艶消ペンキ　赤三角又ハ紅葉印　各色　一ガロン入　一五、〇〇
サテン艶消ペンキ　同　同　八分ノ一ガロン入　二、四〇
ジンクペンダー　外部用　白
代用ホワイト

同　一ガロン入　紅葉印コーパルバニシ　一ガロン入　六、五〇
同　ワンダーホワイト　艶消白　一ガロン入　一〇、八〇
同　同　二分ノ一ガロン入　五、七五
エナメル代用　ワンダーホワエナメル白　一ガロン入　一一、二〇
同　同　二分ノ一ガロン入　五、八五
自動車塗料　オートフィニシュ　各色　八分ノ一ガロン入　三、三〇
コンクリート塗料　コンクレライト　各色　五ガロン入　四九、八〇

性質	品名	種類	単価
汽車屋根塗料	フルーカスルーフセメント	黒色	四、七五
		容器 一ガロン入	

シエツドウオーターブロダクト　会社製品

性質	品名	種類	単価
リノリユーム防水塗料	ホワイトリノリユームバニシュ	容器 四分ノ一ガロン入	三、八五

日本ペイント製造株式会社

白亜ペイント	A印	一二瓩半	九円、九〇
白鉛ペイント	同	同	一〇、一五〇
錆色ペイント	同	同	四、一〇〇
赤色ペイント	同	同	三、二〇〇
塗料ボイルド油	同	一六瓩	一五、三〇〇

光明丹　同　一二瓩半　七、六〇〇
繪具粉末水性ペイント（メロニア）一磅　二五〇
スパーロニス　六、〇五〇
コンクリートペイント　五瓩　三、八五〇
暖房塗料　一立　三、五〇〇
パテ　白荒印七〇磅罐　四、九五〇

◎防水劑

日本セメント防水劑製造所

ウオータイト	一〇ポンド入	五、三五〇
同	七〇ポンド入	三五、〇〇〇
クヰツクウオタイト	一〇ポンド入	六、〇〇〇
同	六〇ポンド入	三〇、〇〇〇

油脂化工社

マノール	一〇ポンド入	五、一〇〇
同	四〇ポンド入	二〇、〇〇〇
急結マノール	一〇ポンド入	三、六〇〇
同	五〇ポンド入	一七、五〇〇
エキストラ	一ガロン入	四、一〇〇
エキストラ	四ガロン入	一六、〇〇〇

◎木材其他

田村商會（神戸）

◎金屬天井	平板 一坪ニ付	九、〇〇以上
	蛇腹 長サ六尺物	一、〇〇以上
	鈕飾 同	六〇以上
	中眞飾 同	三、五〇〇以上
◎建築用壁紙	パブコボード 一尺平方	一、五〇
	アイボリボード 同	一五〇
◎メタルサイデング	平 一坪ニ付	八、五〇〇
◎メタルラス（引伸金網）	飯石 角 一坪ニ付	二、八五〇
	船來品#26 一坪	三、二〇〇
	船來品#24 一坪	一、八〇〇
	和製品#26 同	一、五〇〇
	同 #24 同	一、二〇〇

◎米松角材（木場渡し）

大角材	一八吋角上 長	二四呎以上
		一、〇〇以上
中角材	一二吋角上 長	二四呎以上
		九五〇以上
小角材	四吋角 取合	一〇呎 八五〇
	四吋四分ノ一角 長	一三呎 九〇〇
	四吋四分ノ三角	二〇呎 九五〇
同	四吋角 取合	一〇呎 八五〇以上
	四吋四分ノ一角 長	一三呎 九〇〇以上
	四吋四分ノ三角	二〇呎 九五〇以上
平材 No.8	厚六吋巾一二吋上長二〇呎	一四五〇

◎米　角材

大角材	一〇吋角上 長	二四呎上
小角材	四吋角 取合	一〇呎 八五〇以上
	四吋四分ノ一角 長	一三呎 九〇〇以上
	四吋四分ノ三角	二〇呎 九五〇以上

◎米　杉（尺〆一本ニ付）

丸太　一等級　末口一八吋上長一三呎　一五、五〇〇
丸太ノ二クリヤ級末口二四吋上　長一三呎　二七、〇〇〇以上
同　末口一八吋上　長一三呎上　一、〇〇〇以上
米松床板（神戸同店渡し一延呎ニ付）　〇四五以上
巾六吋マーチヤンタブル級　〇五八以上
巾六吋板目無節　〇六八以上
巾六吋柾目無節　〇七八以上
上巾四吋板目無節　〇四五以上
巾四吋柾目無節　〇五〇以上
同　二等級　同　三、〇〇〇
同　三等級　同　七、五〇〇

◎檜、榧、赤樫、白樫、櫻、栓、

（建築家具用）

新田ベニヤ製造所

三枚合、片面、巾二尺以上ハ厚サ一分五ノ（十六分三）巾二尺一寸以上ハ厚サ二分（四分一）何れも一平方尺ニ付キ

巾	長	青二ッ星	青一ッ星
円 一、三五	尺 六、四寸	一、三〇	一、三〇
一、三五	同	一、三〇	一、三〇
一、三五	六、〇〇	一、三〇	一、三〇
一、三五	六、四	一、三〇	一、三〇
一、三五	七、〇〇	一、三〇	一、三〇
一、三五	八、〇〇	一、三〇	一、三〇
一、三五	九、〇〇	一、三〇	一、三〇
一、三五	一〇、〇〇	一、三〇	一、三〇
一、三五	一一、〇〇	一、三〇	一、三〇
一、三五	一二、〇〇	一、三〇	一、三〇

三枚合　片面　代價（一平方尺）

二尺	長 六尺	表三枚又四枚矧混合	一、三〇
		同	一、三〇

◎天　井用（一坪ニ付）

巾	長	青二ッ星	青一ッ星
尺 一、二五	尺 六、四	円 九、七〇	円 七、七〇
一、三五	同	一〇、四〇	一三、三〇
一、六五	同	一二、一〇	一四、三〇
以上一分五——厚	六尺四寸	一三、一〇	一五、七〇
三、一〇	同	一四、八〇	一九、六〇

◎二　等品（家具用）

厚一分五ノ（十六分ノ三）又ハ二分（四分ノ一）

三枚合	片面	代價（一平方尺）	
巾	長	青二ッ星	青一ッ星
二尺	六尺	表三枚又四枚矧混合	一、三〇
		同	一、三〇

◎日本間用杉天井板

杉柾、杉杢　一坪　一〇、〇〇〇以上
神代杉　同　二〇、〇〇〇以上
屋久杉　同　三五、〇〇〇以上
以上二分厚

◎格天井用（厚一分五厘）

檜　櫛　樺　櫻しな　栓　黄檗

寸法　樹種　代價

二尺角　青二ッ星　一〇、四〇〇
同　青一ッ星　三、六〇〇
楓　二尺角　青二ッ星　三、三一〇
同　同　青一ッ星　六、九二〇

◎同　厚二分

檜　櫛　樺　櫻　しな　栓　黄檗

二尺五寸角　青二ッ星　青一ッ星　一六、八四〇　一四、二六〇
楓　二尺五寸角　一四、二六〇　八、七八〇
檜　櫛　樺　櫻　しな　栃　黄檗
三尺角　青二ッ星　青一ッ星　一五、四八〇　九、四四〇

栓　三尺角　しな　栓　黄檗　一五、一一〇　九、一一〇
檜　櫛　櫻　しな　栓　黄檗
三尺五寸角　青二ッ星　青一ッ星　一五、三一〇　九、七二〇
楓　三尺五寸角　一九、〇〇〇　一四、七二〇

◎腰羽目用（一分五厘一枚ニ付）

厚　檜　縮　樺　櫻　なし　黄檗
巾　長　青二ッ星　青一ッ星
一尺三寸五分　三尺二寸　一、〇四〇　一、三三〇
楓　一尺三寸五分　三尺二寸　一、二六〇　一、七一〇
檜　櫛　樺　櫻　栓　黄檗
一尺六寸　五分　三尺二寸　一、三九〇　一、八〇〇
楓　一尺六寸五分　三尺二寸七、二〇　二、一三〇
檜　櫛　樺　栓　しな　黄檗
二尺　三尺　一、七四〇　二、二一〇
楓　三尺　二尺　二、一三〇　二、八二〇

◎同　二分厚

檜　櫛　樺　櫻　栓　しな　黄檗
二尺五寸　三尺　二、一三〇　三、〇〇〇
楓　二尺五寸　三尺　二、八五〇　三、七五〇

◎障子腰板用（一分五厘厚）

三枚合　兩面　一枚ニ付
巾　長　青二ッ星　青一ッ星
一尺五　二尺五　七三　九四〇
一尺二五　二尺三　九〇〇　一、一八〇
一尺〇五　三尺一　八七〇　一、一三〇
一尺二五　三尺一　一、三一〇　一、五二〇

◎床地板用（五分厚五枚合片面）

檜　櫛　樺　櫻

巾　長　青二ッ星　青一ッ星
二尺　六尺四寸　八、九〇〇　九、七〇〇
同　樹種
二尺五寸　六尺四寸　九、九〇〇　一三、八〇〇
三尺二寸　六尺四寸　一二、一〇〇　一五、五〇〇

◎舞良戸及帶戸用（二分厚）

三枚合　片面及兩面

檜　櫛　樺　櫻　しな　栓　黄檗
巾　長　青二ッ星　青一ッ星
二尺三　六尺　片　三、九〇〇　五、一〇〇
兩　五、三五〇　七、〇二〇
楓　二尺三　六尺　片　四、九九〇　六、五六〇
兩　六、七四〇　八、七八〇
檜　櫛　樺　櫻　しな　栓　黄檗
巾　長　青二ッ星　青一ッ星
三尺五分　六尺　片　五、九四〇　七、七四〇
兩　八、〇三〇　一〇、四五〇
楓　片　七、三六〇　九、七二〇
三尺五分　六尺　兩　一〇、二一〇　一三、一三〇

◎楓　一分五厘厚三枚合　一平方尺ニ付

巾　長　青二ッ星　青一ッ星
二尺　四尺　円　三五〇　四七〇

二尺　五尺　三七〇　四七〇
二尺　六尺　三七〇　四七〇
同品　二分厚三枚合片面
巾　長　青二ッ星　青一ッ星
二尺五　五尺　三八〇　五〇〇
二尺五　六尺　三八〇　五〇〇
三尺　七尺　四二〇　五六〇
三尺五　八尺　四七〇　六三〇
四尺　八尺　五二〇　七〇〇

◎杢物楓栓（一分五厘厚）

三枚合片面（一平方尺）

寸法　赤四星　赤三星　赤二星　赤一星
一尺五角　円　七四〇　一、〇〇〇　一、三五〇
二尺角　九三〇　一、二五〇　一、六五〇
同品　二分厚　三枚合片面
二尺五角　一、一五〇　一、五五〇　一、七三〇
三尺角　一、三九〇　一、八八〇　二、〇九〇
三尺五角　一、六三〇　二、一九〇　二、四五〇
四尺角　一、八七〇　二、五二〇　二、八〇〇

◎杢物、楓、（一分五厘厚）

巾　長　赤四星　赤三星　赤二星　赤一星
二尺　四尺　一、〇八〇　一、四六〇　一、六五〇　一、八四〇
二尺　五尺　一、三五〇　一、八三〇　二、〇六〇　二、三〇〇
二尺　六尺　一、六二〇　二、一九〇　二、四七〇　二、七六〇
同品　二分厚
二尺五　五尺　一、三五〇　一、八三〇　二、〇六〇　二、三〇〇
二尺五　六尺　一、六二〇　二、一九〇　二、四七〇　二、七六〇
三尺　六尺　一、九〇〇　二、五七〇　二、八九〇　三、二二〇
三尺五　七尺　二、二〇〇　二、九八〇　三、三七〇　三、七四〇
四尺　八尺　二、五二〇　三、四一〇　三、八五〇　四、二八〇

◎檜　柾　目（一分五厘又ハ二分）

三枚合　片面　一平方尺ニ付

巾　長
二尺　六尺　一、二六〇　一、三〇〇　一、三九〇

二尺五　三尺　同　一、二九〇　一、三六〇　一、四七〇
同　一、三三〇　一、四〇〇　一、五八〇

◎丸　鐵

山本東作商店

長サ　徑

二　分　五、二〇　六、〇〇　五、七〇　六、〇〇
十二尺　十五尺　十八尺　二十尺
二分五厘　五、二五　五、七〇
十二尺　十八尺
三　分　五、四五　五、九〇　四、九〇　五、四五
十二尺　十五尺　十六尺　二十尺
三分五厘　四、五〇　四、八〇　四、七〇　四、八〇
十二尺　十五尺　十六尺　二十尺
四　分　四、三五　四、五〇　四、五〇　四、五〇
十二尺　十五尺　十六尺　十八尺
五　分　四、二五　四、三五　四、三五　四、五〇
十二尺　十五尺　十六尺　二十尺
六　分　〃　〃　〃　〃
十二尺　十五尺　十六尺　十八尺
七　分　〃　〃　〃　〃
十二尺　二十尺以上五十尺位迄

十五尺	四、〇〇	八分	十五尺
十六尺	四、〇〇		十六尺
十八尺	四、〇〇		十八尺
二十尺以上五十尺位迄	四、〇〇		二十尺以上五十尺位迄
十二尺	四、〇〇	九分	十二尺
十五尺	〃		十五尺
十六尺	〃		十六尺
十八尺	〃		十八尺
二十尺以上五十尺位迄	〃		二十尺以上五十尺位迄
十二尺	〃	一寸	十二尺
十五尺	〃		十五尺
十六尺	〃		十六尺
十八尺	〃		十八尺
二十尺以上五十尺位迄	〃		二十尺以上五十尺位迄

◎Lアングル

一分厚	二十尺位	八分	一寸
八分	同	一寸	同
一寸二分	同	一寸二分	同
一分五厘厚	二十尺位	一寸	同

一寸二分	同	四、七〇	三、七	同	18	五五、〇	五、五〇
一寸四分	同	四、九〇	四、〇	6″/4	20	六五、〇	五、四〇
一寸六分	三十尺位	四、六〇	四、五	7	18	七五、〇	五、三〇
一寸六分	同	四、五〇	四、〇	同	24	七九、九	五、三〇
一寸六分	同	四、五〇	五、〇	7″/2	20	八九、〇	五、〇〇
三寸	同	〃	同	同	24	一〇〇、〇	五、三〇

◎Iチヨイスト

厚サ	巾	高	目付ポンド				
分厘	吋	吋					
一寸六分	同	三十尺位	四、四五	4	7	一、七	四、〇〇
二寸	同	同	四、四五	5	8	一、九	四、〇〇
三寸	同	同	四、四五	6	9	二、一	四、〇〇
参分厚	二寸	三十尺位	四、四五	4″/2	7	一、六	四、〇〇
二寸	三吋	同	四、四五	5	8	一、八	四、〇〇
三寸	三吋半	同	〃	6	9	二、一	四、〇〇
四寸	四吋	同	四、四五	8	12	二、五	四、〇〇

◎コチヤンネル

厚サ	巾	高	目付ポンド				
分厘	吋	吋					
一寸六分	同	三十尺位	四、四五	3	5	一、一	四、〇〇
二寸	同	同	四、四五	3″/2	6	一、三	四、〇〇
三寸	同	同	四、四五	4	6	一、四	四、〇〇
参分厚	二寸	三十尺位	四、四五	4″/2	7	一、六	四、〇〇
二寸	三吋	同	四、四五	5	8	一、八	四、〇〇
三寸	三吋半	同	四、四五	6	9	二、一	四、〇〇
四寸	四吋	同	四、四五	8	12	二、五	四、〇〇

◎丁形

二分	二吋	二十尺位	四、四五	3	6	一、四	四、〇〇
二分	二吋半	同	四、四五	3	6	一、四	四、〇〇
同	三吋	同	四、四五	3	6	一、四	四、〇〇
三分	三吋	同	四、四五	6	9	二、一	四、〇〇
同	四吋	同	四、四五	6	9	二、一	四、〇〇
同	四吋半	同	四、四五	6	9	二、一	四、〇〇
同	五吋	同	四、四五	6	9	二、一	四、〇〇
同	五吋半	同	四、四五	6	9	二、一	四、〇〇
同	六吋	同	四、四五	6	9	二、一	四、〇〇
同	六吋半	同	四、四五	6	9	二、一	四、〇〇
同	七吋	同	四、四五	6	9	二、一	四、〇〇
同	七吋半	同	四、四五	6	9	二、一	四、〇〇
同	八吋	同	四、四五	6	9	二、一	四、〇〇

◎合掌用切鐵板

厚サ一分	二分	二吋	五、〇〇
同	同	二吋半	五、〇〇
同	同	三吋	五、〇〇
同	三分	三吋	五、〇〇
同	同	四吋	五、〇〇

同	二分	二寸二分	四、〇〇
同	三分	二寸四分	四、〇〇
同	四分	三寸	四、〇〇

◎丸鐵

径	長サ十八尺位	一寸二分	四、二〇
同	同	一寸四分	四、二五
同	同	一寸六分	四、二五
同	同	一寸八分	四、二五
同	同	二寸	四、二〇
同	同	二寸二分	四、三〇
同	同	二寸四分	四、五〇
同	同	二寸六分	四、八〇
同	同	二寸八分	五、一〇
同	同	三寸	五、三〇
同	同	三寸二分	五、三〇
同	同	三寸四分	五、五〇
同	同	三寸六分	五、七〇
同	同	三寸八分	五、九〇
同	同	四寸	六、〇〇
同	同	四寸二分	六、二〇
同	同	四寸四分	六、四〇
同	同	四寸六分	六、六〇
同	同	四寸八分	六、八〇
同	同	五寸	七、〇〇
同	同	五寸二分	七、二〇
同	同	五寸四分	七、四〇
同	同	五寸六分	七、六〇
同	同	五寸八分	七、八〇
同	同	六寸	八、〇〇

◎角鐵

一分五厘	十二尺位	三分	五、三五
二分	同	四分	五、四五
二分五厘	同	五分	五、七五
三分	同	六分	六、一〇
四分	同	七分	六、四〇
五分	同	八分	六、七〇
六分	同	九分	七、〇〇
七分	同	一寸	七、三〇
八分	同	同	七、六〇
九分	同	同	七、九〇
一寸	同	同	八、二〇
同	十五尺以上十八尺位	同	四、二〇
同	同	同	四、二五
同	同	同	四、三〇
同	同	同	四、三五
同	同	同	四、四五
同	同	同	四、六五
同	同	同	四、七五
同	同	同	五、一〇
同	同	同	五、三五
同	同	同	五、五〇
同	同	同	五、七五
同	同	同	六、〇〇

一寸二分	同	一一五	
一寸一四分	同	一一五	
一寸六分	同	一一五	
二寸	同	一一五	
三吋	同	一一五	
三吋半	同	一一五	
四吋	同	一一五	
四吋半	同	一一五	
五吋	同	一一五	
◎平鐵			
一分厚	十二尺位	五七〇	
三分	同	五〇〇	
四分	同	四九五	
五分	同	四九〇	
六分	同	四八五	
七分	同	四八〇	
八分	同	四七五	
一寸	同	四七〇	
一寸二分	同	四六五	
一寸四分	十五尺以上十八尺位	四六〇	
一寸六分	同	四五五	
一寸八分	同	四五〇	
二寸	同	四五〇	
二分厚	十二尺位	四九〇	
三吋	同	四九〇	
四吋	同	四九〇	
五吋	同	四九〇	
三吋	同	四九〇	
三吋半	同	四九〇	
四吋	同	四九〇	
四吋半	同	四九〇	
五吋	同	四九〇	
一寸二分	十五尺以上十八尺位	四八〇	
一寸四分	同	四八〇	
一寸六分	同	四八〇	
一寸八分	同	四八〇	
二寸	同	四八〇	
二分厚	十二尺位	四八〇	
三吋	同	四八〇	
四吋	同	四八〇	
五吋	同	四八〇	
三吋	同	四八〇	
三吋半	同	四八〇	
四吋	同	四八〇	
四吋半	同	四八〇	
五吋	同	四八〇	
一寸二分	十五尺以上十八尺位	四七〇	
一寸四分	同	四七〇	
一寸六分	同	四七〇	
一寸八分	同	四七〇	
二寸	同	四七〇	
二分厚	十二尺位	四七〇	
三吋	同	四七〇	
四吋	同	四七〇	
五吋	同	四七〇	
三吋	同	四七〇	
三吋半	同	四七〇	
四吋	同	四七〇	
四吋半	同	四七〇	
五吋	同	四七〇	
一寸二分	十五尺以上十八尺位	四六〇	
一寸四分	同	四六〇	
一寸六分	同	四六〇	
一寸八分	同	四六〇	
二寸	同	四六〇	
二分厚	十二尺位	四六〇	
三吋	同	四六〇	
四吋	同	四六〇	
五吋	同	四六〇	
三吋	同	四六〇	
三吋半	同	四六〇	
四吋	同	四六〇	
四吋半	同	四六〇	
五吋	同	四六〇	
一寸二分	十五尺以上十八尺位	四五〇	
一寸四分	同	四五〇	
一寸六分	同	四五〇	
一寸八分	同	四五〇	
二寸	同	四五〇	
二分厚	十二尺位	四五〇	
三吋	同	四五〇	
四吋	同	四五〇	
五吋	同	四五〇	
三吋	同	四五〇	
三吋半	同	四五〇	
四吋	同	四五〇	
四吋半	同	四五〇	
五吋	同	四五〇	
一寸二分	十五尺以上十八尺位	四四〇	
一寸四分	同	四四〇	
一寸六分	同	四四〇	
一寸八分	同	四四〇	
二寸	同	四四〇	
二分厚	十二尺位	四四〇	
三吋	同	四四〇	
四吋	同	四四〇	
五吋	同	四四〇	
三吋	同	四四〇	
三吋半	同	四四〇	
四吋	同	四四〇	
四吋半	同	四四〇	
五吋	同	四四〇	
一寸二分	十五尺以上十八尺位	四三〇	
一寸四分	同	四三〇	
一寸六分	同	四三〇	
一寸八分	同	四三〇	
二寸	同	四三〇	
二分厚	十二尺位	四三〇	
三吋	同	四三〇	
四吋	同	四三〇	
五吋	同	四三〇	
三吋	同	四三〇	
三吋半	同	四三〇	
四吋	同	四三〇	
四吋半	同	四三〇	
五吋	同	四三〇	
一寸二分	十五尺以上十八尺位	四二〇	
一寸四分	同	四二〇	
一寸六分	同	四二〇	
一寸八分	同	四二〇	
二寸	同	四二〇	
二分厚	十二尺位	四二〇	
三吋	同	四二〇	
四吋	同	四二〇	
五吋	同	四二〇	
三吋	同	四二〇	
三吋半	同	四二〇	
四吋	同	四二〇	
四吋半	同	四二〇	
五吋	同	四二〇	
一寸二分	十五尺以上十八尺位	四一〇	
一寸四分	同	四一〇	
一寸六分	同	四一〇	
一寸八分	同	四一〇	
二寸	同	四一〇	
二分厚	十二尺位	四一〇	
三吋	同	四一〇	
四吋	同	四一〇	
五吋	同	四一〇	
三吋	同	四一〇	
三吋半	同	四一〇	
四吋	同	四一〇	
四吋半	同	四一〇	
五吋	同	四一〇	
一寸二分	十五尺以上十八尺位	四〇〇	
一寸四分	同	四〇〇	
一寸六分	同	四〇〇	
一寸八分	同	四〇〇	
二寸	同	四〇〇	
二分厚	十二尺位	四〇〇	
三吋	同	四〇〇	
四吋	同	四〇〇	
五吋	同	四〇〇	
三吋	同	四〇〇	
三吋半	同	四〇〇	
四吋	同	四〇〇	
四吋半	同	四〇〇	
五吋	同	四〇〇	
一寸二分	十五尺以上十八尺位	三九〇	
一寸四分	同	三九〇	
一寸六分	同	三九〇	
一寸八分	同	三九〇	
二寸	同	三九〇	
二分厚	十二尺位	三九〇	
三吋	同	三九〇	
四吋	同	三九〇	
五吋	同	三九〇	
三吋	同	三九〇	
三吋半	同	三九〇	
四吋	同	三九〇	
四吋半	同	三九〇	
五吋	同	三九〇	
一寸二分	十五尺以上十八尺位	三八〇	
一寸四分	同	三八〇	
一寸六分	同	三八〇	
一寸八分	同	三八〇	
二寸	同	三八〇	
二分厚	十二尺位	三八〇	
三吋	同	三八〇	
四吋	同	三八〇	
五吋	同	三八〇	
三吋	同	三八〇	
三吋半	同	三八〇	
四吋	同	三八〇	
四吋半	同	三八〇	
五吋	同	三八〇	
一寸二分	十五尺以上十八尺位	三七〇	
一寸四分	同	三七〇	
一寸六分	同	三七〇	
一寸八分	同	三七〇	
二寸	同	三七〇	
二分厚	十二尺位	三七〇	
三吋	同	三七〇	
四吋	同	三七〇	
五吋	同	三七〇	
三吋	同	三七〇	
三吋半	同	三七〇	
四吋	同	三七〇	
四吋半	同	三七〇	
五吋	同	三七〇	
一寸二分	十五尺以上十八尺位	三六〇	
一寸四分	同	三六〇	
一寸六分	同	三六〇	
一寸八分	同	三六〇	
二寸	同	三六〇	
二分厚	十二尺位	三六〇	
三吋	同	三六〇	
四吋	同	三六〇	
五吋	同	三六〇	
三吋	同	三六〇	
三吋半	同	三六〇	
四吋	同	三六〇	
四吋半	同	三六〇	
五吋	同	三六〇	
一寸二分	十五尺以上十八尺位	三五〇	
一寸四分	同	三五〇	
一寸六分	同	三五〇	
一寸八分	同	三五〇	
二寸	同	三五〇	
二分厚	十二尺位	三五〇	
三吋	同	三五〇	
四吋	同	三五〇	
五吋	同	三五〇	
三吋	同	三五〇	
三吋半	同	三五〇	
四吋	同	三五〇	
四吋半	同	三五〇	
五吋	同	三五〇	
一寸二分	十五尺以上十八尺位	三四〇	
一寸四分	同	三四〇	
一寸六分	同	三四〇	
一寸八分	同	三四〇	
二寸	同	三四〇	
二分厚	十二尺位	三四〇	
三吋	同	三四〇	
四吋	同	三四〇	
五吋	同	三四〇	
三吋	同	三四〇	
三吋半	同	三四〇	
四吋	同	三四〇	
四吋半	同	三四〇	
五吋	同	三四〇	
一寸二分	十五尺以上十八尺位	三三〇	
一寸四分	同	三三〇	
一寸六分	同	三三〇	
一寸八分	同	三三〇	
二寸	同	三三〇	
二分厚	十二尺位	三三〇	
三吋	同	三三〇	
四吋	同	三三〇	
五吋	同	三三〇	
三吋	同	三三〇	
三吋半	同	三三〇	
四吋	同	三三〇	
四吋半	同	三三〇	
五吋	同	三三〇	
一寸二分	十五尺以上十八尺位	三二〇	
一寸四分	同	三二〇	
一寸六分	同	三二〇	
一寸八分	同	三二〇	
二寸	同	三二〇	
二分厚	十二尺位	三二〇	
三吋	同	三二〇	
四吋	同	三二〇	
五吋	同	三二〇	
三吋	同	三二〇	
三吋半	同	三二〇	
四吋	同	三二〇	
四吋半	同	三二〇	
五吋	同	三二〇	
一寸二分	十五尺以上十八尺位	三一〇	
一寸四分	同	三一〇	
一寸六分	同	三一〇	
一寸八分	同	三一〇	
二寸	同	三一〇	
二分厚	十二尺位	三一〇	
三吋	同	三一〇	
四吋	同	三一〇	
五吋	同	三一〇	
三吋	同	三一〇	
三吋半	同	三一〇	
四吋	同	三一〇	
四吋半	同	三一〇	
五吋	同	三一〇	
一寸二分	十五尺以上十八尺位	三〇〇	
一寸四分	同	三〇〇	
一寸六分	同	三〇〇	
一寸八分	同	三〇〇	
二寸	同	三〇〇	
二分厚	十二尺位	三〇〇	
三吋	同	三〇〇	
四吋	同	三〇〇	
五吋	同	三〇〇	
三吋	同	三〇〇	
三吋半	同	三〇〇	
四吋	同	三〇〇	
四吋半	同	三〇〇	
五吋	同	三〇〇	
一寸二分	十五尺以上十八尺位	二九〇	
一寸四分	同	二九〇	
一寸六分	同	二九〇	
一寸八分	同	二九〇	
二寸	同	二九〇	
二分厚	十二尺位	二九〇	
三吋	同	二九〇	
四吋	同	二九〇	
五吋	同	二九〇	
三吋	同	二九〇	
三吋半	同	二九〇	
四吋	同	二九〇	
四吋半	同	二九〇	
五吋	同	二九〇	
一寸二分	十五尺以上十八尺位	二八〇	
一寸四分	同	二八〇	
一寸六分	同	二八〇	
一寸八分	同	二八〇	
二寸	同	二八〇	
二分厚	十二尺位	二八〇	
三吋	同	二八〇	
四吋	同	二八〇	
五吋	同	二八〇	
三吋	同	二八〇	
三吋半	同	二八〇	
四吋	同	二八〇	
四吋半	同	二八〇	
五吋	同	二八〇	
一寸二分	十五尺以上十八尺位	二七〇	
一寸四分	同	二七〇	
一寸六分	同	二七〇	
一寸八分	同	二七〇	
二寸	同	二七〇	
二分厚	十二尺位	二七〇	
三吋	同	二七〇	
四吋	同	二七〇	
五吋	同	二七〇	
三吋	同	二七〇	
三吋半	同	二七〇	
四吋	同	二七〇	
四吋半	同	二七〇	
五吋	同	二七〇	
一寸二分	十五尺以上十八尺位	二六〇	
一寸四分	同	二六〇	
一寸六分	同	二六〇	
一寸八分	同	二六〇	
二寸	同	二六〇	
二分厚	十二尺位	二六〇	
三吋	同	二六〇	
四吋	同	二六〇	
五吋	同	二六〇	
三吋	同	二六〇	
三吋半	同	二六〇	
四吋	同	二六〇	
四吋半	同	二六〇	
五吋	同	二六〇	
一寸二分	十五尺以上十八尺位	二五〇	
一寸四分	同	二五〇	
一寸六分	同	二五〇	
一寸八分	同	二五〇	
二寸	同	二五〇	
二分厚	十二尺位	二五〇	
三吋	同	二五〇	
四吋	同	二五〇	
五吋	同	二五〇	
三吋	同	二五〇	
三吋半	同	二五〇	
四吋	同	二五〇	
四吋半	同	二五〇	
五吋	同	二五〇	
一寸二分	十五尺以上十八尺位	二四〇	
一寸四分	同	二四〇	
一寸六分	同	二四〇	
一寸八分	同	二四〇	
二寸	同	二四〇	
二分厚	十二尺位	二四〇	
三吋	同	二四〇	
四吋	同	二四〇	
五吋	同	二四〇	
三吋	同	二四〇	
三吋半	同	二四〇	
四吋	同	二四〇	
四吋半	同	二四〇	
五吋	同	二四〇	
一寸二分	十五尺以上十八尺位	二三〇	
一寸四分	同	二三〇	
一寸六分	同	二三〇	
一寸八分	同	二三〇	
二寸	同	二三〇	
二分厚	十二尺位	二三〇	
三吋	同	二三〇	
四吋	同	二三〇	
五吋	同	二三〇	
三吋	同	二三〇	
三吋半	同	二三〇	
四吋	同	二三〇	
四吋半	同	二三〇	
五吋	同	二三〇	
一寸二分	十五尺以上十八尺位	二二〇	
一寸四分	同	二二〇	
一寸六分	同	二二〇	
一寸八分	同	二二〇	
二寸	同	二二〇	
二分厚	十二尺位	二二〇	
三吋	同	二二〇	
四吋	同	二二〇	
五吋	同	二二〇	
三吋	同	二二〇	
三吋半	同	二二〇	
四吋	同	二二〇	
四吋半	同	二二〇	
五吋	同	二二〇	
一寸二分	十五尺以上十八尺位	二一〇	
一寸四分	同	二一〇	
一寸六分	同	二一〇	
一寸八分	同	二一〇	
二寸	同	二一〇	
二分厚	十二尺位	二一〇	
三吋	同	二一〇	
四吋	同	二一〇	
五吋	同	二一〇	
三吋	同	二一〇	
三吋半	同	二一〇	
四吋	同	二一〇	
四吋半	同	二一〇	
五吋	同	二一〇	
一寸二分	十五尺以上十八尺位	二〇〇	
一寸四分	同	二〇〇	
一寸六分	同	二〇〇	
一寸八分	同	二〇〇	
二寸	同	二〇〇	
二分厚	十二尺位	二〇〇	
三吋	同	二〇〇	
四吋	同	二〇〇	
五吋	同	二〇〇	
三吋	同	二〇〇	
三吋半	同	二〇〇	
四吋	同	二〇〇	
四吋半	同	二〇〇	
五吋	同	二〇〇	
一寸二分	十五尺以上十八尺位	一九〇	
一寸四分	同	一九〇	
一寸六分	同	一九〇	
一寸八分	同	一九〇	
二寸	同	一九〇	
二分厚	十二尺位	一九〇	
三吋	同	一九〇	
四吋	同	一九〇	
五吋	同	一九〇	
三吋	同	一九〇	
三吋半	同	一九〇	
四吋	同	一九〇	
四吋半	同	一九〇	
五吋	同	一九〇	
一寸二分	十五尺以上十八尺位	一八〇	
一寸四分	同	一八〇	
一寸六分	同	一八〇	
一寸八分	同	一八〇	
二寸	同	一八〇	
二分厚	十二尺位	一八〇	
三吋	同	一八〇	
四吋	同	一八〇	
五吋	同	一八〇	
三吋	同	一八〇	
三吋半	同	一八〇	
四吋	同	一八〇	
四吋半	同	一八〇	
五吋	同	一八〇	
一寸二分	十五尺以上十八尺位	一七〇	
一寸四分	同	一七〇	
一寸六分	同	一七〇	
一寸八分	同	一七〇	
二寸	同	一七〇	
二分厚	十二尺位	一七〇	
三吋	同	一七〇	
四吋	同	一七〇	
五吋	同	一七〇	
三吋	同	一七〇	
三吋半	同	一七〇	
四吋	同	一七〇	
四吋半	同	一七〇	
五吋	同	一七〇	
一寸二分	十五尺以上十八尺位	一六〇	
一寸四分	同	一六〇	
一寸六分	同	一六〇	
一寸八分	同	一六〇	
二寸	同	一六〇	
二分厚	十二尺位	一六〇	
三吋	同	一六〇	
四吋	同	一六〇	
五吋	同	一六〇	
三吋	同	一六〇	
三吋半	同	一六〇	
四吋	同	一六〇	
四吋半	同	一六〇	
五吋	同	一六〇	
一寸二分	十五尺以上十八尺位	一五〇	
一寸四分	同	一五〇	
一寸六分	同	一五〇	
一寸八分	同	一五〇	
二寸	同	一五〇	
二分厚	十二尺位	一五〇	
三吋	同	一五〇	
四吋	同	一五〇	
五吋	同	一五〇	
三吋	同	一五〇	
三吋半	同	一五〇	
四吋	同	一五〇	
四吋半	同	一五〇	
五吋	同	一五〇	
一寸二分	十五尺以上十八尺位	一四〇	
一寸四分	同	一四〇	
一寸六分	同	一四〇	
一寸八分	同	一四〇	
二寸	同	一四〇	
二分厚	十二尺位	一四〇	
三吋	同	一四〇	
四吋	同	一四〇	
五吋	同	一四〇	
三吋	同	一四〇	
三吋半	同	一四〇	
四吋	同	一四〇	
四吋半	同	一四〇	
五吋	同	一四〇	
一寸二分	十五尺以上十八尺位	一三〇	
一寸四分	同	一三〇	
一寸六分	同	一三〇	
一寸八分	同	一三〇	
二寸	同	一三〇	
二分厚	十二尺位	一三〇	
三吋	同	一三〇	
四吋	同	一三〇	
五吋	同	一三〇	
三吋	同	一三〇	
三吋半	同	一三〇	
四吋	同	一三〇	
四吋半	同	一三〇	
五吋	同	一三〇	
一寸二分	十五尺以上十八尺位	一二〇	
一寸四分	同	一二〇	
一寸六分	同	一二〇	
一寸八分	同	一二〇	
二寸	同	一二〇	
二分厚	十二尺位	一二〇	
三吋	同	一二〇	
四吋	同	一二〇	
五吋	同	一二〇	
三吋	同	一二〇	
三吋半	同	一二〇	
四吋	同	一二〇	
四吋半	同	一二〇	
五吋	同	一二〇	
一寸二分	十五尺以上十八尺位	一一〇	
一寸四分	同	一一〇	
一寸六分	同	一一〇	
一寸八分	同	一一〇	
二寸	同	一一〇	
二分厚	十二尺位	一一〇	
三吋	同	一一〇	
四吋	同	一一〇	
五吋	同	一一〇	
三吋	同	一一〇	
三吋半	同	一一〇	
四吋	同	一一〇	
四吋半	同	一一〇	
五吋	同	一一〇	
一寸二分	十五尺以上十八尺位	一〇〇	
一寸四分	同	一〇〇	
一寸六分	同	一〇〇	
一寸八分	同	一〇〇	
二寸	同	一〇〇	
二分厚	十二尺位	一〇〇	
三吋	同	一〇〇	
四吋	同	一〇〇	
五吋	同	一〇〇	
三吋	同	一〇〇	
三吋半	同	一〇〇	
四吋	同	一〇〇	
四吋半	同	一〇〇	
五吋	同	一〇〇	
一寸二分	十五尺以上十八尺位	九〇	
一寸四分	同	九〇	
一寸六分	同	九〇	
一寸八分	同	九〇	
二寸	同	九〇	
二分厚	十二尺位	九〇	
三吋	同	九〇	
四吋	同	九〇	
五吋	同	九〇	
三吋	同	九〇	
三吋半	同	九〇	
四吋	同	九〇	
四吋半	同	九〇	
五吋	同	九〇	
一寸二分	十五尺以上十八尺位	八〇	
一寸四分	同	八〇	
一寸六分	同	八〇	
一寸八分	同	八〇	
二寸	同	八〇	
二分厚	十二尺位	八〇	
三吋	同	八〇	
四吋	同	八〇	
五吋	同	八〇	
三吋	同	八〇	
三吋半	同	八〇	
四吋	同	八〇	
四吋半	同	八〇	
五吋	同	八〇	
一寸二分	十五尺以上十八尺位	七〇	
一寸四分	同	七〇	
一寸六分	同	七〇	
一寸八分	同	七〇	
二寸	同	七〇	
二分厚	十二尺位	七〇	
三吋	同	七〇	
四吋	同	七〇	
五吋	同	七〇	
三吋	同	七〇	
三吋半	同	七〇	
四吋	同	七〇	
四吋半	同	七〇	
五吋	同	七〇	

三吋半	同	四四五	
四吋	同	四五〇	
五吋	同	四七〇	
六分厚	十五尺以上十八尺位	四八〇	
七分厚	同	四八〇	
八分厚	同	四八〇	
一寸	同	四八〇	
一寸二分	同	四八〇	
一寸五分	同	四八〇	
一寸六分	同	四八〇	
一寸八分	同	四八〇	
二寸	同	四八〇	
二分厚	十二尺位	四八〇	
三吋	同	四八〇	
四吋	同	四八〇	
五吋	同	四八〇	
三吋	同	四八〇	
三吋半	同	四八〇	
四吋	同	四八〇	
四吋半	同	四八〇	
五吋	同	四八〇	
一寸二分	十五尺以上十八尺位	四七〇	
一寸四分	同	四七〇	
一寸六分	同	四七〇	
一寸八分	同	四七〇	
二寸	同	四七〇	
二分厚	十二尺位	四七〇	
三吋	同	四七〇	
四吋	同	四七〇	
五吋	同	四七〇	
三吋	同	四七〇	
三吋半	同	四七〇	
四吋	同	四七〇	
四吋半	同	四七〇	
五吋	同	四七〇	
一寸二分	十五尺以上十八尺位	四六〇	
一寸四分	同	四六〇	
一寸六分	同	四六〇	
一寸八分	同	四六〇	
二寸	同	四六〇	
二分厚	十二尺位	四六〇	
三吋	同	四六〇	
四吋	同	四六〇	
五吋	同	四六〇	
三吋	同	四六〇	
三吋半	同	四六〇	
四吋	同	四六〇	
四吋半	同	四六〇	
五吋	同	四六〇	
一寸二分	十五尺以上十八尺位	四五〇	
一寸四分	同	四五〇	
一寸六分	同	四五〇	
一寸八分	同	四五〇	
二寸	同	四五〇	
二分厚	十二尺位	四五〇	
三吋	同	四五〇	
四吋	同	四五〇	
五吋	同	四五〇	
三吋	同	四五〇	
三吋半	同	四五〇	
四吋	同	四五〇	
四吋半	同	四五〇	
五吋	同	四五〇	
一寸二分	十五尺以上十八尺位	四四〇	
一寸四分	同	四四〇	
一寸六分	同	四四〇	
一寸八分	同	四四〇	
二寸	同	四四〇	
二分厚	十二尺位	四四〇	
三吋	同	四四〇	
四吋	同	四四〇	
五吋	同	四四〇	
三吋	同	四四〇	
三吋半	同	四四〇	
四吋	同	四四〇	
四吋半	同	四四〇	
五吋	同	四四〇	
一寸二分	十五尺以上十八尺位	四三〇	
一寸四分	同	四三〇	
一寸六分	同	四三〇	
一寸八分	同	四三〇	
二寸	同	四三〇	
二分厚	十二尺位	四三〇	
三吋	同	四三〇	
四吋	同	四三〇	
五吋	同	四三〇	
三吋	同	四三〇	
三吋半	同	四三〇	
四吋	同	四三〇	
四吋半	同	四三〇	
五吋	同	四三〇	
一寸二分	十五尺以上十八尺位	四二〇	
一寸四分	同	四二〇	
一寸六分	同	四二〇	
一寸八分	同	四二〇	
二寸	同	四二〇	
二分厚	十二尺位	四二〇	
三吋	同	四二〇	
四吋	同	四二〇	
五吋	同	四二〇	
三吋	同	四二〇	
三吋半	同	四二〇	
四吋	同	四二〇	
四吋半	同	四二〇	
五吋	同	四二〇	
一寸二分	十五尺以上十八尺位	四一〇	
一寸四分	同	四一〇	
一寸六分	同	四一〇	
一寸八分	同	四一〇	
二寸	同	四一〇	
二分厚	十二尺位	四一〇	
三吋	同	四一〇	
四吋	同	四一〇	
五吋	同	四一〇

大正六年九月十四日第三種郵便物認可
建築と社會第八輯第六號附錄

大阪都市計畫地域

附 市街地建築物法組合中域地に關する條項摘要

大阪都市計畫地域

第一　商業地域之部

イ　左記區域內に在る建築物の敷地

一　大阪市內

西　區　內

一、土佐堀通一丁目、同二丁目、同三丁目、同四丁目、同五丁目、土佐堀裏町、江戸堀上通一丁目、同二丁目、江戸堀北通一丁目、同二丁目、同三丁目、同四丁目、同五丁目、江戸堀南通一丁目、同二丁目、同三丁目、同四丁目、同五丁目、京町堀通一丁目、同二丁目、同三丁目、同四丁目、同五丁目、京町堀上通一丁目、同二丁目、同三丁目、同四丁目、同五丁目、阿波堀通一丁目、同二丁目、阿波堀裏町、阿波座中通一丁目、同二丁目、阿波座一番町、同二番町、同三番町、同四番町、阿波座下通一丁目、同二丁目、立賣堀北通一丁目、同二丁目、同三丁目、同四丁目、同五丁目、立賣堀裏町、薩摩堀東之町、同西之町、同南之町、同北之町、同裏町、江ノ子島上之町、同東之町、同西之町、立賣堀南通一丁目、同二丁目、同三丁目、同四丁目、同五丁目、同六丁目、新町北通一丁目、同二丁目、新町通一丁目、同二丁目、同三丁目、同四丁目、同五丁目、新町南通一丁目、同二丁目、同三丁目、同四丁目、同五丁目、裏新町、西長堀北通一丁目、同二丁目、同三丁目、同四丁目、同五丁目、西長堀南通一丁目、同二丁目、同三丁目、同四丁目、同五丁目、北堀江通一丁目、同二丁目、北堀江御池通一丁目、同二丁目、同三丁目、同四丁目、同五丁目、同六丁目、北堀江通一丁目、同二丁目、同三丁目、同四丁目、同五丁目、同六丁目、北堀江一番町、同二番町、同三番町、南堀江通一丁目、同二丁目、同三丁目、同四丁目、同五丁目、同六丁目南堀江上通一丁目、同二丁目、同三丁目、同四丁目、同五丁目、南堀江下通一丁目、同二丁目、同三丁目、同四丁目、西道頓堀通一丁目、同二丁目、同三丁目、同四丁目、同五丁目、同六丁目、幸町通一丁目、同二丁目、同三丁目、同四丁目、同五丁目、南堀江一番町、同二番町、同三番町、松島町一丁目、仲之町一丁目、同二丁目、高砂町一丁目、同二丁目、十返町、本田一番町、同二番町、同三番町、本田町通一丁目、同二丁目、同三丁目、梅本町、川口町、九條北通一丁目、同二丁目、同三丁目、九條通一丁目同二丁目、同三丁目、同四丁目、九條中通二丁目、同三丁目、九條南通二丁目、同三丁目、同四丁目、一條通二丁目、二條通三丁目、同四丁目、三條通二丁目、同三丁目、同四丁目、四條通二丁目、同三丁目、同四丁目、同五條通一丁目、同二丁目、同三丁目の全部

二、松島町二丁目、花園町、九條中通一丁目、同四丁目、九條南通一丁目、北境川町二丁目、同四丁目、南境川町四丁目、市岡町、二條通二丁目ノ一部（圖面表示）

南　區　內

一、順慶町通一丁目、同二丁目、安堂寺橋通一丁目同二丁目、鰹町通一丁目、同二丁目、末吉橋通一丁目、同二丁目、順慶町通三丁目、同四丁目安堂寺橋通三丁目、同四丁目、塩町通三丁目、同四丁目、末吉橋通三丁目、同四丁目、横堀七丁目、心齋橋筋一丁目、鰻谷西之町、大寶寺町西之町、西清水町、北久宝屋町、心齋橋筋二丁目周防町、八幡町、三津寺町、久左衛門町、南炭屋町、長堀橋筋二丁目、千年町、玉屋町、笠屋町、叠屋町、宗右衛門町、長堀橋筋一丁目、鰻谷中之町、大寶寺町中之町、鰻谷東之町、東清水町、大寶寺町東之町、鍛冶屋町、南綿屋町、竹屋町、問屋町、大和町、二ツ井戸町、高津町二番町、同三番町、同四番町、同五番町、同六番町、同七番町、同八番町、同九番町、御蔵跡町、日本橋筋二丁目、同三丁目、同四丁目、同五丁目、高津町十番町、日本橋筋一丁目、東櫓町、阪町、四橋町、九郎右衛門町、難波新地一番町、同二番町、同三番町、同四番町、同五番町、同六番町、難波元町二丁目、同二丁目、同三丁目、同四丁目、同五丁目、難波新川一丁目、同三丁目、難波河原町一丁目、同二丁目、南阪町、木津大國町一丁目同二丁目、木津鷗町一丁目、同二丁目、木津勘助町一丁目、惠美須町二丁目、東關谷町、西關谷町、廣田町、南霞町、北日東町、南日東町の全部

二、內安堂寺町一丁目、同二丁目、同三丁目、上本町二丁目、北桃谷町、谷町六丁目、東賑町、西

脈町、松屋町、瓦屋町一番町、同二番町、同三番町、同四番町、同五番町、難波新川二丁目、難波東側手町、難波東神田町、難波蔵前町、木津敷津町一丁目、同二丁目、同三丁目、木津三島町、惠美須町三丁目、船出町、北高岸町、南高岸町、北霞町下寺町二丁目、同三丁目、同四丁目、天王寺迷阪下之町、天王寺椎寺町、天王寺玉水町、天王寺大道一丁目、天王寺堀越町の一部（圖面表示）

東區　內

一、住吉町、材木町、農人橋詰町、內本町一丁目、同二丁目、內本町橋詰町、高麗橋詰町、豐後町

北濱一丁目、同二丁目、同三丁目、同四丁目、同五丁目、大川町、今橋一丁目、同二丁目、同三丁目、同四丁目、同五丁目、高麗橋一丁目、同二丁目、同三丁目、同四丁目、同五丁目、伏見町一丁目、同二丁目、同三丁目、同四丁目、同五丁目、道修町一丁目、同二丁目、同三丁目

同四丁目、同五丁目、平野町一丁目、同二丁目

同三丁目、同四丁目、同五丁目、淡路町一丁目

同二丁目、同三丁目、同四丁目、同五丁目、瓦町一丁目、同二丁目、同三丁目、同四丁目、同五丁目、備後町一丁目、同二丁目、同三丁目、同四丁目、五丁目、安土町一丁目、同二丁目、同三丁目、同四丁目、本町一丁目、同二丁目、同二丁目、同四丁目、南本町一丁目、同二丁目

同三丁目、同四丁目、唐物町一丁目、同二丁目

同三丁目、同四丁目、北久太郎町一丁目、同二丁目、同三丁目、同四丁目、南久太郎町一丁目

同二丁目、同三丁目、同四丁目、北久寶寺町一丁目、同二丁目、同三丁目、中之島一丁目、同二丁目、同三丁目、同四丁目、同五丁目、博勞町一丁目、同二丁目

同三丁目、同四丁目、同五丁目、北渡邊町、南渡邊町、横堀一丁目、同二丁目、同三丁目、同四丁目、同五丁目、同六丁目、空堀通一丁目の全部

二、神崎町、粉川町、內久寶寺町四丁目、和泉町二丁目、南農人町二丁目、農人橋二丁目、兩替町二丁目、常盤町二丁目、鎰屋町一丁目、同二丁目、德井町一丁目、同二丁目、南新町二丁目、北新町二丁目、糸屋町二丁目、大手通二丁目、內淡路町二丁目、內平野町二丁目、船越町二丁目、釣鐘町二丁目、島町二丁目、石町二丁目、京橋一丁目、同二丁目、同三丁目、谷町三丁目山之下町、清水谷東之町、同西之町、小橋元町下味原町、木野町、舟橋町、東雲町一丁目、同二丁目、同三丁目、南玉造町、中道唐居町、中道鼡門町の一部（圖面表示）

北　區　內

一、相生町、金屋町一丁目、同二丁目、朝日町、信保町一丁目、同二丁目、岩井町一丁目、同二丁目、龍田町、壺屋町一丁目、同二丁目、河內町一丁目、同二丁目、瀧川町、此花町一丁目、同二丁目、市之町、天神筋町、大工町、天神橋筋一丁目、同五丁目、同六丁目、菅原町、鳴尾町樽屋町、地下町、東堀川町、旅籠町、南森町、北森町、綿屋町、末廣町、樋上町、若松町、絹笠町、源藏町、伊勢町、富田町、木幡町、眞砂町、老松町一丁目、同二丁目、同三丁目、堂島濱通一丁目、同二丁目、同三丁目、同四丁目、堂島中一丁目、同二丁目、堂島船入工町、堂島北町、堂島裏一丁目、同二丁目、同三丁目、曾根崎新地一丁目、同二丁目、同三丁目、中之島一丁目、同二丁目、同三丁目、同四丁目、同五丁目、同六丁目、同七丁目、宗是町、常安町、玉江町一丁目、同二丁目、南安治川通一丁目、同二丁目、富島町、古川町、吉山町、東梅ヶ枝町、小松原町、堂山町、西梅ヶ枝町、曾根崎永樂町、曾根崎上一丁目、同二丁目、同三丁目、同四丁目、曾根崎中一丁目、同二丁目東梅田町、上福島南一丁目、同二丁目同三丁目、上福島中一丁目、同二丁目、同三丁目、下福島一丁目の全部

二、網島町、空心町一丁目、同二丁目、天神橋筋三丁目、同四丁目、西堀川町、南安治川通三丁目北錦町、池田町、東扇町、北扇町、角田町、高垣町、太融寺町、萬歲町、道本町、梅田町、西梅田町、下福島二丁目、西野田平松町、西野田草開町の一部（圖面表示）

二　西成郡　內

今宮町の內

一、東田、今池の全部

二、海道、東入船の一部（圖面表示）

中津町の〇

一、大字成小路の一部（圖面表示）

豐崎町の內

一、大字本庄、大字北長柄、大字川崎の一部（圖面表示）

西中島町の內

一、大字山口の一部（圖面表示）

神津町の內

一、大字今里、大字堀、大字小島、大字木川の一部（圖面表示）

三　東成郡　內

天王寺村の內

一、大字天王寺、大字阿部の一部（圖面表示）
平野鄉町の內
一、田畑町、政所町二丁目、同三丁目、同四丁目、同五丁目、梅ヶ枝町二丁目、同三丁目、同四丁目、同五丁目、同六丁目、三十歩町二丁目、同三丁目、本町二丁目、同三丁目、同四丁目、同五丁目、同六丁目、新町二丁目、同三丁目、同四丁目、同五丁目、同六丁目、京町四丁目、同五丁目、同六丁目　住吉町、中町、上町、元町五丁目ノ全部
二、京町二丁目、同三丁目、元町四丁目、同五丁目同六丁目、同七丁目の一部（圖面表示）
住吉村の一部（圖面表示）
墨江村の內
一、大字長狹、大字濱口の一部（圖面表示）
安立町の內
一、大字安立の一部（圖面表示）
左記道路の兩側に於ける建築線に接する建築物の敷地
一、北區茶屋町五十二番地々先より豐崎町大字南濱二百〇八番地々先に至るの路線
二、北區葉村町七十八番地々先より濱化町五番地々先に至るの路線
三、北區吉山町三番地々先より都島橋を經て善源寺町三丁目五十四番地々先に至るの路線
四、東區京橋三丁目六十二番地の一地先より天滿橋南詰を經て京橋一丁目一番地々先に至るの路線
五、南區高津町一番町七十四番地の一地先ヶ東區上本町六丁目百五十六番地の三地先に至るの路線
六、東區東雲町一丁目七十八番地の一地先より南區天王寺區分町百九十一番地々先に至り斜右折し天王寺大道三丁目百九十一番地々先に至り斜右折し天王寺區越町九十九番地々先に至るの路線
七、南區天王寺區分町百四十四番地々先より北百濟村を經て平野鄉町元町六丁目八番地々先に至るの路線
八、南區雜波櫻川町二丁目千〇七十九番地の二地先より芦原橋を經て榮町一丁目二番地の一地先に至り左折し木津大國町を經て惠美須町三丁目百六十番地々先に至るの路線
九、西區幸町通一丁目一番地々先より大正橋西詰に於て斜左折し泉尾町及小林町を經て南恩加島町二番地の七地先に至るの路線
十、前號路線終點より大運橋を經て鶴町二丁目五十五番地々先に至り右折し同四丁目百七十八番地々先に至り右折し新千歲橋を經て小林町百七十番地の二地先に至るの路線
十一、西區松島町二丁目六十三番地々先より花宮橋を經て九條中通一丁目百〇五番地の五地先に至り右折し玉蔵橋夕凪橋及朝潮橋を經て千舟橋四詰に至るの路線
十二、西區北堀川町一丁目二十三番地々先より九條中通四丁目四百二十六番地の二地先に至り左折し玉船橋を經て石田元町二丁目十四番地の二十一地先に至り斜左折し八幡屋町三百五十六番地の五地先に至るの路線
十三、北區新船津橋北詰より西野田玉川町四丁目を經て西野田茶園町七百七十一番地の二地先に至るの路線
十四、北區西野田機甲町一丁目三番地々先より西野田鄉平町を經て西區西九條朝日橋通三丁目三番地々先に至り斜右折し朝日橋を經て千鳥橋南詰に至り斜左折し春日出町及恩貴島南之町を經て島屋町二百六十五番地の一地先に至り左折し櫻島町三十九番地々先に至るの路線
十五、北區上福島中三丁目十七番地先より西野田茶園町を經て鷺洲町大字海老江三百〇二番地の八地先に至るの路線及國道第二號線の內新淀川右岸より兵庫縣界に至るの區間
十六、北區浪花町五番地々先より豐崎町大字南濱二百〇八番地々先に至るの路線
十七、北區登口橋東詰まり上福島北三丁目六十一番地々先に至り左折し福島橋を經て中津町大字光立寺二百十番地の一地先に至るの路線
十八、北區神山町五十九番地々先より萬歲町二十四番地々先に至り斜右折し葉村町を經て豐崎町大字南濱四十三番地の一地先に至るの路線
十九、北區中崎町百二十番地々先より濱花町三十一番地々先に至るの路線
二十、北區天神橋筋三丁目三十五番地の一地先より空心町二丁目六十二番地の一地先に至るの路線
二十一、北區空心町二丁目八十三番地々先より天神橋筋三丁目二番地の一地先に至り右折し天神橋筋四丁目五十番地の一地先に至るの路線
二十二、北區天神橋筋六丁目一番地々先より長柄橫南詰に至るの路線
二十三　北區東野田町二丁目三百八十五番地の五地先より東野田町四丁目二百十番地の三地先に至るの路線
二十四、東區島町二丁目十七番地の一地先より谷町一丁目二十三番地の一地先に至るの路線
二十五、東區京橋三丁目六十二番地の一地先より德井町二丁目十番地々先に右折し谷町三丁目

四番地の一地先に至るの路線

二十六、東區谷町三丁目三十四番地の一地先より法圓阪町一番地々先に至るの路線

二十七、東區谷町三丁目九番地の甲地先より鎗屋町二丁目十一番地々先に至り左折し南區内安堂寺町三丁目二十七番地々先に至り左折し同一丁目一番地の二地先に至り右折し東區東雲町三丁目二百五十八番地の二地先に至り左折し中道黒門町二百十三番地々先に至るの路線

二十八、東區空堀通一丁目八十三番地の四地先より空堀通二丁目六十一番地の三地先に至るの路線

二十九、南區九屋町一番町三番地々先より東區空堀通三丁目二百三十一番地の一地先及同二丁目四十九番地の四十六地先を經て東雲町一丁目九十八番地の一地先に至るの路線

三十、東區上本町九丁目二百三十四番地の一地先より南區天王寺堂ヶ芝町百〇六番地々先に至るの路線

三十一、南區谷町六丁目二番地の一地先より天王寺堀越町十四番地々先に至るの路線

三十二、今宮町大字今池千〇六十一番地の一地先に至り同町大字今池千〇六十一番地の一地先より路線

三十三、南區惠美須町三丁目百十八番地の三地先より同町十一番地々先に至り左折し同町十番地々先に至り右折し今宮町及安立町を經て大和橋北詰に至るの路線

三十四、西區市岡町三百五十六番地の一地先より同町二百九十三番地の六十四地先に至るの路線

三十五、西區新池田町一番地の一地先より田中町四番地の二地先に至るの路線

三十六、西區春日出町百五十一番地の二地先より恩貴島橋南詰に至るの路線

三十七、北區北安治川通二丁目二十二番地々先より西區四九條朝日橋通二丁目二十七番地々先に至るの路線

三十八、北區安治川上通二丁目二十三番地々先より四野田大野町二丁目九十番地々先に至るの路線

三十九、北區四野田今開町二丁目六十番地々先より四野田玉川町四丁目八十六番地々先に至るの路線

四十、北區下福島三丁目十二番地々先より四野田錦平町五十六番地々先に至るの路線

四十一、北區四野田龜甲町一丁目九十番地々先より四野田平松町二十五番地の一地先に至り左折し下福島二丁目三番地々先に至り右折し同町七十七番地々先に至り右折し同町百二十八番地々先に至るの路線

八、大正九年一月二十一日大阪市告示第一號、大阪市區改正計街路の部及大正十三年十一月二十九日官報を以て公告せる大阪都市計畫街路の新設及擴築の部中左記道路の兩側に於ける建築線に接する建築物の敷地

一、一等大路第三類第二號線（松屋町筋線）
二、一等大路第三類第四號線（梅田十三線）
三、一等大路第三類第五號線（堂島十三線）
四、一等大路第三類第七號線（鶴橋線）
五、一等大路第三類第十號線（難波住吉線）
六、一等大路第三類第十二號線（長堀線）
七、一等大路第三類第十三號線（逢阪線）
八、一等大路第三類第十四號線（天神橋西筋線）
九、一等大路第三類第十五號線（北野線）
十、一等大路第三類第十六號線（天滿谷町線）
十一、一等大路第三類第十七號線（泉尾市岡線）
十二、一等大路第三類第十八號線（春日出傳法線）
十三、一等大路第三類第二十號線（法圓阪町線）の內東區法圓阪町一番地々先より終點に至るの區間
十四、一等大路第三類第二十一號線（阿部野線）
十五、一等大路第三類第二十二號線（善源寺野江線）
十六、一等大路第三類第二十三號線（玉造野江線）の內起點より東區森之宮東之町三百九十一番地の一に至るの區間及一等大路第三類第二十四號線交叉點より終點に至るの區間の
十七、一等大路第三類第二十四號線（天滿浦生線）の內起點より天滿橋筋二丁目十九番地に至るの區間及澱川左岸より終點に至るの區間
十八、一等大路第三類第二十五號線（猪飼野線）
十九、一等大路第三類第二十六號線（梅ヶ枝町線）
二十、二等大路第一類第一號線
二十一、二等大路第一類第二號線
二十二、二等大路第一類第四號線の內起點より住吉川右岸に至るの區間
二十三、二等大路第一類第五號線
二十四、二等大路第一類第六號線の內西區春日出橋北詰より終點に至るの區間
二十五、二等大路第一類第七號線の內北區西野田下島町に屬する部分を除きたる區間
二十六、二等大路第一類第十四號線（木津電町線）
二十七、二等大路第一類第十五號線の內二等大路第一類第四號線交叉點より終點に至るの區間
二十八、二等大路第一類第十六號線（澤上江町線）の內起點より澤上江町六丁目三十二番地の一に至るの區間及同四丁目百〇八番地より終點に至るの區

間

二十九、二等大路第一類第十九號線、

三　十、二等大路第一類第二十號線の内起點より二等大路第一類第四號線交叉點に至るの區間

三十一、二等大路第一類第二十一號線（九條市岡線）

三十二、二等大路第二類第二號線の内起點より二等大路第一類第四號線交叉點に至るの區間、西區田中町三十九番地の三より石田町一丁目五十一番地の一に至るの區間及島屋町三百五十二番地の三より經點に至るの區間

三十三、二等大路第二類第四號線（江戸堀十三線）三十四二等大路第二類第五號線の内西區辰巳橋西詰より田中町四番地の二に至る區間

三十五、二等大路第二類第十一號線（平野町線）

三十六、二等大路第二類第十二號線（久寶寺町線）

三十七、二等大路第二類第十三號線（堀江玉造線）

三十八、二等大路第二類第十七號線（富田屋橋筋線）

三十九、二等大路第二類第十八號線（江戸堀西濱線）の内起點より南區雛波久保吉町千二百六十番地の四に至るの區間

第二　工業地域之部

左記區域内に在る建築物の敷地但し第一商業地域之部に掲くるもの之を除く

一　大阪市内

西區内

一、三軒家濱通三丁目、同四丁目、大正通五丁目、三軒家東三丁目、三軒家町一丁目、同二丁目、同三丁目、中口町、今木町、雛波島町、北恩加島町、新千歳町、福町一丁目、同二丁目、鶴町一丁目、同二丁目、同三丁目、同四丁目、鶴濱通一丁目、同二丁目、同三丁目、小林町、北福崎東之町、南福崎町一丁目、同二丁目、同三丁目、同四丁目、新福崎町一丁目、同二丁目、千島町、新炭屋町、南恩加島町、船町、平尾町、木屋町、石田椿町、石田外村町一丁目、同二丁目、石田町一丁目、同二丁目、石田神樂町、川岸町、恩貴島南之町、島屋町、北安治川通四丁目、櫻島町、天保町、一條通一丁目、二條通一丁目、同二丁目、三條通一丁目、四條通一丁目六條通一丁目、同二丁目、同三丁目、七條通一丁目、同二丁目、同三丁目、八條通一丁目、同二丁目、同三丁目、北海岸通、南海岸通一丁目同二丁目、同三丁目、出崎町一丁目、同二丁目同三丁目、南海岸通二丁目地先埋立地、同三丁目、地先埋立地の全部

二、三軒家濱通二丁目、大正通四丁目、三軒家東二丁目、三軒家櫨町二丁目、三軒家市場通二丁目泉尾町、新池田町、市岡町、池山町、浜屋町、石田元町一丁目、同二丁目、同三丁目、田中町八幡屋町、春日出町、四貫島町、西野上之町、同卜之町、西九條朝日橋通三丁目　西九條下通一丁目、二條通二丁目の一部（圖面表示）

南區内

一、西濱北通四丁目、木津川町三丁目の全部

二、西濱北通三丁目、雛波芦原町、雛波久保吉町、木津川町二丁目、榮町一丁目の一部（圖面表示）

北區内

一、天滿橋筋五丁目、同六丁目、北安治川通三丁目南安治川通三丁目、善源寺町二丁目、北錦町、池田町、國分寺町、樋ノ口町、西野田上島町、西野田下島町、西野田嬉ケ崎町、西野田大開町二丁目、同四丁目の全部

二、天滿橋筋四丁目、北安治川通二丁目、東野田町七丁目、善源寺町四丁目、南錦町、西野田出茶園町西野田新家町一丁目、同二丁目、西野田大開町一丁目、同三丁目の一部（圖面表示）

二　西成郡内

傳法町の全部

津守村の一部（圖面表示）

鷺洲町の内

一、大字大仁、大字浦江、大字海老江の一部（圖面表示）

中津町の内

一、大字光立寺、大字下三番の一部（圖面表示）

豐崎町ノ内

一、大字北長柄、大字南長柄の全部

一、大字本庄の一部（圖面表示）

西中島町の内

一、大字淡路、大字西、大字山口の一部（圖面表示）

豐里村の内

一、大字菅原の一部（圖面表示）

大道村の一部（圖面表示）

中島村の全部

新庄村の全部

北中島村の内

一、大字蒲田、大字十八條、大字北宮原、大字南宮原、大字宮原新家の全部

二、大字東宮原の一部（圖面表示）

神津町の内

一、大字三津屋、大字堀上、大字野中、大字新在家の全部

二、大字今里、大字堀大字小島の一部（圖面表示）

歌島村の内

一、大字加島大字御幣島の全部
二、大字野里の一部(圖面表示)
　稗島町の一部(圖面表示)
　千船町の全部
　川北村の全部
　福村の全部
三、東成郡内
　城東村の内
一、大字鴫野の一部(圖面表示)
　榎本村の内
一、大字今津、大字下辻、大字放出の一部(圖面表示)
　鯰江町の内
一、大字新喜多、大字蒲生、大字今福、大字布屋の一部(圖面表示)
　榎並町の内
一、大字野江里角の全部
二、大字野江東之町の一部(圖面表示)
　城北村の内
一、大字友渕、大字毛馬の全部
二、大字赤川の一部(圖面表示)
　墨江村の内
一、大字濱口の一部(圖面表示)
　敷津村の内
一、大字柴谷、大字釜口の全部
二、大字北加賀屋、大字鍛木、大字南加賀屋、大字北島の一部(圖面表示)
　敷津村地先埋立地の全部
四、豐能郡内
　庄内村の内
一、大字猿江、大字洲到止、大字島江の全部
二、大字牛立、大字庄本の一部(圖面表示)
　小曾根村の内
一、大字小曾根、大字濱、大字長島の一部(圖面表示)
　豐津村の内
一、大字榎坂、大字垂水の一部(圖面表示)
五　三島郡内
　吹田町の一部(圖面表示)

第三　住居地域之部

左記區域內に在る建築物の敷地、但し第一商業地域及第二工業地域之部に掲くるものを除く

一　大阪市内

　西區内

一、春日出町、四貫島町の全部
二、新池田町、市岡町、田中町の一部(圖面表示)

　南區内

一、內安堂寺町一丁目、同二丁目、同三丁目、上本町二丁目、同三丁目、南桃谷町、北桃谷町、谷町六丁目、同七丁目、空堀町、田島町、東賑町、西賑町、松屋町、瓦屋町一番町、同二番町、同三番町、同四番町、同九番町、高津町一番町、惠美須町一丁目、北霞町、上本町七丁目、下寺町二丁目、同三丁目、同四丁目、天王寺逢阪上之町、同下之町、天王寺生玉前町、天王寺六萬体町、天王寺椎寺町、天王寺元町、天王寺生玉寺町、天王寺夕陽丘町、天王寺伶人町、天王寺玉水町、天王寺大道一丁目、同二丁目、同三丁目、同四丁目、同五丁目、天王寺堀越町、天王寺茶臼山町、天王寺悲田院町、天王寺北河原町、天王寺南河原町、天王寺寺田町、天王寺勝山通一丁目、同二丁目、同三丁目、同四丁目、天王寺眞法院町、天王寺烏ヶ辻町、天王寺小宮町、天王寺上之宮町、天王寺北山町、天王寺石ヶ辻町、天王寺松ヶ鼻町、天王寺堂ヶ芝町、天王寺東上町、天王寺國分町の全部
二、天王寺筆ヶ崎町、天王寺細工谷町の一部(圖面表示)

　東區内

一、法圓阪町、廣小路町、上本町一丁目、龍造寺町十二軒町、神崎町、粉川町、內久寶寺町一丁目同二丁目、同三丁目、同四丁目、和泉町一丁目同二丁目、南農人町一丁目、同二丁目、農人橋一丁目、同二丁目、兩替町一丁目、同二丁目、常盤町一丁目、同二丁目、鎰屋町一丁目、同二丁目、德井町一丁目、同二丁目、南新町一丁目同二丁目、北新町一丁目、同二丁目、糸屋町一丁目、同二丁目、大手通一丁目、同二丁目、內淡路町一丁目、同二丁目、內平野町一丁目、同二丁目、船越町一丁目　同二丁目、釣鐘町一丁目、同二丁目、島町一丁目、同二丁目、石町一丁目、同二丁目、京橋一丁目、同二丁目、同三丁目、谷町一丁目、同二丁目、同三丁目、同四丁目、同五丁目、京橋前之町、大手前之町、馬場町、谷町八丁目、同九丁目、西高津中寺町生玉町、下寺町一丁目、東平野町一丁目、同二丁目、同三丁目、同四丁目、同五丁目、同六丁目同七丁目、同八丁目、同九丁目、同十丁目、上綿屋町、上本町八丁目、同九丁目、同十丁目、同五丁目、同六丁目、東高津北之町、同南之町餌差町、上本町四丁目、八丁目中寺町、八丁目東寺町、小橋寺町、山小橋町、宰相山町、山之下町、清堀町、空堀通二丁目、同三丁目、清水谷東之町、同西之町、寺山町、小橋元町、小橋

東之町、同西之町、咏原町、下咏原町、舟橋町
東雲町一丁目、同二丁目、同三丁目、仁右衞門
町、岡山町、玉造町、八尾町、半入町、元伊勢
町、左官町、越中町、紀伊國町、南玉造町、森
之宮西之町の全部

二、杉山町、木野町、東阪町、玉姫町、北國分町、
森之宮東之町、中道黒門町、中道川西町の一部
（圖面表示）

北區内

一、野田町、綱島町、川崎町、白屋町、今井町、天
滿橋筋一丁目、同二丁目、空心町一丁目、松ケ
枝町、紅梅町、西堀川町、東野田町一丁目、同
二丁目、同三丁目、同四丁目、同五丁目、同六
丁目、同七丁目、同八丁目、同九丁目、中野町
一丁目、同二丁目、同三丁目、同四丁目、同五
丁目、澤上江町一丁目、同二丁目、同三丁目、
同四丁目、同五丁目、同六丁目、同七丁目、同
八丁目、同九丁目、同十丁目、善源寺町一丁目
同三丁目、同四丁目、同五丁目、同六丁目、同
七丁目、同八丁目、同九丁目、同十丁目、東寺
町、出屋町、東扇町、北扇町、西扇町、西寺町
一丁目、同二丁目、小深町、茶屋町、角田町、
高垣町、神山町、太融寺町、兎我野町、野崎町
中崎町、黒崎町、浮田町、葉村町、烏歳町、舟
場町、道木町、山崎町、鶴野町、濱崎町、上福
島北一丁目、同二丁目、同三丁目、同四丁目、
下福島二丁目、西野田平松町、西野田草開町、
西野田玉川町一丁目、同二丁目、同三丁目、同
四丁目、西野田龜甲町一丁目、同二丁目、西野
田中江町、西野田今開町一丁目の全部

二、新川崎町、天滿橋筋三丁目、空心町二丁目、天
神橋筋三丁目、南同心町一丁目、同二丁目、佐
藤町、芝田町、浪花町、北梅田町、西梅田町、
下福島三丁目、西野田江成町、西野田大野町一
丁目、同二丁目、西野田對込町、西野田狹平町
西野田茶園町ノ一部（圖面表示）

二　西成郡内

粉濱村の一部（圖面表示
玉出町の一部（圖面表示）
今宮町ノ内

一、南吉田、北吉田、南神谷、東今船、西今船、柳
通一丁目の全部

二、曳船、東皿池、西皿池、柳通二丁目、櫻通一丁
目、橘通一丁目、同二丁目ノ一部（圖面表示）

鷺洲町の内

一、大字浦江、大字海老江、大字福本の全部
中津町の内

一、大字成小路の全部
豐崎町の内

一、大字本庄、大字南濱、大字川崎の一部
（圖面表示）

西中島町の全部
豐里村の内

一、大字菅原の全部

二、大字橋寺、大字三番、大字天王寺庄の一部
（圖面表示）

大道村の一部（圖面表示）
北中島村の全部
神津町の全部
歌島村の全部
稗島町の全部

三　東成郡内

天王寺村の内

一、大字阿部野の全部

二、大字天王寺の一部（圖面表示）
生野村の全部
鶯橋町の内

一、大字岡の全部

二、大字天王寺、大字猪飼野の一部（圖面表示）
神路村の内

一、大字深江の一部（圖面表示）
小路村の内

一、大字中川、大字腹見、大字大友の全部

二、大字片江の一部（圖面表示）
城東村の内

一、大字天王田、大字左堺道、大字永田の一部
（圖面表示）

鯰江町の内

一、大字新喜多の一部（圖面表示）
榎並町の内

一、大字野江南之町の全部

二、大字野江中之町、大字内代の一部（圖面表示）
平野鄕町の内

一、大字平野流、大字平野背戸口、大字平野西脇の
全部

二、大字平野堂、大字平野市、大字平野泥堂、大
字平野馬塲の一部（圖面表示）
喜連村の全部
北百濟村の全部
南百濟村の全部
田邊町の全部
依羅村の全部
長居村の全部

住吉村の全部
墨江村の内
一、大字長峡、大字上住吉、大字千躰、大字殿辻、大字澤の口大字遠里小野、大字南濱口の全部
二、大字島、大字濱口の一部（圖面表示）
安立町の内
一、大字安立の全部
二、大字七道領の一部（圖面表示）
四中河内郡内
巽村の内
一、大字矢柄、大字伊賀夕、大字四足代、大字大地の全部
二、大字四條の一部（圖面表示）
矢田村の全部
爪破村の全部
五豐能郡内
庄内村の内
一、大字野田、大字三屋、大字牛立、大字島田、大字庄本の一部（圖面表示）
南豐島村の全部
小曾根村の内
一、大字寺内、大字石蓮寺、大字北條、大字長島の全部
二、大字小曾根、大字濱の一部（圖面表示）
豐津村の内
一、大字榎阪、大字垂水の一部（圖面表示）
中豐島村の全部
六三島郡内
千里村の全部

市街地建築物法抜萃

（大正八年四月四日法律第三十七號）

第一條　主務大臣は本法を適用する區域内に住居地域、商業地域、又は工業地域を指定することを得
第二條　建築物にして住居の安寧を害する虞ある用途に供するものは住居地域内に之を建築することを得す
第三條　建築物にして商業の利便を害する虞ある用途に供するものは商業地域内に之を建築することを得す
第四條　工場倉庫其他之に準すへき建築物にして規模大なるもの又は衛生上有害若くは保安上危險の虞ある用途に供するものは工業地域内に非されは之を建築することを得す
主務大臣必要と認むるときは前項の建築物にして著しく衛生上有害又は保安上危險の虞ある用途に供するものに付ては工業地域内に於て其の建築に付特別地區を指定することを得
第五條　前三條に規定する建築物の種類は勅令を以て之を定む
第六條　前四條の規定の適用に付ては新に建築物の用途を定め又は建築物を他の用途に供するときは其の用途に供する建築物を建築するものと看做す
第六條　本法適用區域の設定若は變更、地域若は地區の指定若は變更其の他の場合に於て從來存在する建築物が其の後新に建築せられたりせは本法又は本法に基きて發する命令に違反すべきものなるときは行政官廳は相當の期間を指定し其の建築物に付前條に掲くる必要なる措置（註－除却、改築、修繕、使用禁止、使用停止其の他）を命することを得
前項の規定に依る措置を命するときは勅令の定むる所に依り建築物所在地の公共團體をして損失を補償せしむ
前項の規定に依り補償を受くべき者補償金額に付不服あるときは其の金額決定の通知を受けたる日より三月内に通常裁判所に出訴することを得、此の場合に於ては訴願し又は行政裁判所に出訴することを得ず

住居地域

内に建築することを得ざる建築物

建築物法施行令に依るもの（大正九年九月二十九日勅令第四百三十八號）

一、常時十五人以上の職工を使用する工場、常時使用する原動機馬力數の合計二を超過する工場又は汽罐を使用する工場
但し例外あり
二、五噸以上の自動車を常時收用する車庫
三、劇場、活動寫眞館、寄席又は觀物場
四、待合又は藝座敷
五、倉庫業を營む倉庫
六、火葬場
七、屠場
八、塵埃燒却場

（以上令第一條）

住居地域

内に建築することを得ざる建築物

建築物法施行細則に依るもの（大正九年十二月一日大阪府令第九十四號）

一、玩具用普通火工品、鍛冶、金屬薄板細工（玩具類を除く）石細工、組紐、莫大小、起毛、紫綿精製又は疊の作業場
二、高六十尺以上の煙突を使用する作業場
三、活動寫眞の撮影場、遊覽所又は遊戲場（撞球場及大弓場を除く）
四、待合茶屋、席貸、料理屋又は飲食店（料理屋及飲食店にありては單に飲食物を供給するものを除く）
五、勸商場、火藥商店又は煙火商店
六、射的場
七、精神病院、傳染病院、隔離病舍、隔離所又は消毒所
八、常時五頭以上の馬、三頭以上の牛又は營業の爲牛馬を收容する牛舍、厩、牛馬市場、搾乳場若は家畜病舍
九、禽畜飼養場
一〇、死畜取扱場
一一、肥料藏置所又は乾魚藏置所
一二、未消毒屑物の取扱又は貯藏所
但し例外あり

（以上細則第二條）

商業地域

内ニ建築スルコトヲ得ザル建築物

建築物法施行令ニ依ルモノ（大正九年九月二十九日勅令第四百三十八號）

一、常時五十人以上の職工を使用する工場又は常時使用する原動機馬力數の合計十を超過する工場
但し日刊新聞印刷所其他例外あり
二、火葬場
三、屠場
四、塵埃燒却場

（以上令第二條）

商業地域

内に建築することを得ざる建築物

建築物法施行令ニ依ルモノ（大正九年九月二十九日勅令第四百三十八號）

一、高六十尺以上の煙突を使用する作業場
二、射的場
三、禽畜飼養場
四、死畜取扱場
五、未消毒屑物の取扱所又は貯藏所
六、搾乳場又は家畜病舍
但し例外あり

（以上細則第三條）

工業地域

内に非ざれば建築することを得ざる建築物

建築物法施行令ニ依ルモノ（大正九年九月二十九日勅令第四百三十八號）

一、常時百人以上の職工を使用する工場又は常時使用する原動機馬力數の合計三十を超過する工場

但し例外あり

二、左に揭ぐる事業を營む工場

イ、銃砲火藥類取締法の火藥類の製造

ロ、鹽素酸鹽類、過鹽素酸鹽類「ピクリン」酸……（此間省略）石油類其他之に類する引火性又は發火性物品の製造

ハ、硫黄、沃度、「ブローム」、……（此間省略）……「グアヤコール」等、其の製造に際し有臭又は有害の瓦斯又は廢液を生ずる物品の製造

ニ、水銀を用ゐる計器の製造

ホ、燐寸の製造

ヘ、金屬の熔融又は精煉

ト、乾燥油又は熔劑を用ゐる凝革紙布、防水紙布の製造

チ、肥料の製造

リ、動物質原料の化製

ヌ、製革又は毛皮の精製

ル、骨角又は貝殻の乾燥研磨

ヲ、製油又は製蠟

ワ、染料顔料又は塗料の製造

カ、煉瓦又は陶坩の製造

ヨ、「アスファルト」の製造

タ、「セメント」石膏、石炭、瓦製石灰、炭化石灰又は石灰窒素の製造

レ、古綿又は屑糸類の精製

ソ、礦石類、黒鉛、硝子、煉瓦、陶磁器等の粉碎

ツ、石炭瓦斯又は壓縮瓦斯の製造

ネ、「コークス」の製造

ナ、石炭「タール」、木「タール」、石油蒸餾産物又は其の殘渣を原料とする製造

ラ、石鹽の製造

ム、製紙

ウ、溶解を用ゐる醱酵製品の製造

ヰ、鋼釘又は鋼球の製造

ノ、汽罐の製造

オ、金屬の壓延又は伸線

ク、炭素の製品の製造

但し例外あり

三、前記イ、ロ、ホ、リ及レの物品の貯藏又は處理に供するもの、但し例外あり（以上令第三條）

工業地域

内ニアラザレバ建築スルコトヲ得ザル建築物

建築物法施行令ニ依ルモノ（大正九年九月二十九日勅令第四百三十八號）

一、風呂屋、湯沸屋、鐵造煙突類の工場

二、「ボイル」油、瓦、土管類の工場

三、棉花、落綿、古麻布、古麻袋、古敷物、古俵、紙屑、皮革、獸毛、羽毛、穀類、粉類、豆粕藁等を貯藏する建築面積百坪以上の倉庫、納屋及ト屋

四、前號の物品の處理に供する建築面積五十坪以上のもの

五、鹽素酸鹽類、過鹽素酸鹽類「ピクリン」酸……（此間省略）……石油類其他之に類する引火性又は發火性物品の加工工場（以上細則第四條）

六、周圍の狀況又は構造設備に依り以上各號に該當するも特に除外せらるゝ場合あり（細則第十五條）

未指定地域

内に建築することを得ざる建築物

建築物法施行細則ニ依ルモノ（大正九年十二月一日大阪府令第九十四號）

一、工業地域内に非ざれば建築することを得ざる建築物

一、同上

地域適用上ノ緩用條項

（大正十二年八月二十九日勅令第三百九十五號）

地域又は工業地域内特別地區の指定又は變更の際現在に存在する建築物にして令第一條乃至第三條の規定に依り現在地に建築することを得ざる種類に屬するものは其の指定又は變更の日より十年間を限り其の敷地又は建築物を基準とし左記各號の制限内に於て増築改築又は用途の變更を爲すことを妨げず（行政官廳の許可を要す）

一、原敷地を超えて増築又は改築せざること

二、増加すべき建築面積は五割以内

三、増加すべき床面積は十割以内

（以上令第三條の二）

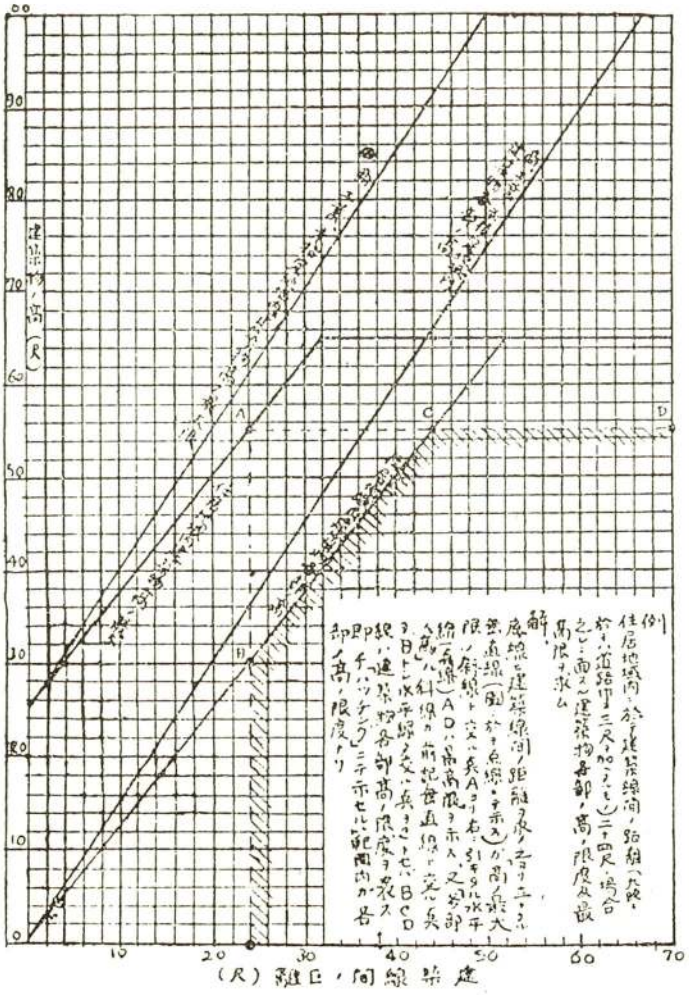
地域ニ依ル建築面積及建築物高ノ最大限

地域別	建築面積の最大限（敷地面積に對する割合）		建築物高の最大限	
		例外アリ（令第十四條）		例外アリ（令第四條）
住居地域	六割		六十五尺	
商業地域	八割		百尺	
工業地域	七割		百尺	
未指定地	七割		百尺	

道路巾ト建築物高ノ限度圖表

（令第四條及第七條）

但し例外あり



損失補償の場合

地域の又は工業地域内特別地區の指定又は變更に基き建築物の使用禁止又は建築の物内主要構造部の除却を命じたる場合（令第十七條）

●第八集　第六号　掲載広告一覧（掲載順）

井上幸三商店
飾磨化学工業
大野正営業所
日本エレベーター製造
浅野スレート販売
小原鉄工商事
宇部セメント製造
政正
玲光社
メタルラス社
石綿スレート大阪支店
二和商会
南満鉱業
日本セメント防水剤製造所
大正練革塗工業所
浅野物産
ベニア商会
木下商店
丸三セメント工業所
田村商会
関西大理石工業所
日本メタルラス製造所

HANKEN　SEISAKUSYO
東亜鉄工所
大平工業所
油脂化工社
日本ホロタイル
駒崎化学建材研究所
湯浅蓄電池製造
東洋コルク工業
KENSEISHOKAI
日本建築紙工大阪出張所
東亜ペイント製造
小野田セメント製造
原田商会
浅野スレート販売大阪出張所
チョイント商会
日米工務所
野沢幸三郎商店
日本洋瓦大阪出張所
金剛商会
高木鉄工所
葵商会
開運スレート商会

中村グラニット商会
山口リノタイト商会
桐田商会
日本ペイント製造
米山製作所
阿部鉄工所
長田商店
建築金物商会
島田硝子製造所
森川組
田中昌司商店
大福海上火災保険
大阪鉄管商会
城口研究所
出浦建築事務所
新海建築工務所
大阪建築相談所
小笠原建築事務所
岡部顯則建築事務所
大阪建築所
和田建築事務所
葛野建築事務所
片岡建築事務所
横河工務所

横浜建築事務所
竹内建築事務所
宗建築事務所
国枝工務所
野村、橋本建築事務所
安井武雄建築事務所
柳下建築事務所
増田清建築事務所
前田松本建築事務所
真水工務所
真水三橋建築事務所
遠藤於菟
木子建築事務所
設楽建築工務所
西原衛生工業所大阪支店
大阪窯業
池田勘蔵
大倉土木大阪出張所
大阪橋本組
大林組
竹中工務店
長瀬組
中新
佐伯工務所

野村組
久保田組
熊取谷熊次郎
山本組
松村組
藤木工務店
正木工務店
岡本工務店
鴻池組
有山組
駒井喜商店
安藤組大阪出張所
辰巳吉之助
森本建築社
清水組大阪支店
銭高組
山田大理石製作所
矢橋大理石商店
大阪耐火リノリウム工業
須賀商会
栄進社
松尾
新田ベニヤ製造所
大阪青写真調製所

山本窯業商店
常盤貿易商会
高島屋呉服店
サカイブン建築鉄工所
浅海商店
日本アスベスト
ベニス工房
武藤正雄商店
セール、フレザー
星製薬
河村青写真調製所
境川文庫
東京建鉄
日本工剤
内外土木建築材料
長山施工店
日本耐火スレート
日米板硝子
日本木材工芸
カール・ツアイス
熊谷組
三宅茂雄商店
田中源太郎商店
極東硝子工業